会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">令和７年度第１回つくば市生涯学習審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和７年６月 27 日（金）　開会午後２時 30 分　閉会午後４時</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">つくば市役所　201 会議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td colspan="3">教育局生涯学習推進課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">武田 直樹委員（会長）、石川 由美子委員、石塚 一夫委員、
黒崎 博委員、後藤 真紀委員、鈴木 朱里委員、
田中 秀夫委員、田中 依子委員、中嶋 修委員、
福井 正人委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">森田 充教育長</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">久保田 靖彦教育局長、柳町 優子次長、
澤頭 由紀子生涯学習推進課長、山口 健次参事、
瓜阪 恵理名課長補佐、松橋 千栄係長、小宅 剛主事、
大久保 竣介主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開・非公開の別</td><td>■公開 □非公開 □一部公開</td><td>傍聴者数</td><td>１名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非公開の場合はその理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議題</td><td colspan="3">(1) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績について
(2) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度事業計画について
(3) （仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について</td></tr>
<tr><td>会議次第</td><td colspan="4">１　開会
２　挨拶
３　議事
(1) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績について
(2) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度事業計画について
(3) （仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画 修正骨子案について
４　そのほか</td></tr>
</table>

	5　閉会
1　開会	
事務局（瓜阪）	皆様こんにちは。予定されていた委員の皆さんがお揃いですので、ただいまから、令和７年度第１回つくば市生涯学習審議会を開会します。つくば市教育局生涯学習推進課の瓜阪と申します。本日司会をいたします。よろしくお願いいたします。
2　挨拶	
事務局（瓜阪）	始めに、教育長の森田から皆様に挨拶申し上げます。 森田教育長、よろしくお願いします。
森田教育長	皆様こんにちは。教育長の森田でございます。本日もお忙しいところ、お集まりをいただきましてありがとうございます。今回の審議会では、例年１回目の審議会で実施しております、第３次つくば市生涯学習推進基本計画の前年度の実績の評価と、それから今年度の計画の内容について議論をいただきたいというふうに思っております。また、前年度から進めております第４次計画についても議論をお願いしたいというふうに思います。本日は前回の審議会でいただいた御意見などを反映して、骨子、それから施策の方向性についての案をお示ししたいと思いますので、御意見を頂戴したいと思います。現計画であります第３次の生涯学習推進基本計画は、今年度が最終年度というふうになりますので、この第３次計画は、つくば市の教育の根幹であるつくば市教育大綱に基づいた計画であり、つくばの教育が目指すものとして大切にしている考え方である「多様で豊かな個性が花開く環境づくり」と、「『善き生の実現能力』と『社会力を育てる』」ことを計画に反映しています。第４次計画でも引き続き、一人ひとりが幸せな人生を送ることができるような

	生涯学習の取組を充実させて参りたいというふうに考えております。ぜひ皆様から忌憚のない御意見を頂戴しまして、より良い計画として反映させていきたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
３　議事	
事務局（瓜阪）	続きまして、次第の３　議事に進みます。議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第６条第２項に、会長は会議の議長となると定められていますので、武田会長に議事を進めていただきます。本日の出席委員は 12 名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。また、本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、公開いたします。それでは武田会長お願いいたします。
	（１）第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績について
武田会長	会長の武田です。早速議事に入ります。よろしくお願いします。まず議事３の１は、第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績についてです。事務局から御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	事務局の松橋と申します。よろしくお願いします。資料についての説明と、事前に委員の皆様からいただいた御質問につきまして、担当課へ問い合わせをしましたので、回答を説明させていただきます。まず、資料１－１から２－２について御説明いたします。議事１の第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績について説明いたします。使う資料は先ほど申し上げましたが、資料１－１から２－２です。現在、第３次つくば市生涯学習推進基本計画は、資料１－１の①、②にある２種類の評価を行っています。４つの施

	策の柱があり、さらに、それぞれの施策の柱から施策の方向性を系統づけて、庁内全体にわたる 34 の事業が、施策の方向性に位置づけられており、その進捗状況の点検評価を担当課に事業単位で作成していただいています。それをまとめたものが資料２－２になります。資料２－１では資料２－２に基づき、施策の方向性ごとに、事務局である生涯学習推進課で評価をしています。評価基準は、資料１－２で示しています。実施状況の評価及び指標評価で出した点数などから、総合評価で SABC など評価を出しています。資料１－１①は、S や A などの評価の分布になります。資料１－１②は、それぞれの施策の方向性に紐づけている事業の S 評価、A 評価などの評価の平均点を出して、前年度と比較したものになります。評価方法の説明は以上となります。では、令和６年度実績について御説明いたします。資料１－１①では、C 評価の事業が前年度と比較して２事業増えていますが、A 評価が１事業増えて、D・E 評価は０になっています。前年度と比較して概ね現状維持に見えますが、資料１－１②では、前年度と比較して、半数以上が点を下げてしまっています。評点が下がった要因としては、実施状況評価において、当初の計画通りの実施ができていない点や、指標評価によって実施値が低い事業があることが挙げられます。具体的には、参加者や講師が集まらなかったために、イベントや講座を一部中止した事業がありました。新型コロナウイルスの影響は大分減っていると思いますので、引き続き市民が参加しやすいイベントを開催したり、周知方法を見直したりするなど、積極的に取組を進めていきたいと思います。その他の実績で注目したい点は、講座やセミナーなどの参加者の満足度が高い事業が複数ありました。引き続き質の高い事業の実施を進めていきます。

	では、ここで資料２－２について、事前質問をいただいたのでこちらについてお話いたします。資料Ａ４横のホチキス止めのものが、資料の３の後ろにあると思うんですけれども。こちらのＡ４横のものを読み上げたいと思います。
田中(秀)委員	資料１－２についての質問をよろしいですか。質問というか訂正をお願いしたいと思うんですけれども。資料の１ページの一番下の欄のラインです。【第２段階】総合評価という表について、分からないのは、横の１、２、３と、縦のａ、ｂ、ｃをクロスした形で表現されているんだけれども、例えば２と評価マイナスの時を合わせた時に、この表ではＣとなっていますよね。これは何でＣなんですか。いわゆる指標の評価ができないというところにあって、それを横軸の２と合わせた時にＣになっていますが、これは評価できないんじゃないですか。それはミスじゃないかと。 　それから斜線になっているものは、これは評価でも何でもなくて、私が思うには、一番下の斜線のところは、結局特別な事情による未実施なら、これも斜線ではなくてマイナスではないでしょうか。これはマイナスっていう評価でいいのかは分かりませんが。まずこれが一つの指摘です。 　そしてもう一つ、細かなことを言って申し訳ありません。次のページの欄で、今度は施策の方向性ごとの評価という形の表があります。ＳからＥまでありますが、できればその下にマイナスの欄が欲しいです。マイナスの欄が抜けていると思います。これは評価のために最初に確認しておきたいです。後の評価に関係ありませんけれども、評価の表示の仕方として不正確なので、指摘しておきたいと思います。以上です。
武田会長	ありがとうございます。表記の仕方も含めて、まず前提条件です

	けれども、事務局の皆さんいかがでしょうか。
事務局（松橋）	整理ができておらず、うまく説明ができないんですけれども、マイナスの欄を加えたらどうかという御提案ですが、マイナスを含めた場合についても検討しまして、令和７年度の実績の評価の計算方法として検討していきたいと思います。 最初の方の実施評価が１、２、３、４で、指標評価が a、b、c で、マイナスというお話でしたが、マイナスではなくて、すべての指標が測定不能という意味のバー（－）になっていますので、こちらの２段階の総合評価のところも、令和７年度についての計算方法は、来年度までに検討していきたいと思います。申し訳ございません、現段階では整理できておりませんが、以上になります。
武田会長	田中委員の御指摘のように、今回の令和６年度に関しては特に影響ないかと思いますので、前提条件のところをまとめておいていただければと思います。よろしいですか。では引き続き御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	事前にいただいた質問についてお話いたします。事前質問で、まず石塚委員からいただきました、つくば市民センターの事業番号２の実績についての御質問になります。まず１つ目が、吾妻交流センター当時の利用状況を確認したいということと、市民センターの今後の取組の欄についての御質問になります。市民センターというのは、令和６年度に開所して、以前は吾妻交流センターとして単独の交流センターになっていました。令和５年の 12 月に閉所していますので、それまでの数字ということで、担当課の方からいただいています。そちらが右側に書いてある数字になります。登録団体数が令和３年度は 80 団体、令和４年度は 77 団体、令和５年度は 12 月までで 67 団体というふうになっております。続きまして、今後の

	取組欄について資料２－２のところの、「進捗状況の点検・評価」のところの右から２段目のところですね。「つくば市民センターについては、つくば駅に近いという立地条件を生かしたイベント等での活用を促すとともに」とあります。立地について、駅近の立地は当然であるが、一方駐車場からのアクセス等を考慮すると、イベントに活用を促すとありますが、結構大変なことではないかという御質問でした。担当課からの回答としては、「令和６年度つくば市民センター講座アンケート結果では自家用車以外の受講者が 42%、令和５年度のつくバス利用者数が過去最高を達成するなど、公共交通機関の利用者は年々増加している状況を踏まえ、各団体の会場探し（場所のマッチングの相談時）における提案から始めていくことを考えています。」という回答でした。続きまして、同じく石塚委員から、資料２－２の７ページにあります、事業番号 21 番のジオパーク室についての御質問をいただきました。御質問内容は「ジオパーク登録当初より話題、市民への響きがかなり低下していると感じます。市の観光事業ともあわせて推進する意義は大きいと思う。改めて見つめ直す必要があると思います。」でした。これについて担当課からは、「ジオパークの認知度については依然として課題であると認識しており、様々な取組を進めています。2023 年 11 月につくばジオミュージアムをオープンさせて、１年以内で、来館者数１万人を突破するなど、順調なスタートを切ることができました。また、学習教材として活用できる副読本、『るるぶ特別編集　筑波山地域ジオパークがわかる第１の秘密図鑑』や、未就学児から低学年向けの絵本『秘密のてっぺん』を作成しました。さらに、つくば市観光推進課つくば観光コンベンション協会と共同で市内のアニメ制作会社とのコラボイベント等も開催しています。引き続き、観光

	事業及び構成６市と連携しながら、幅広い層に向けたアプローチにより、ジオパーク認知度を向上に努めて参ります。」ということでした。最初に出てきたジオミュージアムなんですが、令和５（2023）年 11 月の開始で、来館者数が令和５年度は 6,771 名で、令和６年度が１万 755 名ということでした。続きまして同じくジオパーク室についての御質問で、市民向け講座等の参加者の推移を具体的に知りたいということで、数字を紹介します。市民向け講座の参加者数は、令和３年は５回で、参加者は 67 名。令和４年は３回行い、参加者は 57 名。令和５年は４回で、参加者は 64 名。令和６年は４回ですが、103 人と増加しております。事前にいただいた質問は以上になります。
武田会長	ありがとうございました。事前に資料２－１、２－２に目を通してきていただいたと思うんですけれども、こちらで御質問あるいは御意見等ございましたら、挙手の上、御発言をお願いいたします。
黒崎委員	黒崎です。事前質問の方を出させていただいていたと思います。
事務局（松橋）	黒崎委員の御質問は、資料３の７年度の計画の方だったので、この後の議事２の方でお話させていただきたいと思います。
黒崎委員	そうなんですね。分かりました。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
溝上委員	溝上です。事前に質問を出していなくて申し訳ありません。資料２－２の３ページ、事業番号７番の情報収集・発信事業のところで、「ホームページ改修回数１回」とありますが、事業予算ゼロ、決算ゼロとあり、４ページの事業番号８番の生涯学習ワンストップ対応事業も、ホームページの改修１回とありますが、予算・決算ともゼロです。このホームページ改修というのは、リンクを貼ったとか、何かちょっといじったら改修１回と数えたということで、予算は要

	らなかったという理解でよろしいでしょうか。
事務局（松橋）	事務局です。ホームページの方なんですけれども、つくば市のホームページは広報戦略課の方で管理をしているところです。それぞれの担当課がページの内容を追加したり削除したりという作業しているんですけれども、昨年度は内容やレイアウトについての変更作業をしており、ホームページ自体の経費というのは、特に我々の方では負担はなかったということになります。
溝上委員	分かりました。ありがとうございます。
武田会長	他はいかがでしょうか。
石塚委員	資料２―２、３ページの事業番号６番の生涯学習相談事業ということで載っているんですけれども、相談数が５回となっています。つくば市で５回の相談というのは、まず相談がないのと同じようなものじゃないかなとふと思ったんですけれども。市民がそういう相談事業をやっているというのがはっきり分かってなくて、相談しないのか。生涯学習はかなり皆さん関心があることなので、広報誌に載せるとかすれば、もっと相談があるんじゃないかなと思ったので、御質問させてもらいました。
武田会長	ありがとうございます。
事務局（松橋）	事務局です。こちらの相談数５回というのは、生涯学習推進課で受けた件数になります。本来は各交流センターや、他の窓口部署の件数を集めなければいけないというところなんですけれども。窓口は生涯学習推進課本庁の中にあるので、お電話とかでもしづらいのかなというところで５回というふうになっております。以上です。
石塚委員	その通りだよね。各交流センターとかでも話を聞いたりしていて、実際の数字ではないと思いますので、ここに載せるのはどうかなという感じもします。

武田会長	他はいかがでしょうか。 それでは令和７年度の方とリンクしてくるところもありますので、先に令和７年度をやりながら、今のところで、さらに御質問がありましたら、次の議事の２番目のところで仰っていただければというふうに思います。では、議事の２　第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度事業計画について、御説明をお願いします。
	（２）第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度事業計画について
事務局（松橋）	議事２では、資料３を使用いたします。A３の資料になります。令和７年度事業計画では、前年度実績以上の目標を掲げているものも多く、例えば、事業番号１番の図書館利便性向上事業。事業番号10番の外国人市民向け情報発信講座事業。事業番号17番の調査研究支援事業。事業番号19番のスポーツ教室事業があります。また、新たな仕様を追加しているものもあり、事業番号１番の図書館利便性向上事業、事業番号13番の障害者スポーツ推進事業、事業番号16番の文化財展示講座事業、事業番号28番の市民活動団体支援事業がありました。このように積極的な計画が作成されており、この計画で審議会に提出したいと考えております。 こちらの令和７年度事業計画についても事前質問をいただきまして、お話いたします。こちらも石塚委員からいただいたもので、事業番号２番のつくば市民センターについて、市民センターの事業計画・登録団体から利用件数に変更した理由を知りたいということでした。こちらも、目標の指標の方が、前年度と変化しているということなんですが。これについて担当課からの回答が右側にあります。「つくば市民センターは、他の地域交流センターと異なり、従

	来の市民サークルだけでなく営利団体や、市外の団体の利用が可能な施設なため、未登録での利用が多いことから、施設の利用状況を数値化するにあたっては、利用件数を指標とした方が適切と判断した」ということでした。続きまして黒崎委員からいただいた事前質問になります。資料３の11ページ、事業番号33番の市民協働課の地区リーダー勉強会の開催について、令和７年度事業のところでは、「地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会（講演会）等を開催して、その解決策を検討していく。８月又は９月に開催を計画している。」という内容でした。こちらについて御質問は、勉強会の開催時期が８月又は９月の理由を教えて欲しいということでした。理由としては、区会の新会長役員の選出・引き継ぎのタイミングで実施するのが望ましいのではないかということでした。担当課に確認したところ、毎年度５月末に区会連合会の総会を行って、代表を決めるそうです。そのあと、６月中旬に役員会を開き、勉強会の計画を行っているそうです。そこから講師の依頼等の調整を行うので、勉強会を開催することができるのは早くて８、９月になってしまうので、ここの、事業計画のところも８、９月としているとのことです。目標としては８、９月と出していますが、時期が後ろにずれ、秋などになってしまうこともあるということでした。では事前質問の説明は以上です。
武田会長	では資料３、今年度の計画一覧ですね。こちらにつきましていかがでしょうか。
黒崎委員	事前質問した内容についてなんですが、この前の水曜日に社会力コーディネーター養成講座の方の第１回に参加させていただきまして、テーマがリーダーシップということで、第１回目のテーマに

	相応しい内容であったのではないかと思っています。内容として、良いまちづくりのためには良い人づくり、良い人づくりのためにはみんなで良い話し合いをできること、良い話し合いをできることで知恵や協働が生まれるということで、そういったテーマで各班に分かれてワークショップを行うという形式で、素晴らしいワークショップだったんじゃないかなと思いました。たまたま私が参加した班の中の２名が区会の区長さんと副会長さんだったっていうことで、11 ページ、事業番号 33 番の協働のまちづくりというテーマがあると思うんですけど、YouTube チャンネルで実施したということで、特に自治会の役員になった方々などが勉強になるんじゃないかなと思って参加されたんじゃないかなと思います。私も今年度、街区の班長になって自治会の役員、班長会なんかに参加していると、なかなかみんなで本当に良い話し合いができるのかなっていうのが疑問に思っていて。やっぱり良い話し合いができないとうまく自治会運営もできないと皆さんも感じているとは思うんですね。そのためにやっぱり勉強会に参加するっていうのが大事だと思うんですけど、そこが YouTube チャンネルの動画を見ているだけで本当に改善・解決されるのかなというのが疑問に思いました。やっぱりワークショップで対面で話し合うような機会に、これから自治会や区長の役になる方が参加されるといいんじゃないかなというふうに思っています。
事務局（松橋）	ありがとうございます。市民協働課の方に御意見を伝えたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
溝上委員	５ページの事業番号 11 番、障害者の生涯学習関連事業についてですけれども、障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯

	学習に取り組む障害者への支援体制の構築が事業概要になっています。令和６年度の事業の成果達成状況も、卓球バレー体験講座を開催して満足度も高かったことから令和７年度も障害者のための生涯学習講座を開催するということで、指標は講座参加者数 30 名、満足度 90％となっていますが、事業概要にある障害者への支援体制の構築は今年も来年も計画されていないかのように読めてしまうのですが、どうしてこうなっているのでしょうか。
武田会長	こちらいかがでしょうか。
事務局（松橋）	事務局です。令和６年度の実施の課題のところは御指摘通りかと思うんですけれども、参加して楽しかったっていうのはあるけれども、行政がメインで行うというところから、支援団体の自主的な活動になるように、支援者育成もこれからの課題になっているということだったので、指標としてはちょっと不足しているかなと思うので、目標値を追加していきたいなと思います。
溝上委員	目標値を設定するということよりも、事業でちゃんとやってくださいということを申し入れていただきたいなと思います。
事務局（松橋）	ありがとうございます。
田中（秀）委員	私が聞きたいのは、資料２－２、10 ページの事業番号 31 番の高齢者生きがい活動支援事業のところです。私の勘違いでなければいいんですけれども、令和７年３月 24 日に令和６年度第３回つくば市生涯学習審議会の会議録という形で論議された内容が今回それなりに反映されていると思うんですけれども、私だけじゃなくて、何人かの人の質問で、高齢者の中の、特に定年に関する文のところで、何人かから議論が出されたというような形で議事録を見ているんですけれども、４分の１から５分の１くらいの量を占める発言があるにもかかわらず、事業番号 31 番を見ますと、そういうような

	ものが全く反映されてないという形ですが、どういうふうに考えているのか。意見を求めて、まとめた形がここに反映されてないのではないかと思います。全く反映されていないので、それはどういう意図があってなのかということです。きつい言い方なんですけれども、論議した内容がほとんどこの中に反映されていない。全てではないですけれども、前の年の議論がそのまま書かれています。まず１つお聞きしたいのは、前回行われた会議の内容が、今回ここに反映されるべきだという考え方はいかがでしょうか。
事務局（松橋）	事務局です。前回の令和６年度第３回審議会で話し合われた内容についてですが、第４次計画に反映させる御意見をいただいているので、令和７年度の事務事業に関しては、反映はされていません。第３次計画の中で定年前の方のことといった具体的なアイデアについては、今回の令和６年度、７年度のところにはまだ盛り込めないものなので、こちらの方には入ってはいないですが、次の議事の内容については入れていこうということで進めております。
田中（秀）委員	前回の部分は今の論議の内容ではないということでよろしいんですね。どこかで、この間かなり論議された内容がこういうものに反映されていくべきだろうという形で考えていたわけです。この段階ではなくて、次の段階で論議されるという理解でよろしいですね。
武田会長	そうですね。この間は第４次に向けてというような話だったということですので、そのようになるかと思います。
田中（秀）委員	ただこの間話した内容が、これから行う計画のために論議したんじゃないかなと私は記憶しているんですけれども、入ってこないということは令和８年度になるんですか。
武田会長	そうですね。次の第４次基本計画の初年度が令和８年度になりま

	すので、令和８年度からということです。
田中（秀）委員	それだと時期的にお話した内容がタイミングとしては相当後の方の話になってしまう。せっかく一生懸命みんなと論議した内容が全く反映されないですということで、また話すというのは私は合点いかない。以上です。
武田会長	ありがとうございます。では後藤委員、どうぞ。
後藤委員	後藤です。事前質問をしていなくて申し訳ないのですが、事業番号 11 番の障害者の生涯学習関連事業も事業番号 13 番の障害者スポーツ推進事業もそうなんですけど、令和６年度の成果達成状況よりも、令和７年度の事業計画が人数が少なくなっているのはどういう理由なのかを知りたいのと、実は 13 番の障害者スポーツ推進事業にたまたまうちの息子達が参加していまして。何に参加しているのか、どこの課の何という事業か分からないで参加していたんですけど、何回か参加しているうちに、スポーツ振興課の職員さんが二、三回お見えになって、その日は終わったら振り返りを別の部屋でしますということで、会議室みたいなところに連れて行かれて。筑波大のジムを借りて運動をさせていただいているんですけど、今日のジムはどうだったか、何が楽しかったかっていう話を一人ひとりが話して。そこでスポーツ振興課の方が障害者スポーツ、障害者スポーツってすごく言うんです。うちの子たちは障害の程度が軽いので、あまり障害者、障害者と言われると少し戸惑うというか、そういうところは配慮をいただきたいなっていうふうに思いました。 それでこの 13 番ですが、去年の講座の開催回数が６回で参加者数延べ 30 人になっているのが、令和７年度は開催回数が２回で参加者数が 20 人に減っているのはなぜなのかなというのと、事業番号 11 番も参加者数を 41 名を 30 名にするということで、多くすれ

	ばいいってわけじゃないっていうのもあると思うんですけど、先ほど言っていた事業番号２番のつくば市民センターも利用者数を３万 2,317 人を２万人に減らすというので、何で目標を減らすのかなと。それもすごく減らすので何でかなと思います。分かる範囲でいいのでお願いします。
武田会長	では事務局の方からお願いいたします。
事務局（松橋）	事務局から分かる範囲でお答えします。まず事業番号 11 番の目標値のところですけれども、こちらは令和６年度の目標は参加者数 20 名で満足度 80％。実績としては 41 名参加いただいて、満足度も 94％になったということです。ここは資料３の方が、実績値が左側、令和７年度の目標値が右側というふうに並んでいるので、実績値より下げた目標値になっている。去年の目標と比べて上げているというところが見づらいなというのがこの資料の欠点ではあるんですが、一応前年度の目標を超えるような書き方になっています。 事業番号 13 番の方も、令和６年度の事業計画の目標は、実施が２回で参加人数が 20 名ということで、こちらは目標は変えてはいないですけれども、実績よりは下がっているというふうに見えてしまっていますね。もっと目標を高く持って頑張って事業をやるというのもありだとは思うので、ただそこを無理して目標を上げて達成できないというのも。どっちを取るかっていう感じなのかなというふうには思いますが、以上になります。
後藤委員	11 番の方は分かりました。13 番の方は去年と同じ目標に戻すというか、スポーツ推進課に言っておいてください。 予算がすごく増えたので、一瞬喜んだんですけれども。出前教室の実施回数 10 回とか、受講人数延べ 700 人ってすごいなって思ったんですが。「障害者スポーツ体験出前教室をシッティングスポー

	ツ協会の協力を得て、児童・生徒における障害者スポーツへの理解が…」というふうになっていて、障害のある児童・生徒にということだと思うんですが、これは普通小中学校に行っている障害のある児童・生徒と、特別支援学校に通う児童・生徒のどっちも想定しているのでしょうか。申し訳ありません。そういう詳しい話はスポーツ振興課に聞きます。
事務局（松橋）	事務局の方からスポーツ振興課の方に問い合わせますので、また後日回答が来ましたら、共有させていただきたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	事前質問では見落としていたんですけれども、6ページの事業番号 15 番のつくば人間学講座のところで、令和７年度も去年と比較したら、令和６年度の事業計画では目標が 300 人で、令和７年度は 330 人ということですけれども、予算がすごく減っている状況があって。まだ具体的なことは何も書かれていないんですけれども、この背景というのは何かあるのか。どんなふうな取組を考えているのかとか。前回も市民への発信の仕方とかがすごく大事ではないかという話もしたんですけれども、その辺の何か意図がありましたらお聞きしたいと思います。
事務局（松橋）	事務局です。予算額が減っているところについては、また調べまして、後日御回答したいと思います。
田中（依）委員	内容に関しまして、前は例えば子育て、健康、SDGs とか、そういう何か目標があってということでしたが、令和７年度に関しては全く具体的なことがないということですかね。
事務局（松橋）	そうですね。今年は特にこちらの人間学講座の方が 30 周年だったと思うんですけれど、記念事業として大きい会を開こうというこ

	とで。前年度は３回行っていたんですけれども、大きいのを１つと小規模のものを１つ行うつもりですが、中身はまだこれからというお話でした。
田中（依）委員	私も参加させていただいていて、すごく良かったので期待している人も多いと思います。
事務局（松橋）	ありがとうございます。
中嶋委員	中嶋です。令和６年度の実績と令和７年度の計画を兼ねて意見をさせていただきますと、あまりにも資料が多すぎて、私自身、正直読みきれていません。生涯学習推進課の担当課の係長さんだけでもこれだけの課が市の中でいくつも複合して担当している感があって、やっぱり答えられないというか、分からない部分も相当あるんだろうと私は思いますので。前にも言いましたけれども、ここに担当する課を全員出して答えられるようにするっていうことも大変なんでしょうけれども、多少そういうことも生涯学習推進課・係だけでは、なかなかこれだけの量があると難しいのかということを思うんです。実績と事業計画であまりにも資料が複雑なので、色刷りした令和６年度の全体評価の数字だけ見て考えるんですけれども、これでいくと、多様な学びの実現の中で３項目あって、施設の利便性の向上というものが令和６年度は８点から7点に落ちているんです。参加機会の拡充というのも全体評価が９点から８点に落ちたんですね。生涯学習相談情報の提供が８点から９点に上がったのでここは良くなったということで、そうすると施設の利便性が落ちるということはどういうことなのかなって思うんですよね。施設が変わるっていうか。これを見ると、この項目は中央図書館とつくば市民センターの２項目での評価なんですよね。これを見ると、悪いけど中央図書館の評価が悪いので、１ポイント落ちているというふうに

	私は見るんですよね。ということは中央図書館の施設の利便性が、令和５年度と令和６年度で何が悪くなったのか。数値と文字だけで評価していますけど、１ポイント落ちたのは、中央図書館の使い方の決まりはよく分かりませんが、それが悪かったので落ちたという言葉の評価も欲しいということなんです。ただ数字だけで言ったところで、我々素人が見て、そんなにすぐ分かることではないので。そうしたら令和７年度は中央図書館の利便性がまた元に戻るのには何をすべきなのかということで、令和７年度の計画で土日の時間を閉館を 19 時にすると書いてあったので、休日とか開館時間を延ばすとか、そうすると利便性を増すと思うのできっとそういうふうになっていくだろうと思いますけど、あまりにもこれは行政的というか難しい評価なので、そういうふうにして欲しいなと思います。文章で評価したものをもう少し分かりやすく、点数の脇にでも書いて欲しいなと思うんですね。生涯学習相談の情報提供が１ポイント上がったのは何かっていうふうに思うと、令和６年度の表を見ると、広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集発信したと書いてあるので、これを見ると生涯学習推進課、担当課だけじゃなくて広報戦略課と連携して何かを発信した、その成果がきっと上がったんだと思います。評価は具体的によく分からないですけど、そういうことだと思うので、連携したから１ポイント上がったというのは私の方の評価ですが、それが正しければそういうふうに書いていただきたいなと思います。以下、次の誰一人取り残さない生涯学習という部分についても参加者への障害をなくす取組が、令和６年度は９点から８点に１ポイント落ちたんですよね。主体的に活動に参加できる取組は８点から１ポイント上がって９点に上がって良くなったので、主体的に活動する取組が良くなったのは良いですよ

	ね。それが何かは私は読み取れてないんですけど。地域で学び合う生涯学習で、きっかけづくりが１ポイント落ち、その次の地域で学び続ける仕組みが６点から８点に２ポイント上がったということはすごいことなんですよね。ですからこれはなぜこんなに２ポイントも一年で上がったのかっていうのは、きっと令和６年度に何か計画の中に良い事業が入ったということなんだろうと思うんですよね。ここのところを見ると項目が結構多いので、それが良い評価につながるのかなというふうに思いました。これを見ると結構幅広い課が担当している内容なんですよね。なので、そんなふうに詳しい実績評価の欄があるんですけれども、私は分かりませんので、全体評価の中でのポイントで見ましたので、そこでもし落ちたらこういう理由できっと落ちたということで、次年度はそこに力点を置かなくてはならないというような、課としての総合的な評価的なことを分かりやすくまとめて言葉でいただくのがいいのではないかなという意見でございます。
武田会長	ありがとうございます。
事務局（松橋）	事務局です。資料２－１、施策の方向性ごとに我々の方で評価を出している資料があり、こちらの方にこういう事業が目標達成しなかったので点を下げていますとか、内容としてはこういうことも新しく取り組みましたよというような評価や文章での説明もしている資料もあります。 ただ、資料のボリュームが多いというのは我々もとても感じているところなので、令和７年度の評価の時は、もう少しスリムにできたらなと思っております。 先ほど御意見のあった、一番最初の施設の利便性向上で点が１つ下がっているところなんですけれども、資料２－１のところにも我

	々の方でコメントを入れているものがありますが、やはり図書館の利便性向上においては目標値の利用人数、貸出数が目標値に達成しなかったので、点数がＡからＢに下がってしまった、それで平均点を出すと下がってしまったということがあったりします。利便性の向上というタイトルと、評価の具体的な指標がちょっと噛み合っていないのかなというところも若干あると思いますので、利便性向上の点数が下がったからといって、それがそのまま市民の満足度が下がっているというふうにつながっているわけではないので、この評価についてはまた第４次のほうは分かりやすいような形にできたらなと考えています。以上です。
武田会長	ありがとうございます。中嶋委員よろしいですか。
中嶋委員	はい。
山崎委員	山崎と申します。私は個人的に社会力養成講座というのを３年か４年くらいずっと出させていただいているんですけれども、その中でここにあります体験実習参加者ということで、新しい人が既存の団体の所に参加してみるというのを毎年やっているんです。昨年、それに応募というか受け入れてみたいということでやってみたんですけれども、最終回は、我々はこうやりましたという発表会だったんですね。ところが４団体受け入れているにもかかわらず、発表会に来たのは我々だけだったんですよね。４団体のうち他の３団体はその最後の発表会にも来なかったんです。それで我々と、我々のところに来た人だけの話で、これは何なんだってすごく思ったんですよね。参加者が少ないにしろ何しろ、そういうことをやったならば発表会くらい来い、みたいなことをすごく思って。言葉はきついかもしれないですけど、何でそういうことが許されるのかというか、ちゃんと出すべきじゃないかなとすごく思いました。あと、第

	１回目は大体いつも 20 人くらいは来てくださるんですよね。それが回を経るとだんだんだんだん減ってきてしまうんです。最後は２人とか３人とかになってしまう。これはやっぱりどこか考えなきゃいけないところがあるのかなというのはすごく思っています。それから感想なんですけれども、僕は社会力養成講座に行くと必ずグループになるんですけれども、その中で今まで多分大体半分ぐらいの方はこれからやりたいという新しい人が来られていたんですよね。そういう人たちと僕らが話をする機会ってなかなかないし、これはすごくいい機会なので。向こうの方も我々みたいな長い間やっている人と話したことがないので、よくそういう話でつながって、そのあとイベントの時にじゃあうちのイベント今度来なよ、みたいなのがあったり。そういう形のすごくいい交流ができて、それは僕らも参加している者としての役割じゃないんですけども、勉強になりますのですごく良いなと思っていたんです。しかし、この令和７年度はそういう新しい人を対象としていないので、これはちょっと違うかなと。こういう意見を言っていいかどうか分からないんですけれども、すごく感じました。せっかく良い事業なのに、まだまだもっと良いやり方というか、有効にできることがすごく多いんじゃないかなと感じているところです。これは質問ではないので、前もってお話しなかったんですけれども、そう思います。
事務局（松橋）	ありがとうございます。この今年度の事業に反映させたいと思います。
武田会長	運営している私の方から。やはり一昨年度と昨年度の２年連続で大人のインターンシップということで、受け入れ団体のもとでインターンシップに行くというようなことをやって、初年度は 13 名いたんですけど、昨年度は６名というようなことで、やっぱりどうし

	てもハードルがぐんと上がってしまうのかなというふうに感じています。またプレゼンテーションも、最後は発表会もあるとなると、どんどんと皆さん来られなくなってしまって、それがやっぱり運営している側からも苦労した点では確かにありました。全ての団体には呼びかけたんですけども、結果としてお越しいただけなかった。平日の夜ということもあったかと思うんですけども。もうちょっと熱く呼びかければよかったかなというふうに思っているところです。令和７年度に関しては、新しい人を対象としてないわけではなくて、これは単発でも大丈夫ですので、ぜひお越しいただければというふうに思っております。ちょっと見え方が、新しい人は対象としないような感じになっているのかどうかといったところですが、そのようなところでございます。よろしいですか。
山崎委員	はい。ありがとうございます。
福井委員	タイムラグがありますが、先ほど後藤委員と溝上委員がおっしゃったんですけど、ザーッとこの事業計画を見ていると、例えば事業番号 17 番の調査・研究支援事業で筑波大学と小・中・義務教育学校と書いてあって、自分だけかもしれないですけど文言的にずっと気になっていたんですが、つくばの特別支援学校があって、そこにはやはりつくば市内の子供達が来ているのに、それが何か排除されている。ただ彼らの話によると、チャレンジアート事業などでは非常にお世話になっているというか、彼らにとってやりがいになっているのは確かです。そうなった時に、例えばちびっ子博士というのがあったと思うんですけど、特別学校の中でも非常に少ないけれども、歴史とかそこに興味を示す子供がいるのは確かです。小・中学生に限定すると、そこの子供達が排除されて、限定されているような感じもするし、一応根本的な理念として、誰も取り残さないとい

	うところになると、彼らもその中に入ると思っています。実際に先ほど後藤委員がおっしゃったんですけど、スポーツに関して、特別支援学校の中でも彼らはダンスがすごく好きで。筑波大学の体育学部の中のダンス部はだめなんですけど、個人でやっているダンスサークルの大学生を呼んでやるという企画が進んでいます。何が言いたいかというと、そういうふうなところも配慮をした上での事業計画を是非ともしていただきたいなというのが思うところです。以上です。
事務局（松橋）	ありがとうございます。先ほどのスポーツ振興課の方にも意見をお伝えしたいと思います。
黒崎委員	１ページの事業番号２番のつくば市民センターのところなんですが、事業費の予算がつくば市民センターのところは、大体４倍ぐらいの予算が計上されているんですけど、具体的にどんなところに使われる予定なんですか。
武田会長	6,500 万ほどから２億 7,000 万ぐらいに上がっているというところですかね。
事務局（松橋）	すみません、こちらは調査不足なので、また後日回答します。
武田会長	分かってからで結構です。フィードバックをお願いいたします。 他、いかがでしょうか。
黒崎委員	５ページの事業番号 11 番と 13 番のところ、障害者の生涯学習関連事業と、障害者スポーツ推進事業ということで、令和６年度は卓球バレー体験講座を開催したというふうになっているんですけど、少し障害者スポーツ推進事業と被っているかなという感じで。令和７年度のところは、講座の内容を少し別の視点から考えられるといいんじゃないかなというふうに思いました。
事務局（松橋）	ありがとうございます。担当部署に伝えておきます。

後藤委員	卓球バレーに参加されている障害者の方はどういう障害の方ですか。車椅子とか、身体障害とか肢体不自由とかそっちなのかなと思っていたんですけど。
事務局（松橋）	車椅子ではないんですが、肢体不自由の方。
後藤委員	その辺も書いてあると分かりやすいですよね。多分こっちの障害者スポーツの方は、知的障害とか発達障害など、身体は何ともない人がやっていて、卓球バレーのほうだと身体障害とか、歩くのがちょっととか、そういう感じなのかなと漠然と思っていただけなんで。前も言わせていただいたことがあると思うんですけど、障害の種別的にろう者とか聴覚障害者とか、そちらも網羅してもらえるような内容があるといいのかなと思います。でも両方スポーツなんでね。ただ、参加できる人がもしかして違うのかなと思ったんですけど。そんな感じです。
澤頭課長	補足で付け加えさせていただきますと、障害者団体の御協力のもと、団体さんごとに声かけをさせていただきまして、そこへの通所者の方に主に御利用いただきました。スポーツといいますか、レクレーションの要素を重点的にやりまして、みんなで楽しむといった観点でこの講座は開催しておりました。以上です。
武田会長	他、いかがでしょうか。ではここで一旦、昨年度事業・今年度事業に関しては区切らせていただきまして、続いて議事の３番目ですね。（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画策定の修正骨子案。こちらについて事務局の方から御説明をお願いいたします。
	（３）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　修正骨子案について
事務局（松橋）	事務局から説明させていただきますと、議事の３番では、資料４

	－１、４－２。それから、参考資料１、２、３を使用いたします。では、まず資料４－１から御説明いたします。今回の資料では、第４次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案については、前回の審議会でいただいた意見を反映させて、修正しております。修正した部分については、資料４－２の新旧対照表に掲載しております。審議会の意見を反映させた他に内容は基本的に変えていませんが、文言や言い回しを分かりやすく改めた部分も含まれています。前回から変更した部分で大きいところは、資料４－１の２ページの基本理念のところ。こちらは、当審議会全体の意見を受けまして、基本理念を、「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せのまち」と設定したいと考えます。それから施策の方向性についてなんですが、前回はまだイメージであった施策の方向性を４ページ以降に掲載をしております。施策の方向性は、それぞれの基本目標をさらに細分化したもので、具体的な個別の事務事業を方向性ごとにまとめるものです。今回は見出しを設定したということになります。第４次計画に位置づける事務事業については、全部署に対して調査をしまして、第３次で進捗管理していた事業と、また新たに追加する事業を、現在、第４次用にまとめているところです。参考資料１の施策の展開という資料がありますが、こちらでは、施策の方向性についての説明を加えて、基本目標１つについて見開き１ページで掲載をするという構成を検討しております。説明のそれぞれの文言については、調査をした事務事業の内容をまとめて説明文を作成するというふうになりますので、こちらの内容については次回の審議会で協議をしていきたいと思います。今回は構成のイメージ資料としてお出ししています。第３次計画の際は施策の方向性に紐づける事務事業を計画に掲載し、それについて、毎年実績評価と実施計画

	の評価を行ってきていますが、第４次計画の方では、事務事業を施策の方向性に位置づけはするものの、計画本体には掲載しない構成としていきたいと思います。計画の構成は、資料４－１の７ページに体系案というのがあるんですが、こちらにある通り、基本理念、基本方針、基本目標、施策の方向性と続きまして、そのあとに新たに未来への取組、つくばの学びの未来像というものを入れていこうと考えております。未来への取組、つくばの学びのイメージが、参考資料２と参考資料３になります。第３次と第４次の構成を変える理由としては、次の通りになります。まず、事務事業は５年間の中でも、内容が変わったり廃止したり、また新たに加わったりと変化がありますので、計画の中に位置づけないことで、変化に対応できると考えます。計画実施中に、施策の方向性に合わせた新たな事業を盛り込むこともできます。評価については、施策の方向性単位で点検していき、それによって事業自体の進捗にとらわれない評価ができ、評価に基づき、新たな事業の追加や、効果が限られる事業を入れ替えるなど、柔軟な対応を行うことで計画を推進していけると考えます。具体的な評価方法、進捗管理方法については現在検討中ですので、こちらもまた次回の審議会で審議をしていただきたいと考えます。新しく取り入れる未来への取組、未来像についてですが、先ほどの参考資料１の施策の展開に続くページとして、未来への取組、未来のつくばの学びの未来像を設定します。未来への取組という部分では、第４次計画の５年間で具体的に何を行うかというのを示したいと思います。次のつくばの学びの未来像では、具体的な人物の設定を行います。こちらは昨年度行ったアンケート結果や、ワークショップの参加者の傾向を参考に、具体的な人物像を設定し、属性を５つに分け、基本計画の事務事業がどのように自分と関わっ

	ているかを分かりやすく示していきたいと思います。５つに分けた理由は、市民というのが漠然とした一つの塊に聞こえやすいので、様々な世代や性別障害の有無など、それぞれの状況や悩みを具体的に設定することで、自分にも当てはまる部分を見つけやすくし、自分に関係する計画であるということを感じやすい計画にしていきたいと思います。なお今回お配りしている参考資料１、２、３の内容は、骨子の後に続く展開のイメージですので、文言など具体的な内容は、次回の審議会で協議していきたいと考えます。では資料の説明は以上になります。
武田会長	ありがとうございました。ではただいまの件につきまして、御意見・御質問ありましたら。
田中（秀）委員	書類が多すぎて全然分からないよね。前回どうだったかなと議事録を全部読み直しまして、耳が聞こえないせいかも分からないけれども、第３次と第４次で、ちょっと最初に何か、説明する時に整理してもらいたい。私は真面目な方だからかなり読んでいるんだけれども途中で嫌になってしまいました。先ほど御指摘がありましたように、前回のものは第４次の資料なんだそうです。今、中身を見ながら私も理解しました。第４次は令和８年度以降ということになる。そこまで理解するのに時間がかかりまして。 それで、骨子案のところで質問よろしいですか。いつも入口のところで人生 100 年時代っていうんですけれども、それはどういうふうにまず捉えるのかと。例えば、参考資料の２の真ん中のところ、教育と仕事と老後とありますよね。老後は 60 歳前後っていうんだけれども、これは老後なのかっていうことを全体で考えてもらいたい。はっきり申し上げれば、今定年制がなくなっている企業もありますしね。それから私は 83 です。もう老人だけれども、60 以降の

	年齢の方をよく見てみると、人生の最高の部分を持っていて、知恵も持っていて、経験も持っていて、その人たちは 100 年時代はもう老後じゃないよと。皆さん考え直さなきゃいけない。私もぼけているけれども、まだ負けないところがたくさんあります。だから、老後とか高齢っていう見方を一度みんな考え直して欲しいんですよ。色々話を聞いてみると、高齢者と後期高齢者っていうのがあるようで。特に高齢者、60 から 75 ぐらいですかね。その人たちは、あなたたちが思っているほど高齢で頭が鈍ってはおりません。体も丈夫ですよ。そういう意味で、これを作るにあたって申し上げたいのは、100 年時代っていうふうに言いながら、本当にそこを考えて作っておられるのか。ぱっと見ると 60 で老後っていうけども、例えば私は 90 とか 100 に近い年齢になっているんですね。定年になって、死ぬまでに 40 年ぐらいあるんですよ。そこら辺を勘違いしてしまうと困るんです。残り 40 年あるのを老後として単純に位置付けてしまっては誤りで、もう一回全員が考え直さなきゃいけない。そういうことで、つくば市は全国で一番の素晴らしい市だから、先取りして、先を見ながら案を作っていってもらいたいというのがまず 1 つです。まず 100 年時代っていう問題をみんなで考えてもらいたい。 　それから、高度な学術研究を担う教育機関が集積する都市であるということが、例えば、そういうものが本当に計画の中で生きているのかどうか。集積された都市の代表的なものが、現実にどういうふうに反映しているのかっていうのは怪しいですね。本当に素晴らしい人が集まっているのがつくば市なんですよ。だから、その人たちは本当に活きているのかどうか。先ほどお話ししましたように、60、65 歳の人は、例えば企業でもすごい能力や色々な経験があって。そういう人たちを高齢者として置いてしまうのはやっぱり問題が

	ある。前期高齢者というか、いわゆる60～75くらいの人たちを、つくば市の中で有用に利用させていただくっていうか、働いてもらう。高齢者だと言ってこれまでよく働いてくれましたどうぞお休みくださいと棚上げしてしまって、亡くなるまで40年間塩漬けにしてしまっているというのが、私が今までずっと見てきた形です。たまたま私は83まで生きていて、色々あって、ここにいるんだけれども。先ほど言いましたように、優れた人たちの集まった都市なんですから、そういう面で、60になったから高齢者というのではなくて、これから計画を作るにあたって、75くらいまでの人が堅実に働いている、働けるんだ、社会に貢献できるんだと、という形を根本のところに持って欲しいです。だから、そういうふうに考えてみると、私の友人の大学教授なんかはみんな今頃居眠りしています。もう少し有効利用してもらえないですかね。国の研究機関もたくさんあって、友人もたくさんいますけれども、ほとんど社会で活躍していません。とんでもないような国際的な賞をもらった人もたくさんいますよ。こういう案を作るにあたって、後期高齢者はちょっとという形でも、高齢者まで入れた形を骨子案の中に入れて欲しいと思います。 　特につくば市は最先端をいくのですから。日本で一番。大いに一番なりましょうよ。前回も申し上げたんですけれども、企業の人、あるいは大学の人や研究所の人も審議会に入れるべきだろうという提案をしているんです。それに対しても少し考えていただきたい。前回の話だと定年後の人たちという形で、良い言葉かどうか分かんないけども、セカンドライフということを考えますよね。セカンドライフじゃなくてまだ現役なんですよ。企業の課長とか部長とかに会ってみるとすごい能力を持っていますが、彼らには社会性が

	ないので、社会力と先ほどから言っていますが、そういう形の教育みたいなものを。そういう面で、色々な人たちが参加できるような市。素晴らしい人たちがたくさんいて、彼らを現役じゃない、老後だっていうふうにしないように、これから案を作る中で75くらいまでの年齢の人たちに配慮して計画の中に入れて欲しいと思います。長くなりましたが以上です。
武田会長	ありがとうございます。今の田中委員の御意見に対して何か皆さんの方からございますか。
黒田委員	参考資料２の20歳前後までは教育､20歳前後から60歳前後の仕事でそれ以降は老後とありますが、僕の周りの60代を見てもほとんどの方が仕事をされていて、元気であれさえすれば70代も仕事されるという方が多い。老後って言葉自体がちょっと死語みたいなイメージになっているんじゃないかなと思うので、ぜひ、つくば市は老後っていう言葉じゃなく、何か別の言葉に置き換えて表現するっていうのがいいんじゃないかなっていうふうに感じました。 あともう１点、「高度な学術研究を担う研究教育機関が集積する都市であり」っていうことで、来月からなんですけど、生涯学習推進課のつくば未来塾学習チューターというのが始まるんですね。私も毎年参加させていただいているんですけど、昨年、一緒に同じ教室で勉強を教えた高齢者の方なんですけど、どういったお立場の方なんですかってお話させていただいた時に、筑波大学名誉教授の農学博士の方でした。そんなすごい方に来ていただいているんだなっていう。そういった方に教えてもらって、すごい幸せな子供たちだなというふうに思ったんですね。なのでそういった70代後半ぐらいまでも地域の子供たちに教えられる場があるんだっていうのは、情報として、みんなに知らせていくといいんじゃないかなというふ

	うに感じました。
田中（秀）委員	資料２のサンプルの次のところに、私が指摘したように老後の年齢を短くされて、次はこういうふうにするんだということがここに書かれているのを、指摘をいただいて拝見しました。今日来るまでの自分の考え方を申し上げたんですけれども、こういう形で積極的に進めていただければということで。失礼なことを申し上げました。以上です。
武田会長	ありがとうございます。確かにこの老後というのはリタイア後ということなのか、疑問があるなというふうに思いました。
石塚委員	ただいまの件に関連して、私はシルバークラブの会長なんですれども、シルバークラブというのは要するに老人会です。ただ、現在のシルバークラブの会員っていうのは、昔は 60 代頃から入会してくれましたけども、現実には 75、76 から。75 でもまだ働いているとか何かで大体、新しく入っていただけない。それで、新しい会員が入らなくて、高齢者が亡くなったりするものですから、なかなか会員も増えないんです。だから、その辺がシルバークラブとしてはちょっと頭が痛いところなんですけれども、現実には 75 くらいまでは働いている人がほとんどで、シルバークラブの会員としては、まず横を向いてしまって入っていただけないというのが現状です。
武田会長	ありがとうございます。
石川委員	市の考え方で、誰一人取り残さないとか、自己実現をしてとかいうことをよく耳にするんですが、資料４－１の４ページに書いてある基本目標１「誰一人取り残さない学びの充実」の中に「障壁」ってありますよね。障壁の解消というのは外国人の問題だけではなく、もっと身近な、中心部から離れた周りの方でも、お茶飲み会をやろうというふうな単純なものでも、壁があるのです。今、私たち

	の地域では、この壁をどういうふうにして切り込んでいったらいいかなっていうことで、皆さんの考えを聞かせてもらっています。だから、これは取り除くんじゃなくて、やっぱり意見を出してもらって、考えを聞かしてもらうというふうに寄り添っていかなくちゃいけないものなんだなっていうことを、ものすごく感じています。そのための工夫を、高齢者というか自分たちの年齢だけじゃなくて、地域に住んでいる子供たちも大変少なくなってますから、年に１回か２回のごみ拾いの時に見るか見ないか、そういう状態では、分かるわけがないんだなということに、ものすごく気づかされました。だから、今皆さんがお話している生涯学習というのは本当に大事で、裾野の方も当然、何かしらそういうふうなことで幸せになってもらいたいなって思っているんですけれども、壁は一緒じゃないかなと思うんですね。だから取り除くんじゃなくて、理解するという方向に持っていってもらいたいなって気がします。簡単なものではないなということをちょっと付け加えておきたいと思います。
武田会長	ありがとうございます。
溝上委員	溝上です。今は資料４－１についての意見交換だと認識しております。まず資料４-１ではライフステージという言葉がたびたび出てきます。今日は議論しませんが、あくまでも参考でお見せしましたという参考資料２になると、ステージモデルみたいな、マルチステージモデルというところでステージという言葉は出てきますが、あとはライフコースとか、ペルソナという言葉になっています。ライフステージは一体どこでこれからどう展開していくのでしょうか。言ってしまうと用語の違いがちょっと分かりにくい構図になっている。今すぐ説明してくださいってことではないですけれども、今後もし、これに沿って案を作っていかれるとするのであれば、初

	めて見るとつくば市は何を前面に出して議論したいのかがちょっと分からない構図になっているような気がするので、用語の定義をする、もしくは一貫性を整えていただければありがたいと思います。 　それから２番目は、前回もすごい議論になった、基本理念の２ページの下の方の黄色いところ、「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せのまち」。学びを楽しみ世代がめぐるっていうのはどこにかかるのでしょうか。「つくば」にかかってくるのですか、それとも「幸せのまち」にかかってくるのでしょうか。「つくばでつながる　幸せのまち」って、ちょっと日本語としておかしくなっていませんか、と感じるのは私だけでしょうか。この言葉一つ一つがおかしいということではなくて「つくばでつながる」で終わり、最後「幸せのまち」っていうことを言いたいというふうに理解したらいいのか。「学びを楽しみ、世代がめぐる幸せのまち　つくば」という意味なのか。ちょっとそこら辺の標語の日本語の構造が私には理解しにくいので、どこがどうつながっているのか教えていただければと思います。以上です。
事務局（松橋）	溝上先生のおっしゃったことはなるほどと思うんですけど、今私の中でこうですっていうのがすぐ出てこないので申し訳ありませんが少しお時間をいただければと思います。
中嶋委員	中嶋です。前回基本理念をどうするかということで、市からの提案があったのと別案で案１、２、３っていうのがあって、特に案３の言葉をもとに、みんな考えたほうがいいだろうっていうふうな方向がほぼ出たような気がして、私も整理してみたんですけれども。「学びを楽しみ」「世代がめぐる」「つくばでつながる」「幸せのまち」、ある意味４つのワードで考えていいのかと思うのですが。

	かかるとかということではなくてね。ですから、「学びを楽しむ」っていうのは生涯学習の一つの「学び」っていう部分の言葉であるし、「世代がめぐる」っていうのは、要するに世代間の交流が少ないということですよね。青少年、それから今働いている世代、それから働きが終わった世代、そういうものが交流できるというか、めぐるという意味に考えます。それが「つくばでつながる」ですから、つくば市に住んでいる人たちが、そういうことでつながり、それを合わせれば最終的には「幸せのまち」になるという理念で考えています。
武田会長	ありがとうございます。溝上委員、中嶋委員の御意見に対して、いかがでしょうか。それ以外のところでも、結構ですけれども。 全体を通してでも、御意見・御質問等ございましたら。もしなければ、これで本日の議題は終了というふうにさせていただければというふうに思います。皆さん、貴重な御意見、ありがとうございました。では進行を事務局の方にお戻しさせていただきます。
４　そのほか 事務局（瓜阪）	武田会長、議事進行ありがとうございました。本日皆様からいくつか課題や宿題をいただいたと認識しております。改めてこちらで整理して、お伝えできればなと考えております。では次回の開催時期についてですが、つくば市役所において８月末を予定しております。机上に第２回と第３回の出席確認に関する書類をクリアファイルに入った状態で配付させていただいておりますので、こちらを記入いただき、お帰りの際に、受付の職員にお渡しいただくか、机上に置いてお帰りいただければと思います。本日、日程の確認が難しい場合は、後日メールまたはお電話で御連絡いただければ幸いです。正式な開催通知は追って送付させていただきます。最後に、委

	員の皆様から何か質問等ございますでしょうか。 ＜質問なし＞
５　閉会 事務局（瓜阪）	では以上をもちまして、令和７年度第１回生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様に確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは皆様、本日はどうもありがとうございました。 以上

令和７年度第１回つくば市生涯学習審議会　次第

日時　令和７年（2025 年）６月 27 日（金）
午後２時 30 分
会場　つくば市役所　201 会議室

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事
(1) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和６年度実績について
(2) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画令和７年度事業計画について
(3) （仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　修正骨子案について

４　そのほか

５　閉　会

【配布資料】

資料１－１	第３次つくば市生涯学習推進基本計画　令和６年度評価のまとめ
資料１－２	第３次つくば市生涯学習推進基本計画　評価基準
資料２－１	令和６年度施策の方向性ごとの評価一覧
資料２－２	令和６年度事務事業進捗状況一覧表
資料３	令和７年度事務事業 事業計画一覧表
資料４－１	第４次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案
資料４－２	骨子案の修正　新旧対照表
資料５	つくば市生涯学習審議会条例
資料６	つくば市生涯学習審議会委員名簿
参考資料１	施策の展開（構成イメージ）
参考資料２	未来への取組
参考資料３	つくばの学びの未来像

第3次つくば市生涯学習推進基本計画　令和6年度評価のまとめ

資料1-1

【評価基準の変更について】

令和3年(2021年)3月に策定された第3次つくば市生涯学習推進基本計画の進捗管理については、事務事業評価(各担当課実施)及び施策の柱ごとの全体評価(生涯学習推進課実施)の2つの評価を実施しています。

令和4年度の外部委員によるつくば市生涯学習審議会において、評価手法についてより客観的な基準が求められ、令和4年度分の実績評価から評価方法の変更を行っています(資料1-2「評価基準」参照)。

①各事務事業に対する評価(担当課評価)

	S	A	B	C	D	E	—
令和5年度	8	15	8	2	1	0	0
令和6年度	8	16	6	4	0	0	0

②施策の方向性毎の評価(全体評価)

施策の柱	施策の方向性	令和5年度	令和6年度
多様な学びの実現	施設の利便性向上	8点	7点
	参加機会の拡充	9点	8点
	生涯学習の相談・情報の提供	8点	9点
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	9点	8点
	主体的に活動に参加できる取組	8点	9点
地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	8点	7点
	地域で学び続ける仕組み作り	6点	8点
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	7点	6点

第3次つくば市生涯学習推進基本計画　評価基準

資料1-2

① 事務事業評価

項目	内容
評価者	各事務事業担当課

【第1段階】実施状況評価及び指標評価

【①実施状況評価】

令和5年度事業の成果・達成状況の記載内容を踏まえ、事務事業の総合的な実施状況について、以下の評価を行う。

1 年度当初の計画を上回って事業を実施できた
2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた
3 年度当初の計画に遅れが生じた
4 年度当初の計画を全く実施できなかった
― 特別な事情(※)により全く実施できなかった
(※)特別な事情とは新型コロナウイルス感染症や自然災害等を指します。
　　特別な事情下でも工夫して事業が実施できた場合(例:会場開催を動画配信に切り替えた等)は「2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた」として扱う。

【②指標評価】

〇指標毎の評点

指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。
※複数指標がある事業に「―」がある場合は、その指標を除いて平均する

100%以上	10点
70%以上	7点
50%以上	5点
50%未満	3点
0%	0点
特別な事情による未実施	ー

〇指標の達成状況による評価

指標毎の評点の平均した数値(小数点以下を四捨五入)を以下の表に当てはめ、指標評価とする。

10～8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している
8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない
5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない
全ての指標が「－」	ー

【第2段階】総合評価

【総合評価】

①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする。

		①実施状況評価				
		1	2	3	4	ー
②指標評価	a	S	A	B	C	
	b	A	B	C	D	
	c	B	C	D	E	
	ー		C			ー

②施策の方向性ごとの評価（全体評価）

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>評価者</td><td>生涯学習推進課</td></tr>
<tr><td>施策の方向性ごとの評価</td><td>〇各事務事業の総合評価を、それぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値（小数点以下は四捨五入する）を評点とし、施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とする。

<table>
<tr><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th></tr>
<tr><td>S</td><td>10点</td></tr>
<tr><td>A</td><td>8点</td></tr>
<tr><td>B</td><td>6点</td></tr>
<tr><td>C</td><td>4点</td></tr>
<tr><td>D</td><td>2点</td></tr>
<tr><td>E</td><td>0点</td></tr>
</table>
※施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「—」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する。

〇評点の決定方法の例

<table>
<tr><th></th><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th><th>計算</th><th>評点</th></tr>
<tr><td>事務事業A</td><td>S</td><td>10</td><td rowspan="3">(10+4+2)÷3=5.33･･･</td><td rowspan="3">5</td></tr>
<tr><td>事務事業B</td><td>C</td><td>4</td></tr>
<tr><td>事務事業C</td><td>D</td><td>2</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

令和6年度（2024年度）第3次生涯学習推進基本計画　施策の方向性ごとの評価一覧

資料2-1

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料2-2）	事業番号（資料2-2）	事業概要	担当課	事務事業名	② R6年度事務事業評価 実施状況評価	指標評価	総合評価
	多様な学びの実現										
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。図書館利便性向上事業においては利用人数や貸し出し数は目標値に到達しなかったため指標評価が下がったものの、みどりの南小学校における図書館サービスを開始したり、自動車図書館のステーションを増加させたりするなどサービス向上を図っている。 また令和6年2月に新設されたつくば市民センターでは、市広報紙やホームページで講座やイベントの積極的な情報発信を行い施設の認知度向上を図っており、今後新たな市民の交流拠点としての活躍が期待できる。	7	1	1	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	2	b	B
1-(1)-ア				1	2	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	市民交流施設利便性向上事業	2	a	A
1-(1)-イ	参加機会の拡充	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。評点が下がった要因としては、夜間・休日における講座の開催数が目標値を下回ってしまった点が挙げられる。夜間・休日に対応できる講師の確保ができず開催できなかった講座があったが、就労者や子育て中の方など幅広く学習機会を提供するために、引き続き夜間・休日の講座開催に取り組む必要がある。	8	2	3	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	1	a	S
1-(1)-イ				2	4	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	1	a	S
1-(1)-イ				2	5	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	地域交流センター活用事業	3	b	C
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点上がった。生涯学習関連事業やイベント情報を一元化して広報紙に掲載したりアプリケーションやSNSを活用したりして情報発信を行っている。情報発信手段を幅広くすることで一人でも多くの市民の目に触れる機会を増やすよう引き続き推進していきたい。	9	3	6	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	2	a	A
1-(1)-ウ				3	7	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	1	a	S

No.	施 策 の 柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（０～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料２－２）	事業番号（資料２－２）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R6年度 事務事業評価 実施状況評価	指標評価	総合評価
	誰一人取り残さない生涯学習										
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす取組	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点下がった。評点は下がったものの、おおむね年度の計画どおり事業を実施できている。外国人市民向けの日本語講座事業では、講師不足により開催できなかったため目標値を下回ってしまったが、新たな15-18歳クラスを開設するなど市民のニーズに対応し、「誰一人取り残さない生涯学習」の実現に取り組んでいる。	8	4	8	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ対応事業	2	a	A
1-(2)-ア				4	9	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	2	a	A
1-(2)-ア				4	10	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座（日本語講座）の実施	国際都市推進課	外国人市民向け情報発信・講座事業	2	a	A
1-(2)-イ	主体的に活動に参加できる取組	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点上がった。セミナーや講座、イベントなどのプログラムの実施は計画どおり行われ参加者の満足度も高いが、主体的に活動に参加する環境を整えるために必要な支援者を増やしていくことや多くの市民の理解を得ることが課題となっており、それらについての周知を図る取り組みが期待できる。	9	5	11	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の生涯学習関連事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	12	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	男女共同参画啓発事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	13	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	14	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）	2	b	B

No.	施策の柱 / 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（０～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料２－２）	事業番号（資料２－２）	事業概要	担当課	事務事業名	② R6年度事務事業評価 実施状況評価	指標評価	総合評価
	地域で学び合う生涯学習										
2-(1)-ア	地域で学ぶきっかけ作り	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。実施状況評価において当初の計画どおりの実施ができていない点や、指標評価において実績値が低い事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組として市民との講座についての意見交換を挙げている事業もあるため、市民のニーズをくみ取りながら、地域で学ぶきっかけ作りの充実が期待できる。	7	6	15	市民との協働講座（人間学講座）の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	2	b	B
2-(1)-ア				6	16	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	2	a	A
2-(1)-ア				6	17	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	2	b	B
2-(1)-ア				7	18	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	多文化共生推進事業	2	a	A
2-(1)-ア				7	19	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	3	b	C
2-(1)-ア				7	20	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	地域交流センター講座等事業	1	a	S
2-(1)-ア				7	21	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	2	a	A

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（０～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料２－２）	事業番号（資料２－２）	事業概要	担当課	事務事業名	② R6年度事務事業評価 実施状況評価	指標評価	総合評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける仕組み作り	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点上がった。ボランティア養成講座を新たに実施したことで新規のボランティア数が増加した。これを更に増やしていくよう広報活動等を通して取組を進めていくことが期待される。 今後の取組として定例会や研修会等による市民の意欲を掻き立てるような事業を挙げている事業があるため、令和7年度もより一層のサービスの充実が期待できる。	8	8	22	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	23	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	24	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習 指導者情報提供事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	25	学校施設開放（体育館・グラウンドなど）の推進	教育施設課	学校施設開放事業	1	a	S
2-(1)-イ				9	26	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	2	a	A
2-(1)-イ				9	27	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材 活動支援事業	2	c	C
2-(1)-イ				9	28	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課	市民活動団体支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	29	文化協会の支援	芸術文化推進課	文化団体等育成支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				10	30	文化振興財団の支援	芸術文化推進課	（公財）つくば文化振興財団支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				10	31	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい 活動支援事業	2	a	A

No.	施策の柱 施策の方向性	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（０～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁（資料２－２）	事業番号（資料２－２）	事業概要	担当課	事務事業名	② R6年度事務事業評価 実施状況評価	指標評価	総合評価
「社会力」を持った人材の育成											
2-(2)	実践できる人材の育成	令和5年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。指標評価において、実績値が目標値に達しなかった事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組としてより市民が参加しやすいような講座やワークショップ等の開催による事業の改善を挙げている事業があるため、令和7年度の施策の方向性評価の評点が好転するものと期待できる。	6	11	32	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	2	b	B
2-(2)				11	33	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会事業	2	c	C
2-(2)				11	34	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	2	a	A

令和6年度（2024年度）第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況一覧表

資料2-2

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位：千円	単位：千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	土日の開館時間2時間延長と祝日の特別開館の継続および市庁舎コミュニティ棟、かとりだい交流館における予約本の貸出しを継続し、 利用者の利便性向上を図る。また、研究学園小学校学校図書館に加え、みどりの南小学校学校図書館での図書館サービスの提供を開始し、サービスポイントを拡充する。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、市内62か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションは2週間に1回の頻度で巡回する。自動車図書館車1台の更新を行う。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、かとりだい交流館のブックポスト及びオンラインの4交流センター図書室での図書返却事業を継続するとともに、新たにつくば駅周辺にブックポストを設置し、更なる利便性向上を図る。 年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数15,000人 自動車図書館貸出冊数65,000冊 返却窓口への返却冊数220,000冊	図書館条例施行規則を改正し、土日の開館時間を19時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上に寄与した。研究学園小学校における図書館サービスに加え、みどりの南小学校における図書館サービスを開始した。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを58か所から63か所に増やしサービスの拡充を図った。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、及びかとりだい交流館のブックポストでの図書返却事業と分室（谷田部・筑波・小野川・茎崎交流センター図書室）での図書館サービスを継続し、利用者の利便性向上に寄与した。また、みどりのプールに新たにブックポストを設置した。 年間開館日数291日 年間開館時間2,740時間 自動車図書館利用人数11,287人 自動車図書館貸出冊数38,457冊 返却窓口への返却冊数216,093冊	31,761千円	29,154千円	2	b	B	利用の少ない自動車図書館のステーションがある。 インターネットによる予約およびサービスポイントの増加に伴い、配送する資料が年々増加している。それに伴い、配送に要する時間や、担当者の負担が増加している。	自動車図書館のステーションの見直しを継続的に行うとともに、新規ステーションの開拓を図るとともに、積極的に広報活動を行う。 各サービスポイント毎の配送状況を随時確認し、配送ルートや回数の見直しをする。	特になし
			2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。そのため令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課】 市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体（サークル）が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体（サークル）の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【つくば市民センター】 従来の市民サークルだけでなく、社会貢献活動団体、市外団体、営利目的団体、少人数団体の利用も認め、広く市民の活動や交流な場所を提供するために、施設の維持管理を行う。 また上記団体の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【地域支援課】 地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 【つくは市民センター】 つくば市民センター利用者数2,000人 つくば市民センター登録団体200団体	【地域支援課】 ・ 地域交流センターの利用者数は、前年度実績の376,522人から417,191人に増加し、増加率は約10.8%でなった。 ・地域交流センター登録団体数は、前年度実績の698団体から759団体に増加し、増加率は約8.7%であった。 利用者数の増加に繋がった要因としては、登録団体（サークル）の増加や、交流センター講座への参加等、市民の自主的な活動が増えたこと等が考えられる。 【つくば市民センター】 利用者数及び登録団体について、目標値を上回ることができた。主な要因としては、市広報紙やホームページでの積極的な施設情報や講座・イベント情報の発信に注力し、認知度向上を図ったこと等が考えられる。 地域交流センター利用者数417,191人 地域交流センター登録団体759団体 つくば市民センター利用者数32,317人 つくば市民センター登録団体293団体	【地域支援課】 504,138千円 【つくば市民センター】 89,257千円	【地域支援課】 540,701千円 【つくば市民センター】 65,236千円	2	a	A	【地域支援課】 新型コロナウイルス感染症の流行時に、緊急事態宣言の発令など活動自粛の動きがあったことにより、登録団体数が一時的に大きく減少してしまった。 特に高齢者団体においては、活動を自粛したまま再開の目途が立たず、解散となってしまったケースが見られた。 【つくば市民センター】 つくば市民センター内で最も広い大会議室（定員100人）の使用率が低い状況にある。	【地域支援課】 新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、交流センター利用者や登録団体数も徐々に回復基調にあるがいずれも目標値には達していないことから、交流センター講座をきっかけとした新たなサークル設立などを後押しすることで、さらなる交流センター利用者や登録団体数の増加を図っていく。 【つくば市民センター】 つくば駅に近いという立地条件を活かしたイベント等での活用を促すとともに、未登録団体の単発使用の際にも使用の目的や人数に合わせて大会議室の使用を積極的に促していく。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位：千円	単位：千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業等の意見を反映しながら研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充を図っていく。 民間企業等での講座開催数5回	つくば市出前講座について、民間企業、研究機関等において22回実施することができた。 また、同事業において講座実施前の調整を円滑に進めるため事務手順の改訂を行った。前年度に引続き新規講座の募集も行い、1講座の新規登録があった。 民間企業等での講座開催数22回	49千円	0千円	1	a	S	実施されやすい講座が全体の実施回数の中で高い割合を占めている。また、同一団体が複数の講座を積極的に活用している反面申し込み団体数は一定であるため、今後はより幅広い団体に利用してもらうための工夫が必要。	広報媒体と周知回数を増やすことで、より幅広い団体に講座を利用してもらう環境を整えていく。 引続き新規講座の募集も行っていく。	特になし
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	生涯学習に関する講座等の動画本数は充実してきているため、各動画のさらなる内容の充実や満足度の向上を図っていく。 視聴動画の満足度80%	つくばちびっ子博士では、13本の動画を制作しそのうち10本を受託業者が制作した（3本は参加機関からの提供）。 令和6年度はさらに13本の過去動画のアーカイブも公開した。 動画の満足度については、アンケートにおいて「デジタルワールドがどれくらい楽しかったか」について5段階評価で回答した率を記入している。 視聴動画の満足度86％	410千円	235千円	1	a	S	令和5年度と令和6年度と続けて、動画1本あたりの視聴数がほぼ横ばいになっている。	動画の満足度は高い水準を維持しているため、内容を充実させつつサムネイル、広報など動画を再生してもらうための工夫をしていく。	特になし
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 　評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課、つくば市民センター】 　平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間休日における学習機会を提供する。 【地域支援課】 夜間休日の講座数12講座 【つくば市民センター】 夜間休日の講座数5講座	【地域支援課】 地域交流センター講座において、夜間（17:30～20:00）講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 　講座数 ： 3講座（計9回） 　講座内容 ： 和紙で折る正月飾り（吉沼） 　　　　　　チャイニーズエクササイズで健康作り（春日） 　　　　　　冬の親子天体観測（島名） 【つくば市民センター】 つくば市民センター講座において、夜間（18:30～20:00）講座のほか、土日開催など各講座のターゲット層が受講できる講座を企画・実施した。 講座数：6講座 講座内容：生花、工作、音楽、法務講座、NPO設立等 【地域支援課】夜間の休日講座数3講座 【つくば市民センター】夜間の休日講座数6講座	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	3	b	C	【地域支援課】 講座の企画段階で、平日夜間や休日に開催可能な講師の確保に苦慮したこともあり、目標値を大幅に下回ってしまった。また、各交流センター職員が生涯学習基本計画を実現するための評価指標とその目標値の認識が十分でなかったことも目標値を達成できなかった要因であると考えられる。 【つくば市民センター】 特に社会貢献活動に係る講座の対象者は、就労者が多く平日昼間の受講が難しい。	【地域支援課】 令和7年度は、全交流センター職員に生涯学習基本計画の評価指標と目標値を再度周知し、目標値が達成できるよう講座の企画を行うとともに、講師派遣業者等も活用しながら、平日夜間や休日に対応可能な講師の確保に取り組む。 【つくば市民センター】 講座のアンケート項目に、参加可能な時間帯覧を設け、参加者のニーズを把握しながら、引き続き就労者にも対応できる講座を企画する。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の工夫や、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施し、相談につなげる。 近年は市内企業や研究機関等から地域貢献の観点で相談があることも多いため、積極的な情報や意見の交換に努める。相談にあたってはオンラインでの対応も実施する。 相談数5回	市内研究所から生涯学習活動の実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度を紹介した。 相談数5回	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習活動に興味を持ったときに誰でも気軽に相談ができるという認知度を高めていく必要がある。	もともと生涯学習について強く関心があって相談したい人だけが相談に至るという形でなく、新たな活動をしてみたいという市民が気軽に生涯学習に関する相談に対してアドバイスや案内ができる業務運営(広報活動等)に引き続き努める。	特になし
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市報、ホームページ等でそれぞれの生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図っていく。アプリケーション、SNS等も積極的に活用していく。 広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数15回	広報つくば令和7年5月号において、つくば未来塾・家庭教育学級・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・生涯学習指導者情報提供事業をまとめた特集記事を掲載した。 また、課内の事業周知において、つくスマ・Facebook・X(旧Twitter)による幅広い周知を行った。 広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数46回	0千円	0千円	1	a	S	事業周知については目標値に達しているため、周知の規模を維持しつつ各事業の結びつきを強める工夫が必要。	周知を行う際、それぞれの事業を単体ではなく時期や事業内容によって同時に発信する形態を継続していく。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	1-(1)-ウ「情報収集・発進時用」及び1-(2)-イ「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に引き続き努め、また、生涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を考える。 分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	つくば市生涯学習指導者登録制度についてホームページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向けの情報を同じページで発信すること等わかりやすいホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、11月に実施した事業終了後、アンケート及び記録を作成した。今後の障害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。 分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習に関する事業が多岐にわたる中で、わかりやすく興味を持ってもらえるホームページを中心とした情報発信のあり方を検討する必要がある。	令和7年度は事業単独のページだけでなく、ポータル的に情報を掲載しているページの改修ができるよう検討する。	特になし
			9	1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	市が行う各事業に関する情報が市民にしっかりと伝わるよう、職員一人一人の広報力向上を目的として、引き続き職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。 セミナー参加者150人	【職員向け広報セミナー実施】 職員を対象にセミナーを3回実施した。 ・1回目:10月スマホで簡単!動画制作講座(119人) ・2回目:チラシ作成実践講座(25名) ・3回目:「つくば市公式SNSの活用講座」(15名) 【広報事業へのアドバイスの実施】 チラシやポスター等のデザインチェックを446件、デザインの好事例集の紹介を5回行った。また、動画配信に係る撮影やその支援を随時行った。 セミナー参加者159人	12千円	0千円	2	a	A	職員向け広報セミナーについて、アンケート等での定量的な効果測定ができておらず、成果や課題を具体的に把握できていない。	年度末にアンケート等での効果測定を行い、今後の効果的なセミナーの開催や内容改善に繋げる。	特になし
			10	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報紙等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援 (大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催し、対面コースを再開する。) (外国にルーツを持つ子ども対象:こども日本語勉強会、小中学校就学・高校進学ガイダンスを開催) 外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数330人 こども日本語勉強会の登録者数50人	令和6年度は多言語での情報発信を全体的に見直し、外国語広報紙は季刊紙としての広報紙ではなく、長期的に利用できる「外国語生活ガイド」として各号テーマを設定して発行したほか、Xによる情報発信を再開し、タイムリーなイベント情報やお知らせの周知を図った。また、こども日本語勉強会については、ニーズを踏まえて新たに15-18歳を対象としたクラスを開設した。 外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数193回 大人向け日本語講座の受講者数203人 こども日本語勉強会の登録者数52人	5,669千円	4,481千円	2	a	A	大人向け日本語講座は講座を担える講師の不足等により開催できなかったクラスがあったことから、実績値が目標値を大きく下回った。	日本語講座講師不足解消のため、日本語ボランティア講師入門講座の開催回数を増やすなど、講師の養成に努める。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。 講座参加者数20名 講座参加者の満足度80%	「卓球バレー体験講座」を開催した。4団体32名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳:参加者32名、サポート9名 合計41名 講座参加者数41名 講座参加者の満足度94%	156千円	31千円	1	a	S	「卓球バレー体験講座」を2年連続で開催した。参加者には当該競技が定着してきた様子が見られ、また当講座以外でも各参加団体において卓球バレーを楽しんでいるとの声が聞かれ、定着度が伺い知れるが、行政との協働から支援団体の自主的な活動になるよう支援者の育成が課題である。	協働団体と対話を重ねながら、支援者が主体的に関わっていけるよう開催方針を決定する。	特になし
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの開催 男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点を取り入れたエンパワーメント講座やキャリアアップ講座など、特定のテーマに焦点を当て、各セミナーの内容や目的をより明確にし、参加者が深く理解しやすいセミナーを開催します。参加者がより満足度の高い体験を得ることができるかを確認するため、アンケートを実施し、参加者の満足度を測定します。 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)93%	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの実施】社会保障制度や社会保険の仕組み、自分探し、家事シェア、防災力アップ、性の多様性等、幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は8回、参加者数は167人。 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)98%	7,783千円	7,226千円	1	a	S	令和6年度事業計画のうち、男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点を取り入れたキャリアアップ講座については、令和6年度に事業内容の整理や対象者のペルソナ分析等を行った結果、令和7年度当初予算で必要な金額を計上して開催することとした。	令和6年度の検討を踏まえて、令和7年度にキャリアアップ講座を開催する。	特になし
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者がスポーツ施設を利用できる体験講座と障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を年2回実施する。 また、つくばスポーツフェスティバル&つくパラや障害者スポーツ体験講座をとおして障害者スポーツに親しむ機会を設ける。 講座の開催数2回 講座・教室の参加延べ人数20人	参加者の運動習慣化を促進するため、体験講座後に各2回のフォローアップを追加実施したことで、評価指標の実績値は目標値を大きく上回った。 講座の開催数6回 講座・教室の参加延べ人数30人	631千円	755千円	1	a	S	障害者スポーツを推進するに当たっては、障害者本人のスポーツ活動を支援することに加えて多くの市民の理解が重要であるが、現時点の取組が必ずしも十分であるとは言えない。	障害者スポーツに対する市民の理解増進に向けた取組を検討していく。	特になし
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門コースと基礎コースとも各30回、音訳・点訳・要約筆記奉仕員講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与する。 チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人 奉仕員養成講座75人	チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表、作品展示ともに実施できた。舞台発表においては前年度より来場者数が増加したこと、また、特別企画として福岡県で実施されたPEOPLE ART PERFORMANCEのイベントとオンラインでつなぎ、舞台発表に出演したダンサー(ALSり患)と合同でダンスを行う外部団体と連携したプログラムを実施した。また、県庁と市役所等で作品展示の巡回展を開催し、一般市民に対する事業活動を行った。 おひさまサンサン生き生きまつりは、開催日当日は天候不良であったが、天候状況に合わせた柔軟な運営により、可能な限りプログラムを実施することができた。 奉仕員養成講座は、各講座の受講人数にばらつきがあるが、受講回数を通してほとんどの受講生が修了することができた。 チャレンジアートフェスティバル1,995人 おひさまサンサン生き生きまつり228人 奉仕員養成講座42人	12,668千円	11,094千円	2	b	B	おひさまサンサン生き生きまつりについては、障害者の参加者数について目標値に達しなかったが、事業の実施規模などを実行委員会の意見を参考に定めていく必要がある。また、チャレンジアートフェスティバルについても目標値に達していないため、幅広い効果的な周知活動を行っていく必要がある。 奉仕員養成講座も目標値に達していないため、幅広く周知していく必要がある。	おひさまサンサン生き生きまつりについては、障害者と高齢者が合同で円滑に取り組むことができるプログラムをより充実させ、参加意欲の向上を図っていく。 また、チャレンジアートフェスティバルにおいては、幅広く市民が参加できるように実行委員会等で企画、効果的な周知方法等を検討していく。	おひさまサンサン生き生きまつりは、高齢者と障害者が参加する事業だが、令和6年度評価指標内の目標値は、高齢者を含まず障害者の参加者数での記載となっている。

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	15	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供する。 【実施テーマ(予定)】子育て、健康、SDGs 参加者数300名 満足度80%	市民と協働して組織する、つくば人間学講座実行委員会にて講座内容を決定し、3講座を開催した。 ・小児神経専門医が語る『「ゆくり」って知っていますか？』(2024/9/14参加者31名) ・「森へ行こう！」森林浴で健康になる(2024/11/16参加者31名) ・「いすに座ったまま、簡単ヨガ」(2025/1/25参加者33名) 参加者数95人 満足度87%	262千円	212千円	2	b	B	駅に近い会場で開催したり、交流センター等でのチラシ配布など様々な周知を行っているが、参加者数が伸び悩んでいる。「学園都市の特徴を活かした学びの機会を手軽に提供する」として平成7年に事業が始まってから時間が経過し、つくば市の環境・住民とも変化が起きている。	引き続き実行委員会の中で市民と十分に意見交換を行いながら、市民が興味を持ち、満足してもらえる講座の実施に努める。	特になし
			16	2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	・10月～2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を、難易度に分け、8～9月・11～12月にそれぞれ全4回実施する。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした出土品等の整理調査体験教室を実施するなど、市民が市内の文化財や史跡に親しめる機会を引き続き提供する。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数1,500人	・巡回企画展「中根・金田台地区の遺跡」を10月～2月で開催し、企画展986人、講演会91人、体験講座32人(市内在住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・古文書講座を初級講座(8～9月)・中級講座(1～2月)で実施し、初級講座28人・中級講座28人の参加者があり、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することができた。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象として発掘調査整理体験を行う「考古学体験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生(保護者含む)43人の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数986人	5,314千円	5,809千円	2	a	A	企画展の会場となる展示施設の改修工事との関係で、学校での見学が多い時期に会期を合わせられなかったことから、企画展参加人数が目標より下回った。	令和7年度は、例年どおりの会期を予定しているため、目標値に近い参加者数が見込めるが、担当者による展示解説会を実施する等、多くの参加者数が見込める機会を増やしていく。	特になし
			17	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 　学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学習受入れ、学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。 　参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。 つくば市域連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等の研修参加人数55人 ファーストブック講座参加人数60人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 　学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校司書等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。 　小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用できるよう、IDとパスワードの配布を行った。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク38校 団体貸出冊数8,376冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数37人 学校司書等の研修参加人数50人 ファーストブック講座参加人数68人 レファレンス受付件数1,474件	1,003千円	963千円	2	b	B	図書館が行っている調査・研究支援事業について、学校等における認知度が低い。 団体貸出冊数が年々減少の傾向にある。	学校等に対し、図書館が行っている学校図書館支援について積極的に広報活動を行う。 現在、中央図書館のみで行っている団体貸出しを、利用団体の利便性を向上させるため、分室でも行えるよう検討する。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	18	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援 国際理解講座開催数40講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業	令和6年度は国際理解講座の拡充に力を注ぎ、これまで市内の小中学校を対象に実施していたものを新たに保育所やアフタースクール、親子向けイベントの場でも実施し、幅広い世代に向けて国際理解の啓発に取り組んだ。また、新たに「国際理解講座講師」として講師を担える留学生を募り、より多様な国・地域の紹介ができるよう体制を強化した。 国際理解講座開催数53講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数1事業	833千円	655千円	2	a	A	より幅広い世代に向けて国際理解の啓発を行うため、小中学校以外でも国際理解講座を開催できるよう、働きかけが必要である。	国際理解講座がどのようなものか、どんな講師でどんな内容の講座なのかを分かりやすく発信できるよう工夫する。	特になし
			19	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進のため、スポーツ教室を開催しスポーツ手法や楽しさを学ぶ機会を提供する。 教室の開催数6回 教室の参加延べ人数670人	参加者が集まらずに中止となった教室(障害者スポーツ体験教室)があった一方で、スポーツ振興の観点で新たに開催した教室(スケートボード教室)があったため、開催数は6回で目標値を達成した。 しかしながら、中止となった教室のほか、定員を下回った教室があったことで、全体としての参加者は目標値の半数程度に止まった。 教室の開催数6回 教室の参加延べ人数328人	1,601千円	708千円	3	b	C	中止となった教室や定員を下回った教室については、開催の有無を含めて望ましい開催方法を検討する必要がある。	単発の教室ではスポーツ振興に対する効果が乏しいと考えられるため、各参加者がスポーツを始めるきっかけとなるような開催方法を検討していく。	特になし
			20	2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課、つくば市民センター】 利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。 【地域支援課】 年間講座数106講座 【つくば市民センター】 年間講座数24講座	【地域支援課】 ・ 年間の講座開講数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・ 地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間 : 令和6年11月29日～令和7年1月8日 回答状況 : アンケート用紙配布数:991枚 回答数:597枚(うち、紙媒体595枚、電子申請2枚) 回答率:60% 【つくば市民センター】 年間講座数について、目標値を達成することができた。 施設使用者からの聞き取りやアンケート調査により、ニーズを把握しながら、新規の講座を企画した。 【地域支援課】年間講座数107講座 【つくば市民センター】年間講座数24講座	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	1	a	S	【地域支援課】 特になし 【つくば市民センター】 市民センター団体登録(一般団体、社会貢献活動団体)は活動分野の知識はあるものの自身が活躍できる場が少ないことから、講座の講師としての活用を図る。	【地域支援課】 特になし 【つくば市民センター】 市民団体の構成員が自ら講師になることで、市民活動の可視化・活性化にも繋がることから、講座の企画段階から一緒に行うなど講師の育成支援を行っていく。	特になし
			21	2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和6年度も引き続き、昨年度11月にオープンした筑波山地域ジオパークの中核拠点施設である「つくばジオミュージアム」を活かしながら、ジオパークに関する生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座(出前講座)について引き続き周知し、講座を開催する。 市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド向け講座等開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	令和6年度は、筑波山地域ジオパーク(構成各市及び協議会)として、生涯学習を目的とした講座等の企画(77回)、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座(出前講座)をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和6年度は1件の申し込みがあった。 市民向け講座等開催数4回 部会開催数11回 ジオガイド向け講座等開催数8回 学術シンポジウム開催数1回	16,909千円	12,612千円	2	a	A	特になし	特になし	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位：千円	単位：千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動の継続を支援する環境として、令和6年度中に新設校であるつくば市みどりの南小学校の特別教室(例：家庭科室)の一部を市民に対して開放する事業を開始させる。 また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談をしやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。 相談数5回 特別教室学校開放数3校	【生涯学習に関する相談】市内の研究所等から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和6年（2024年）10月1日から、つくば市立みどりの南小学校の家庭科室・音楽室・多目的室の特別教室を市民に対して開放する事業をスタートした。令和6年度は62回で延べ1178人に利用された。 〇内訳 みどりの南小学校　38回　延べ732人 香取台小学校　19回　延べ344人 研究学園小学校　5回　延べ102人 相談数4回 特別教室学校開放数3校	0千円	0千円	2	a	A	・民間企業や研究機関等からの生涯学習に関する相談が入ってくるようになるため、ネットワークづくり・関係づくりを強化する必要がある。 ・特別教室開放については引き続き利用者数を増やしていく。	・生涯学習推進課で実施する事業に関係する団体等に積極的な情報周知を行う。 ・特別教室開放については、地域住民の活動を支援できるよう広報活動等を展開する必要がある。	特になし
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。家庭教育学級の運営について、社会教育指導員が指導、助言を行い、講演会や講習会等を開催する。 家庭教育学級5,000名 家庭教育セミナー60回	家庭教育学級を対面方式で実施し、知識の習得のみならず、保護者同士のつながりづくりにも寄与した。また市内の企業に出向いて家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員から伝える機会とした。 家庭教育学級4,569名 家庭教育セミナー65回	4,516千円	1,613千円	2	a	A	学校等における家庭教育学級において、役員のなり手不足、負担が大きい等の意見が寄せられており、時代に応じた実施方法の検討が必要である。	家庭教育学級役員の心に寄り添い、負担、不安感の軽減が図れるよう、サポート体制を強化し、保護者の学びの機会を確保する。	特になし
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	令和5年度に改修したホームページを活用し、積極的に情報発信を進めていく。引き続き指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備していく。 ホームページ閲覧回数10,000回 登録講師増加数20人	X(旧Twitter)、Facebook(つくばファンクラブ・市民活動のひろば)において指導者の新規登録を促す投稿を行った。つくばSDGsパートナーズのメールマガジンにも同様の投稿を依頼し、昨年度よりも積極的な周知を図った。 また、指導者として登録をする際の入力項目の整理・指導者情報を掲載する市ホームページのデザイン変更を実施し、検索性をさらに向上させた。 ホームページ閲覧回数17,040回 登録講師増加数16名	97千円	0千円	2	a	A	市ホームページの閲覧数は目標値を大きく上回ったが、新規登録者数の伸びは前年度とほぼ同様である。閲覧数と登録者数の伸び方に差が見られる。	より多くの方に新規登録をしてもらえるように案内を改善していく。 チラシ・ポスターを関係施設に配置依頼をするなど、前年度に引続き広報方法を増やしていく。	特になし
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 今年度より、香取台小学校、研究学園小学校、研究学園中学校を新たに開放する。 昨年度課題となった、①一部団体の他施設、同曜日、同時間帯の希望による利用団体決定にむけた調整会議運営の難航、②利用決定に向けて、調整がつかない場合は抽選を行う方針をとったが、抽選ありきで調整を図る意思のない団体が多数発生してしまった点について、事前希望調査の実施や、調整に関するルールの周知徹底を行うこと等で改善し、事業を運営する。 また、例年調整会議にて利用が決定し、申請をしながらも、利用実態が見られないという団体について、他団体からの相談が多くあったため、利用実態調査を実施し、継続的な団体の利用を行うよう、働きかける。 小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率95%	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、小学校2校、中学校1校を開放した。 施設利用に関するルールの見直しを行い、事前に利用希望調査を実施することで、調整会議の円滑な運営ができた。 また、ランダムに学校を抽出し利用実態調査を実施した。この調査結果に基づき適正な体育施設利用を働きかける。 小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	3,335千円	622千円	2	a	A	利用申請における希望調査及び本申請の手続きを電子で受付したが、一部市役所窓口及び各学校での手続きが必要であり、すべての手続きが電子上で完結できるよう改善が必要。 また、利用実態がない団体に対して適正な利用の働きかけが必要。	新たに学校体育施設開放管理システムを導入し、すべての手続きをシステム上で完結できるよう改善する。 システムに連携したスマートロック（キーボックス）を同時に導入することで、学校のセキュリティ面の向上及び利用者の鍵管理負担の軽減を図る。また、利用実態のない団体へ適切な利用を促す。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容） No.	事業名	事業概要	担当課	評価の観点 令和6年度 事業計画	年度内の実績 令和6年度 事業の成果・達成状況	事業費予算 単位：千円	事業費決算 単位：千円	進捗状況の点検・評価 実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	特記事項
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	・10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 ・また、現在のボランティア登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、意見交換、学校支援業務への協力、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施するほか、昨年度好評であった共催の解説イベントも、引き続き実施していく。 文化財ボランティア登録人数35人 意見交換会開催回数2回 研修会開催回数2回	・「文化財ボランティア養成講座」を実施し、新規のボランティアを増やすことができた。 ・解説ボランティアによる学校授業や「つくばちびっ子博士」などのイベントにおける展示施設の解説実施した。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施したほか、5・11・1月に「常陸小田城親衛隊の会」と共催した、解説イベントを実施した。 ・活動を通じて市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。 文化財ボランティア登録人数36人 意見交換会開催回数1回 研修会開催回数2回	237千円	211千円	2	a	A	ボランティア登録者の活動の場が、イベントのある夏や、小学校の授業での見学が多い冬へと偏り、繁忙期以外で意欲が下がってしまうことが懸念される。	活動の少ない時期に、定例会や研修会、展示物作成補助などの機会を設ける。	特になし
			27	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	企画経営課	継続した周知活動を図るとともに、より効果的な事業となるよう検討を進める。 登録者の活動回数300回 新規登録数10人	登録者の活動回数について、新型コロナウイルス感染症の影響等により全盛期の実績数には至っていないが、活動回数の回復を目指し、以下のとおり対応した。 ・周知活動の拡大：令和5年度と比べ、便覧の配布先数を約90団体増加させた。 ・過去の利用者への利用促進：過去に本事業を複数回利用した実績がある団体に周知を行ったとともに、利用実績をフォローアップした。 結果として、令和5年度の活動回数74回から112回へ増加したため、上記の対応により一定程度効果があったと考える。 新規登録者数について、目標の達成には至らなかったものの、市広報誌での周知等により、定期的に新規登録者を獲得した。 登録者の活動回数112回 新規登録数6人	29千円	27千円	2	c	C	活動回数について、全盛期の水準までには回復していない。また、登録者の中には体調の変化等により現在は活動が難しい方もおり、利用希望者から依頼があった際にマッチングに繋がらないケースがある。	さらなる周知先拡大の検討も含め、継続して本事業の周知を図るとともに、登録者の現況や活動意向について確認・整理を行う。	特になし
			28	2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	アイラブつくばまちづくり補助金事業等、市民活動団体の活動支援、市民センターでの活動相談	市民協働課、つくば市民センター	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては市民協働課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民全体の公益的な活動を支援する。 労働者協同組合の設立を支援する。 【つくば市民センター】 市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35件 【つくば市民センター】 市民センター相談件数80件	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が自主的に企画し提案した公益的な事業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施することができた。 労働者協同組合の設立支援については、労働者協同組合運営費補助金を創設した。令和7年(2025年)1月、茨城県初となる労働者協同組合が設立し、補助金の申請を受け交付した。 【つくば市民センター】 市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数29件 市民センター相談件数69件	【市民協働課】 11,074千円 【つくば市民センター】 4,729千円	【市民協働課】 5,094千円 【つくば市民センター】 3,259千円	2	b	B	【市民協働課】 設立に至った労働者協同組合について、設立後の運営についても支援していく。 【つくば市民センター】 つくば市民センターにおいて、市民活動に関する相談等ができるという認知度が低い。また、市HPに開設した市民活動ポータルサイトの情報量もまだ少ない。	【市民協働課】 定期的に労働者協同組合の運営状況を把握し、昨年度に続き今年度も労働者協同組合運営費補助金申請があった場合は対応する。 【つくば市民センター】 メンバーの拡充や助成金に関すること等、つくば市民センターで様々な相談ができることや、ポータルサイトの活用方法について、市HP等での広報をはじめ、市民団体取材時や交流事業の場で市民団体との積極的な関わりを持ちながら周知を行っていく。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	29	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。事業実施の際には、会計処理等について指導を行う。 主催事業の実施18事業	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつくば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、レクチャーコンサート(参加・体験型公演)を5回実施した。 主催事業の実施18事業	1,200千円	1,200千円	2	a	A	なし	令和7年度は補助上限額を増額(120万円→150万円)し、既存事業の高度化や魅力の向上、広報手段の増強による会員数の増加を図る。	特になし
			30	2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。 文化芸術公演事業入場率80%	ノバホールやカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業をすべて実施することができた。 文化芸術公演における入場率は、令和6年度は81%(令和5年度:67%)となった。 文化芸術公演事業入場率81%	55,000千円	55,000千円	2	a	A	・ホール公演のみに依存しない企画内容の検討が必要になる。 ・限られた予算の中で、満足度の高い企画を提供していくために、企画の内容、実施方法を検討していく。	・実施する企画内容を精査し、収支バランスを考慮した事業内容について検討していく。 ・従来からの市民参加型事業をはじめ、幅広い世代を対象にバランスのとれた各種事業を展開していく。	特になし
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	・シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 ・シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 ・高年齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 ・ねんりんスポーツ大会:茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する)種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ペタンク、輪投げ) シルバークラブ会員数6,418人 単位シルバークラブ数135団体 契約件数3,300件 参加者数550人	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに より、コロナ前の状況に戻りつつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、123の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は、5月にグラウンドゴルフ予選会、6月につくば市大会(ゲートボール・ペタンク・輪投げ・グラウンドゴルフ)を開催した。予選会・市大会を合わせた参加者が前年度より3名増加した。 【シルバー人材センター】 新規入会者77名　退会者118名 前年度から41名減少した。 市からは、施設の受付／草刈り／清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。 シルバークラブ会員数5,607人 単位シルバークラブ数123団体 契約件数2,347件 参加者数511人	43,664千円	41,385千円	2	a	A	シルバークラブ会員数が減少傾向にある。	若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和6年度 事業計画	令和6年度 事業の成果・達成状況	単位：千円	単位：千円	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	令和6年度は社会力講座【実践編】スキルアップ版として参加者が自身の活動や所属団体の魅力を発信できることを目指す。他の団体で学ぶことで参加者自身の活動を客観視し、今後の活動に活かすきっかけとする。 体験自習参加者数15名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%	社会力に関する講座の実施4年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物（＝社会力コーディネーター）を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力をいかした団体での活動体験を実施した。また、令和5年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回全てを平日夜の開催とした。 活動体験においては4団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動にいかすことを目的として実施した。 体験自習参加者数6名 「社会力」を活かした今後の活動意向79%	649千円	649千円	2	b	B	活動体験やその後の発表に対してハードルが高いと感じる参加者が多数いたため、市民が求める形式の講座を実施していく必要がある。	令和7年度は全5回全て講義・ワークショップ形式にし、より多くの方に社会力を知ってもらうきっかけとしていく。	特になし
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。 人材づくりイベントの参加者数600視聴数	地区リーダー勉強会については、令和6年度の講演テーマを「防災は自助・互助・協働のまちづくり～人・地域・そして未来～」として、大規模災害に対して市民・地域と行政機関等が連携・協力して取り組む内容を市公式YouTubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加（視聴）していただくことができた。 人材づくりイベントの参加者数390視聴数	666千円	462千円	2	c	C	各地区のコミュニティ活動をより活性化するため、地域社会のリーダーである区長へ向けた勉強会（講演会等）の内容を引き続き検討していく。	市区会連合会及び各地区区会連合会と連携して事業を進めていく。	令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会で意見がありました地区リーダー勉強会の名称については、勉強会が区長・区会を対象としたもので、長年同名称で既に浸透していることから、名称の変更は行わないことにしました。
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】 地域主体のまちづくりを行うつくば市内の「小田地区」を対象とした見学会、 つくば市のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、 多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し 適切に専門家を派遣することができた。 また、制度の周知のために、R6年9月号の広報つくばにて案内を掲載した。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回	380千円	187千円	2	a	A	専門家の派遣件数は昨年度に比べて増加しているが、派遣申請の目的が「まちづくりルール等の策定」から「ルール策定後の組織運営の見直し」に変わってきている傾向にある。支援制度の創設から時間が経過しているため、市民のニーズに応えられていない可能性がある。	支援制度について市民や専門家の意見を聞き、まちづくりの現状や求められていることを調査する。調査結果に応じて制度そのものや専門家の派遣方法の見直しを検討する。	特になし

令和7年度（2025年度）第3次生涯学習推進基本計画事務事業事業計画一覧表

資料3

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	（参考）令和6年度 事業の成果・達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算（単位：千円）	令和7年度予算（単位：千円）	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館条例施行規則を改正し、土日の開館時間を19時までとするとともに、祝日の特別開館を実施し、利用者の利便性向上に寄与した。研究学園小学校における図書館サービスに加え、みどりの南小学校における図書館サービスを開始した。 　火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを58か所から63か所に増やしサービスの拡充を図った。 　並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、及びかとりだい交流館のブックポストでの図書返却事業と分室（谷田部・筑波・小野川・茎崎交流センター図書室）での図書館サービスを継続し、利用者の利便性向上に寄与した。また、みどりのプールに新たにブックポストを設置した。 年間開館日数291日 年間開館時間2,740時間 自動車図書館利用人数11,287人 自動車図書館貸出冊数38,457冊 返却窓口への返却冊数216,093冊	祝日の特別開館及び市庁舎コミュニティ棟、かとりだい交流館における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、研究学園小学校図書室、みどりの南小学校図書室において図書館サービスを提供する。 　電子図書館サービスの充実をはかる。 　火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、各ステーションを2週間に1回の頻度で巡回し、市内60か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。自動車図書館車1台の更新を検討する。 　並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、かとりだい交流館、みどりのプールのブックポストでの図書返却事業及び分室（谷田部・筑波・小野川・茎崎）での図書館サービスを継続するとともに、更なる利便性向上のためにブックポストの増設を検討する。 電子図書館所蔵点数5,000点 電子図書館貸出点数60,000点 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数53,000冊 返却窓口への返却冊数250,000冊 予約配送冊数120,000冊	29,154千円	32,643千円					
			2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 ・ 地域交流センターの利用者数は、前年度実績の376,522人から417,191人に増加し、増加率は約10.8%でなった。 ・地域交流センター登録団体数は、前年度実績の698団体から759団体に増加し、増加率は約8.7%であった。 利用者数の増加に繋がった要因としては、登録団体（サークル）の増加や、交流センター講座への参加等、市民の自主的な活動が増えたこと等が考えられる。 【つくば市民センター】 利用者数及び登録団体について、目標値を上回ることができた。主な要因としては、市広報紙やホームページでの積極的な施設情報や講座・イベント情報の発信に注力し、認知度向上を図ったこと等が考えられる。 地域交流センター利用者数417,191人 地域交流センター登録団体759団体 つくば市民センター利用者数32,317人 つくば市民センター登録団体293団体	【地域支援課】 　市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体（サークル）が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 　また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多種多様な団体（サークル）の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【つくば市民センター】 　従来の市民サークルだけでなく、社会貢献活動団体、市外団体、営利目的団体、少人数団体の利用も認め、広く市民の活動や交流な場所を提供するために、施設の維持管理を行う。 　また上記団体の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【地域支援課】 地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 【つくは市民センター】 つくば市民センター利用者数20,000人 つくば市民センター利用件数3,000件	【地域支援課】 540,701千円 【つくば市民センター】 65,236千円	【地域支援課】 638,328千円 【つくば市民センター】 269,785千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容) No.	事業名	事業概要	担当課	評価の観点 (参考)令和6年度事業の成果・達成状況	令和7年度事業計画	事業費予算 令和6年度決算(単位:千円)	令和7年度予算(単位:千円)	進捗状況の点検・評価 実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	つくば市出前講座について、民間企業、研究機関等において22回実施することができた。 また、同事業において講座実施前の調整を円滑に進めるため事務手順の改訂を行った。前年度に引続き新規講座の募集も行い、1講座の新規登録があった。 民間企業等での講座開催数22回	民間企業等の意見を反映しながら、研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充を図っていく。 民間企業での講座開催数5回	0千円	0千円					
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	つくばちびっ子博士では、13本の動画を制作しそのうち10本を受託業者が制作した(3本は参加機関からの提供)。 令和6年度はさらに13本の過去動画のアーカイブも公開した。 動画の満足度については、アンケートにおいて動画を視聴した児童の内「もっと調べたい」、「つくってみたい」等の感想を持ったと回答した率を記入している。 視聴動画の満足度86%	生涯学習推進に関する講座等の動画本数は充実してきているため、各動画のさらなる内容の充実や満足度の向上を図っていく。 視聴動画の満足度80%	235千円	294千円					
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 地域交流センター講座において、夜間(17:30~20:00)講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 講座数 : 3講座(計9回) 講座内容 : 和紙で折る正月飾り(吉沼) チャイニーズエクササイズで健康作り(春日) 冬の親子天体観測(島名) 【つくば市民センター】 つくば市民センター講座において、夜間(18:30~20:00)講座のほか、土日開催など各講座のターゲット層が受講できる講座を企画・実施した。 講座数:6講座 講座内容:生花、工作、音楽、法務講座、NPO設立等 【地域支援課】夜間の休日講座数3講座 【つくば市民センター】夜間の休日講座数6講座	【地域支援課・つくば市民センター】 平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間・休日における学習機会を提供する。 【地域支援課】 夜間休日の講座数15講座 【つくば市民センター】 夜間休日の講座数5講座	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	【地域支援課】 5,726千円 【つくば市民センター】 3,748千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【生涯学習オンライン相談に関する調査】自治体による生涯学習に関するオンライン相談についてリサーチを実施した。行政相談そのものをオンライン化するケース等について知見を得た。	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の工夫や、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施し、相談につなげる。 近年は市内の企業や研究機関等から地域貢献の観点で相談があることも多いため、積極的な情報や意見の交換に努める。相談にあたってはオンラインでの対応も実施する。	0千円	0千円					
								相談数5回	相談数5回							
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	広報つくば令和7年5月号において、つくば未来塾・家庭教育学級・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・生涯学習指導者情報提供事業をまとめた特集記事を掲載した。 また、課内の事業周知のおいて、つくスマ・Facebook・X(旧Twitter)・Instagramによる幅広い周知を行った。	つくば市報、ホームページ等でそれぞれの生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図っていく。アプリケーション、SNS等も積極的に活用していく。	0千円	0千円					
								広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数46回	広報誌を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数15回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	つくば市生涯学習指導者登録制度についてホームページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向けの情報を同じページで発信すること等わかりやすいホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、11月に実施した事業終了後、アンケート及び記録を作成した。今後の障害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。 分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	「情報収集・発信時用」及び「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に引き続き努め、また、生涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を考える。 分野横断的な情報発信2回 ホームページの改修1回 障害者の生涯学習の取組に際した意見交換1回	0千円	0千円					
			9	1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	【職員向け広報セミナー実施】 職員を対象にセミナーを3回実施した。 ・1回目:10月スマホで簡単!動画制作講座(119人) ・2回目:チラシ作成実践講座(25名) ・3回目:「つくば市公式SNSの活用講座」(15名) 【広報事業へのアドバイスの実施】 チラシやポスター等のデザインチェックを446件、デザインの好事例集の紹介を5回行った。また、動画配信に係る撮影やその支援を随時行った。 セミナー参加者159人	【職員向け広報セミナーの実施】 市が行う各事業に関する情報が市民にしっかり伝わるよう、職員一人一人の広報力向上を目的として、引き続き職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、対面型と動画配信型を併用する。また、今年度は、アンケート等での効果測定を行い、次年度以降の効果的なセミナーの開催や内容改善に繋げる。 【広報事業へのアドバイスの実施】 年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。 セミナー参加者150人	0千円	33千円					
			10	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報紙等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	令和6年度は多言語での情報発信を全体的に見直し、外国語広報紙は季刊紙としての広報紙ではなく、長期的に利用できる「外国語生活ガイド」として各号テーマを設定して発行したほか、Xによる情報発信を再開し、タイムリーなイベント情報やお知らせの周知を図った。また、こども日本語勉強会については、ニーズを踏まえて新たに15-18歳を対象としたクラスを開設した。 外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数193回 大人向け日本語講座の受講者数203人 こども日本語勉強会の登録者数52人	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8言語で外国語生活ガイドを発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援 外国語生活ガイド発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数300人 こども日本語勉強会の登録者数50人	4,481千円	7,133千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	（参考）令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 （単位：千円）	令和7年度予算 （単位：千円）	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	「卓球バレー体験講座」を開催した。4団体32名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳：参加者32名、サポート9名 合計41名 講座参加者数41名 講座参加者の満足度94%	「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。 講座参加者数30名 講座参加者の満足度90%	31千円	86千円					
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの実施】社会保障制度や社会保険の仕組み、自分探し、家事シェア、防災力アップ、性の多様性等、幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は8回、参加者数は167人。 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度（アンケート実施）98%	【男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの開催】男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点から、特に、以下目的に応じて特定のテーマに焦点を当てたセミナーを実施する。参加者がより満足度の高い体験を得ることができたかを確認するため、アンケートを実施し、参加者の満足度を測定する。 ①経済的安定による幸福（well-being）の増進を図るため、家計管理や生活設計などお金に関する知識や判断力を身に付ける。 ②これまでの自身の経験を振り返り、特徴や強みを理解することに加え、自身の生き方・働き方や自身の幸福（well-being）について考え、主体的に選択しながら生きるための第一歩を踏み出せるような啓発を行う。 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー回数6回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度（アンケート実施）98%	7,226千円	5,826千円					
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	参加者の運動習慣化を促進するため、体験講座後に各2回のフォローアップを追加実施したことで、評価指標の実績値は目標値を大きく上回った。 講座の開催数6回 講座・教室の参加延べ人数30人	障害者スポーツが身近となる環境づくりを推進するため、障害者を対象としたスポーツ施設の体験講座を実施し、地域のスポーツ施設を利用するきっかけを創出するとともに、スポーツ推進委員が本講座における補助者となることで、障害者スポーツに係る知見の獲得につなげる。 また、各関係団体と連携しながら機運醸成を図っていく中で、今年度は（一社）シッティングスポーツ協会の協力を得て「障害者スポーツ体験出前教室」を新たに開始し、児童・生徒における障害者スポーツへの理解が深まるよう取り組んでいく。 講座の実施回数2回 講座の参加者数（延べ）20人 出前教室の実施回数10回 出前教室の受講人数（延べ）700人	755千円	1,509千円					
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、舞台発表、作品展示ともに実施できた。舞台発表においては前年度より来場者数が増加したこと、また、特別企画として福岡県で実施されたPEOPLE ART PERFORMANCEのイベントとオンラインでつなぎ、舞台発表に出演したダンサー（ALSり患）と合同でダンスを行う外部団体と連携したプログラムを実施した。また、県庁と市役所等で作品展示の巡回展を開催し、一般市民に対する事業活動を行った。 おひさまサンサン生き生きまつりは、開催日当日は天候不良であったが、天候状況に合わせた柔軟な運営により、可能な限りプログラムを実施することができた。 奉仕員養成講座は、各講座の受講人数にばらつきがあるが、受講回数を通してほとんどの受講生が修了することができた。 チャレンジアートフェスティバル1,995人 おひさまサンサン生き生きまつり228人（障害者のみ） 奉仕員養成講座42人	チャレンジアートフェスティバルは、作品展及び舞台発表を実施する。加えて茨城県庁と市庁舎内で作品の巡回展示を行い、一般市民への後方に取り組む。 おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門コースと基礎コースとも各30回、音訳・点訳・要約筆記奉仕員講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与する。 チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人 奉仕員養成講座75人	11,094千円	11,108千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	（参考）令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 （単位：千円）	令和7年度予算 （単位：千円）	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	15	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座（人間学講座）の実施	生涯学習推進課	市民と協働して組織する、つくば人間学講座実行委員会にて講座内容を決定し、3講座を開催した。 ・小児神経専門医が語る『「ゆくり」って知っていますか？』（2024/9/14参加者31名） ・「森へ行こう！」森林浴で健康になる（2024/11/16参加者31名） ・「いすに座ったまま、簡単ヨガ」（2025/1/25参加者33名） 参加者数95人 満足度87%	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供する。 参加者数330人 満足度80%	212千円	142千円					
			16	2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	・巡回企画展「中根・金田台地区の遺跡」を10月～2月で開催し、企画展986人、講演会91人、体験講座32人（市内在住・在学・在勤者）の来場者・参加者を得た。 ・古文書講座を初級講座（8～9月）・中級講座（1～2月）で実施し、初級講座28人・中級講座28人の参加者があり、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することができた。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象として発掘調査整理体験を行う「考古学体験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生（保護者含む）43人の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数986人	・10月～2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座・講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を実施する。難易度を2つに分け、8～9月に全4回・11～12月に全4回の、合計8回行う。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした出土品等の整理調査体験教室を実施するなど、市民が市内の文化財や史跡に親しめる機会を引き続き提供する。 巡回企画展等参加人数1,500人 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 古文書講座開催回数8回	5,809千円	6,325千円					
			17	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校司書等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用できるよう、IDとパスワードの配布を行った。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク38校 団体貸出冊数8,376冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数37人 学校司書等の研修参加人数50人 ファーストブック講座参加人数68人 レファレンス受付件数1,474件	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校図書館ブックトーク、団体貸出し（調べ学習の支援・学級文庫支援）、社会科見学・職場体験学習受け入れ、学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。 参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用できるよう、IDとパスワードの配布を行う。 つくば市域図書館連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数10,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等研修50人 ファーストブック講座参加人数60人 レファレンス受付件数1,500件	963千円	1,003千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容）				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	（参考）令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 （単位：千円）	令和7年度予算 （単位：千円）	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	18	2-(1)-ア	多文化共生推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	令和6年度は国際理解講座の拡充に力を注ぎ、これまで市内の小中学校を対象に実施していたものを新たに保育所やアフタースクール、親子向けイベントの場でも実施し、幅広い世代に向けて国際理解の啓発に取り組んだ。また、新たに「国際理解講座講師」として講師を担える留学生を募り、より多様な国・地域の紹介ができるよう体制を強化した。 国際理解講座開催数53講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数1事業	国際理解・異文化理解促進を図る国際理解講座等の開催 国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 国際理解講座開催数40講座 世界お茶のみ話開催数12回	655千円	999千円					
			19	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	参加者が集まらずに中止となった教室（障害者スポーツ体験教室）があった一方で、スポーツ振興の観点で新たに開催した教室（スケートボード教室）があったため、開催数は6回で目標値を達成した。 しかしながら、中止となった教室のほか、定員を下回った教室があったことで、全体としての参加者は目標値の半数程度に止まった。 教室の開催数6回 教室の参加延べ人数328人	各種スポーツ教室を開催することで、スポーツ実施率の向上はもとより参加者同士の交流機会を創出し、市民の心身両面における健康づくりを促進する。 本年度は、より多くの子どもたちが様々なスポーツに触れることができるよう、これまでの「子どものスポーツ体験教室」を拡充し、スポーツ協会とも密に連携しながらスポーツ少年団への入団のきっかけとなるよう取り組んでいく。 開催日数16日 参加人数（延べ）500人	708千円	642千円					
			20	2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	【地域支援課】 ・年間の講座開講数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間：令和6年11月29日～令和7年1月8日 回答状況：アンケート用紙配布数：991枚 回答数：597枚（うち、紙媒体595枚、電子申請2枚） 回答率：60% 【つくば市民センター】 年間講座数について、目標値を達成することができた。 施設使用者からの聞き取りやアンケート調査により、ニーズを把握しながら、新規の講座を企画した。 【地域支援課】年間講座数107講座 【つくば市民センター】年間講座数24講座	【地域支援課・つくば市民センター】 利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。 【地域支援課】 年間講座数106講座 【つくば市民センター】 年間講座数20講座	【地域支援課】 3,851千円 【つくば市民センター】 3,259千円	【地域支援課】 5,726千円 【つくば市民センター】 3,748千円					
			21	2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和6年度は、筑波山地域ジオパーク（構成各市及び協議会）として、生涯学習を目的とした講座等の企画（77回）、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学ぶきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座（出前講座）をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和6年度は1件の申し込みがあった。 市民向け講座等開催数4回 部会開催数11回 ジオガイド向け講座等開催数8回 学術シンポジウム開催数1回	令和7年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座（出前講座）について引き続き周知し、講座を開催する。 市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド向け講座等開催数5回 学術シンポジウム開催数1回	12,612千円	9,190千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の研究所等から生涯学習活動の実施に関する相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和6年(2024年)10月1日から、つくば市立みどりの南小学校の家庭科室・音楽室・多目的室の特別教室を市民に対して開放をスタートした。令和6年度は62回で延べ1178人に利用された。 〇内訳 みどりの南小学校　38回　延べ732人 香取台小学校　　　19回　延べ344人 研究学園小学校　　5回　　延べ102人	「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談をしやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。	0千円	0千円					
								相談数4回 特別教室学校開放数3校	相談数5回							
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級を対面方式で実施し、知識の習得のみならず、保護者同士のつながりづくりにも寄与した。また市内の企業に出向いて家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会とした。	家庭教育学級を継続して開催する。家庭教育学級の運営について、社会教育指導員が全面的にサポートを行い、講演会や保護者同士の意見交換会等を開催する。	4,516千円	5,256千円					
								家庭教育学級4,569名 家庭教育セミナー65回	家庭教育学級4,500名							
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	X(旧Twitter)、Facebook(つくばファンクラブ・市民活動のひろば)において指導者の新規登録を促す投稿を行った。つくばSDGsパートナーズのメールマガジンにも同様の投稿を依頼し、昨年度よりも積極的な周知を図った。 また、指導者として登録をする際の入力項目の整理・指導者情報を掲載する市ホームページのデザイン変更を実施し、検索性をさらに向上させた。	ホームページを活用し、積極的に情報発信を進めていく。指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備していく。	0千円	83千円					
								ホームページ閲覧回数17,040回 登録講師増加数16名	ホームページ閲覧回数10,000回 登録講師増加数15名							
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、小学校2校、中学校1校を開放した。 施設利用に関するルールの見直しを行い、事前に利用希望調査を実施することで、調整会議の円滑な運営ができた。 また、ランダムに学校を抽出し利用実態調査を実施した。この調査結果に基づき適正な体育施設利用を働きかける。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに学校体育施設開放管理システムを導入し、すべての手続きをシステム上で完結できるよう改善する。システムに連携したスマートロック(キーボックス)を同時に導入することで、学校のセキュリティ面の向上及び利用者の鍵管理負担の軽減を図る。また、利用実態のない団体へ適切な利用を促す。	622千円	15,420千円					
								小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開（個別事業内容） No.	事業名	事業概要	担当課	評価の観点 （参考）令和6年度事業の成果・達成状況	令和7年度事業計画	事業費予算 令和6年度決算（単位：千円）	令和7年度予算（単位：千円）	進捗状況の点検・評価 実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	・「文化財ボランティア養成講座」を実施し、新規のボランティアを増やすことができた。 ・解説ボランティアによる学校授業や「つくばちびっ子博士」などのイベントにおける展示施設の解説実施した。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意見交換会を1回開催した。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施したほか、5・11・1月に「常陸小田城親衛隊の会」と共催した、解説イベントを実施した。 ・活動を通じて市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	・各施設において、市民ボランティアが文化財課職員とともに、展示施設及び文化財の解説をする。 ・解説ボランティアが知見を向上し、文化財への理解を深めていくため、定例会や研修会、展示物作成補助などの機会を設ける。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施するほか、昨年度好評であった市と共催の解説イベントも、引き続き実施していく。	211千円	237千円					
								文化財ボランティア登録人数36人 意見交換会開催回数1回 研修会開催回数2回	定例会開催回数4回 研修会開催回数2回 常陸小田城親衛隊の会 解説イベント回数3回							
			27	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	企画経営課	登録者の活動回数について、新型コロナウイルス感染症の影響等により全盛期の実績数には至っていないが、活動回数の回復を目指し、以下のとおり対応した。 ・周知活動の拡大：令和5年度と比べ、便覧の配布先数を約90団体増加させた。 ・過去の利用者への利用促進：過去に本事業を複数回利用した実績がある団体に周知を行ったとともに、利用実績をフォローアップした。 結果として、令和5年度の活動回数74回から112回へ増加したため、上記の対応により一定程度効果があったと考える。 新規登録者数について、目標の達成には至らなかったものの、市広報誌での周知等により、定期的に新規登録者を獲得した。	活動回数の増加を目指し、これまでの周知先や過去の利用者への周知を継続して実施するとともに周知先の拡大を検討する。また、利用希望者に対し適切なマッチングにつながるよう、登録者の現況や活動意向について確認・整理を行う。	27千円	29千円					
								登録者の活動回数112回 新規登録数6人	登録者の活動回数300回 新規登録数10人							
			28	2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課、つくば市民センター	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体が自主的に企画し提案した公益的な事業に補助金を交付し、担当部署と協働で事業を実施することができた。 労働者協同組合の設立支援については、労働者協同組合運営費補助金を創設した。令和7年（2025年）1月、茨城県初となる労働者協同組合が設立し、補助金の申請を受け交付した。 【つくば市民センター】 市民協働課、社会福祉協議会と連携して市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民全体の公益的な活動を支援する。 労働者協同組合の設立を支援する。 【つくば市民センター】 市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。	【市民協働課】 5,094千円 【つくば市民センター】 3,259千円	【市民協働課】 9,575千円 【つくば市民センター】 3,748千円					
								アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数29件 市民センター相談件数69件	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35件 【つくば市民センター】 市民センター相談件数80件 取材団体件数35件 交流事業の実施回数2回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容) No.	事業名	事業概要	担当課	評価の観点 (参考)令和6年度事業の成果・達成状況	令和7年度事業計画	事業費予算 令和6年度決算(単位:千円)	令和7年度予算(単位:千円)	進捗状況の点検・評価 実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	29	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	芸術文化推進課	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつくば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、レクチャーコンサート(参加・体験型公演)を5回実施した。 主催事業の実施18事業	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、会計処理について指導を行う。 主催事業の実施18事業	1,200千円	1,500千円					
			30	2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	芸術文化推進課	ノバホールやカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業をすべて実施することができた。 文化芸術公演における入場率は、令和6年度は81%(令和5年度:67%)となった。 文化芸術公演事業入場率81%	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。 文化芸術公園事業入場率80%	55,000千円	55,000千円					
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、コロナ前の状況に戻りつつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、123の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねんりんスポーツ大会は、5月にグラウンドゴルフ予選会、6月につくば市大会(ゲートボール・ペタンク・輪投げ・グラウンドゴルフ)を開催した。予選会・市大会を合わせた参加者が前年度より3名増加した。 【シルバー人材センター】 新規入会者77名 退会者118名 前年度から41名減少した。 市からは、施設の受付/草刈り/清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。 シルバークラブ会員数5,607人 単位シルバークラブ数123団体 契約件数2,347件 参加者数511人	・シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 ・シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 ・高年齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 ・ねんりんスポーツ大会:茨城県健康福祉祭いばらきねんりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する)種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ペタンク、輪投げ) シルバークラブ会員数5,700人 単位シルバークラブ数125団体 契約件数3,400件 参加者数550人	41,385千円	43,949千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和6年度 事業の成果・ 達成状況	令和7年度 事業計画	令和6年度決算 (単位:千円)	令和7年度予算 (単位:千円)	実施状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	社会力に関する講座の実施4年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(＝社会力コーディネーター)を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力をいかした団体での活動体験を実施した。また、令和5年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回すべてを平日夜の開催とした。 活動体験においては4団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動にいかすことを目的として実施した。 体験自習参加者数6名 「社会力」を活かした今後の活動意向79%	令和7年度は社会力講座【ステージアップ版】として、既に何らかの活動に取組んでいる人や自身の講座で集客スキルを獲得したい人に向けた講座を年間で5回実施する。 受講生が活動を広報するための「人が集まる講座作り」というプチプロジェクトに挑戦し、人・物・金・情報等の社会資源をつなげてコーディネーションすることを体感する。 講座参加人数(1回あたり平均)25名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%	649千円	649千円					
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会については、令和6年度の講演テーマを「防災は自助・互助・協働のまちづくり～人・地域・そして未来～」として、大規模災害に対して市民・地域と行政機関等が連携・協力して取り組む内容を市公式YouTubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。 人材づくりイベントの参加者数390視聴数	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。 人材づくりイベントの参加者数600視聴者数	462千円	715千円					
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】 地域主体のまちづくりを行うつくば市内の「小田地区」を対象とした見学会、 つくば市のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、 多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し 適切に専門家を派遣することができた。 また、制度の周知のために、R6年9月号の広報つくばにて案内を掲載した。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣5回	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるようワークショップや現地見学会を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。 都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣6回	187千円	295千円					

資料4-1

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画 骨子案

※第４次計画書における第３章「計画の基本的考え方」相当

目　次

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案 ・・・・・・・・・・・・2

1　基本理念・・・2

2　基本方針・・・3

3　基本目標・・・4

4　計画骨子の体系案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

骨子案での論点

・令和６年度第３回審議会で議論した基本理念～計画骨子の体系案について、修正を加えたものを提示しますので、今回の会議の中で決定いただきたいと思います。

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画骨子案

1　基本理念

人生 100 年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。

つくば市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。
さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。

こうした状況を踏まえ、第４次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。

このような考えから、第４次計画の基本理念を

学びを楽しみ　世代がめぐる
つくばでつながる　幸せのまち

と設定します。

【参考】「つながり」は、ＷＳで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第３次計画のスローガンからも継承した。
「めぐる」は、ＷＳで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代等を超えてめぐり、好循環を促進することを意図する。「幸せのまち」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが生きがいをもち、幸せになるような持続可能なまちを目指していきたいという思いを込めている。

2　基本方針

基本理念の実現に向けて取り組む基本方針は、教育大綱において「つくば市の教育が目指すもの」として掲げた２つの方向性に対応し、以下のように定めます。

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

誰もが生涯学習（学び）を通して自分らしく生きることができる社会を目指し、市民が誰でもいつでもどこでも楽しく学ぶことができるよう、多様な機会や場の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが質の高い学びを通して、より豊かな人生を実現できるよう、デジタルの活用やアクセス性の向上、学習内容の高度化、情報共有や発信、利用環境の向上を図ります。

基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

地域がより良い状態（幸せ）になるために、生涯学習（学び）を通じて、個人と地域がつながり、共に成長しながら「社会力」を育み、発揮していくことを目指し、まずは、「社会力」への理解を深め、その実践を後押しする機会の充実を図ります。

また、「社会力」をいかす場や機会を整え、「社会力」の源である人材を育成します。

さらに、それが持続可能な形で学びとつながりの好循環を生む仕組みづくりを推進します。

3　基本目標

本計画の推進にあたり、基本方針１と２に対応する５つの基本目標を定めます。

【基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進】

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実

誰もが自分らしく学び続けられるよう、参加機会の拡充と学びの障壁の解消を進めます。

学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるためには、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。

また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を取り除く取組を推進します。

■施策の方向性■

1　参加機会の拡充
2　主体的な生涯学習活動の促進
3　参加の障壁を取り除く取組の推進

（参考）「施策の方向性」は、具体的な個別の施策（事務事業）を方向性ごとにまとめたものです。今回示す「施策の方向性」は議論の参考とするためのイメージで、詳細については次回以降の審議会において議論をする予定です。

基本目標２　多様で質の高い学びの充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、世代を越えて集い学べる環境を整えます。

誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。

また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。

■施策の方向性■

1　生涯学習の情報提供・相談体制の充実
2　市民が集い学ぶ環境の充実

【基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進】

基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが学びの成果を実践につなげる第一歩です。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。

■施策の方向性■

1 社会力への気づきを促す取組の充実
2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

基本目標４　成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成等を図ります。

■施策の方向性■

1 成果をいかした活動の支援・促進
2 社会力を発揮できる多様な人材の育成

基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。

　市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められています。そのため、地域交流センターなど「社会力」を基盤とした学びの拠点を充実させ、様々な主体による取組や人と人とのつながりが相互に広がっていく学びのネットワークの構築を図ります。

　また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、ネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性■

1　ともに育てる学びのネットワークづくり
2　地域で学び続ける仕組みづくり

4　計画骨子の体系案

基本理念	基本方針	基本目標	施策の方向性	未来への取組	未来像
学びを楽しみ　世代がめぐる つくばでつながる　幸せのまち	1. 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進	1. 誰一人取り残さない学びの充実	1 参加機会の拡充 2 主体的な生涯学習活動の促進 3 参加の障壁を取り除く取組の推進	未来への取組（仮）（5年間で未来に向けて取り組むこと）	つくばの学びの未来像（仮）
		2. 多様で質の高い学びの充実	1 生涯学習の情報提供・相談体制の充実 2 市民が集い学ぶ環境の充実		
	2. 地域全体で社会力を育み、いかす生涯学習の推進	3. 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	1 社会力への気づきを促す取組の充実 2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実		
		4. 成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	1 成果をいかした活動の支援・促進 2 社会力を発揮できる多様な人材の育成		
		5. 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	1 ともに育てる学びのネットワークづくり 2 地域で学び続ける仕組みづくり		

資料　施策の展開（構成イメージ）

次回以降議論予定

資料 4-2

■骨子案 新旧対照表

No.	頁 ()は旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第１回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
1	2	1 基本理念	人生 100 年時代を迎え、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。	人生 100 年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。	・長橋委員の意見を受け修正。 (人生は長いという趣旨の文言を追加)
2	2	1 基本理念	つくば市は、質の高い人材、研究・教育機関、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらの豊富な資源を背景に、各種施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まっていますが、資源の活用方法には課題がみえており、生涯学習情報の提供や学習の場・機会へのアクセス等の課題、地域や人とのつながりの希薄化といった課題も残されています。また、世代ごとの学びのニーズや成果を発表する場の充実も求められています。 さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつある一方で、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」を発揮するという側面では課題が残っています。	つくば市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。 さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。	・後藤委員の意見を受け修正。 (質の高い人材、は不要ではないか) 研究・教育機関に含む。 ・全体的に「課題」という文言が多かったため解消し、あわせて重複しがちな表現や言い回しが適切でない部分を修正。
3	2	1 基本理念	こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せの追求すること、地域の中で世代を超えて学びの成果がめぐり、学びの好循環を生み出すことで、すべての人が幸せになる持続可能な社会の実現を目指します。そのため誰もが学びを楽しむ機会や環境を享受することを可能にするとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。	こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。	・世代「等」は世代以外(国籍や障害の有無など)も含む意図として修正。 ・審議会全体として「生きがい」のフレーズが頻出したため、「生きがい」を追加。 ・持続可能な「まち」は後述の理念に合わせて修正。 ・黒崎委員の意見を受け修正。 (学びが先ではなく、つながりが先にくるのではないか)
4	2	1 基本理念	このような考えから、第4次計画の基本理念を つながり めぐり 幸せを生むつくばの生涯学習 と設定します。 別案 案１ つながり めぐる 学びのステージ 案２ つながり 学び合う 幸せ広がる つくばのまち 案３ 学びを楽しみ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せの輪	このような考えから、第4次計画の基本理念を 学びを楽しみ 世代がめぐる つくばでつながる 幸せのまち と設定します。	・審議全体の意見を受け、別案3をベースとした理念に修正。 ・中嶋委員より審議会後に御意見をいただき、別案3「幸せの輪」⇒「幸せのまち」へ修正。

資料 4-2

No.	頁 ()は旧	項目	令和6年度　第3回生涯学習審議会資料　表記	令和7年第１回生涯学習本部会(審議会)資料　表記 ◆赤字　審議会の御指摘への対応 ◆青字　事務局案（表現・言い回しの修正・追加）	修正理由等
5	2	1 基本理念	【参考】「つながり」は、WSで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第3次計画のスローガンからも継承した。 「めぐり」は、WSで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代を超えてめぐり、好循環を促進することを意図して追記した。「幸せを生む～」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが幸せで持続可能な社会の実現を目指していきたいという思いを込めている。	【参考】「つながり」は、WSで頻出した言葉であり、未来構想の考え方や第3次計画のスローガンからも継承した。 「めぐる」は、WSで世代間の学び合いが重要との意見が多く、学びの成果が世代等を超えてめぐり、好循環を促進することを意図する。「幸せのまち」はウェルビーイングや教育大綱の考え方を踏まえるとともに、上記の好循環により、誰もが生きがいをもち、幸せになるような持続可能なまちを目指していきたいという思いを込めている。	・全体的に基本理念の修正に合わせて修正。
6	3	2 基本方針	基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学ぶための生涯学習の推進	基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進	・中嶋委員より審議会後に御意見をいただき、行政側の視点から、市民の学ぶ姿を主語にした「学べる」へ修正。
7	3	2 基本方針	基本方針２　地域全体で「社会力」を育みいかす生涯学習の推進	基本方針２　地域全体で社会力を育み、いかす生涯学習の推進	・複数表記揺れがあったため、「育み」と「いかす」を区切る読点で統一。
8	4	3 基本目標	基本目標1　誰一人取り残さない学びの充実	基本目標1　誰一人取り残さない学びの充実 誰もが自分らしく学び続けられるよう、参加機会の拡充と学びの障壁の解消を進めます。	・どのようなことを行うかがわかるようリード文（簡易説明文）を追加。
9	4	3 基本目標	学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きられるよう、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を無くす取組を推進します。学びを支える仕組みづくりにより、誰一人取り残さない学びの充実を目指します。	学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるためには、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、子どもから高齢者までライフステージに応じた参加機会の拡充を図ります。 また、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。 さらに、誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、障害の有無や性別、国籍などによって生じる様々な障壁を取り除く取組を推進します。	・障壁を「無くす」から、配慮していく意図と実行可能性のある表現である「取り除く」に修正。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。
10	4	3 基本目標	■施策の方向性（イメージ） ・参加機会の拡充 ・主体的な生涯学習活動の促進 ・参加の障壁をなくす取組の推進	■施策の方向性■ 1　参加機会の拡充 2　主体的な生涯学習活動の促進 3　参加の障壁を取り除く取組の推進	・上記理由からあわせて修正。
11	4	3 基本目標	基本目標2　多様で質の高い学びの充実	基本目標2　多様で質の高い学びの充実 一人ひとりに合った学びにアクセスでき、世代を越えて集い学べる環境を整えます。	・どのようなことを行うかがわかるようリード文（簡易説明文）を追加。
12	4	3 基本目標	誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、学びの情報提供と相談体制を強化し、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。学びの環境を整えることで、多様で質の高い学びの充実を目指します。	誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージに応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。 また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。	・多様なアプローチによる提供を意図して「幅広い」を追加。 ・体制等の「強化」の前に、まずは根本の「充実」が必要と考え、修正。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。

資料 4-2

No.	頁 ()は旧	項目	令和6年度　第3回生涯学習審議会資料　表記	令和7年第１回生涯学習本部会(審議会)資料　表記 ◆赤字　審議会の御指摘への対応 ◆青字　事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
13	4	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ・生涯学習情報の提供・相談体制の充実 ・市民の居場所・たまり場の充実	■施策の方向性■ 1 生涯学習の情報提供・相談体制の充実 2 市民が集い学ぶ環境の充実	・生涯学習施策としての意図がやや伝わりにくいため、「集い学ぶ環境」とすることで学習活動との関係性をより明確化した。
14	5	3 基本目標	基本目標3　気づきとつながりを育む意識づくりの推進	基本目標3　気づきとつながりを育む意識づくりの推進 社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。 ・文言は、元の文章の「施策の方向性」の☆の文章をいかした。
15	5	3 基本目標	市民の「社会力」に関する理解を今後も進める必要があるなか、生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、その入り口として、「社会力」の重要性を認識すること、気づきが重要であることから、市民が学びの成果を実践にいかせる最初の一歩・ファーストステップを踏み出せるよう、様々な機会と場の提供し、「社会力」を理解し実践していくための意識づくりに取り組みます。	生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが学びの成果を実践につなげる第一歩です。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。	・基本目標3～5の考え方を整理。(ここは社会力の啓発、地域を知るという「ホップ」の視点。) ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。 ・「地域とのつながり」の視点を追加。 ・黒崎委員の意見(学びより先につながり)を受けて、「関わりを通じて学びを深める」と修正。 ・一歩を踏み出す機会から、まずは気づきの機会と意識醸成という点で修正。
16	5	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆社会力への気づき・ファーストステップを踏む市民を増やす ・社会力に気づかせる取組の充実 ・地域や他者を知る、つながりのきっかけづくり(≒地域で学ぶきっかけづくり)	■施策の方向性■ 1 社会力への気づきを促す取組の充実 2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・1 は押しつけがましい表現だったのを主体的な気づきを後押しする表現へ修正。 ・2 は他者を知ってつながるを、地域のつながりと表現を変更。
17	5	3 基本目標	基本目標4　人材の育成と成果をいかした取組の充実	基本目標4　成果をいかした活動の支援と人材育成の推進 学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。	・基本目標・施策の方向性では、活動支援・人材育成の順番のため基本目標(タイトル)も修正。 ・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。

No.	頁 ()は旧	項目	令和6年度　第3回生涯学習審議会資料　表記	令和7年第１回生涯学習本部会(審議会)資料　表記 ◆赤字　審議会の御指摘への対応 ◆青字　事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
18	5	3 基本目標	多様な人材や資源を有効に活用するための仕組みづくりが求められていることから、市民が取り組む活動の効果として地域全体で「社会力」が向上するよう、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするなど、地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。また、活動を支える多様な人材の育成や、「社会力」のあり方を次世代に継承し、これから学ぶ市民にとってのロールモデルとなるリーダーの育成等を図ることで、「社会力」の向上とその成果をいかした取組の充実を目指します。	市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成等を図ります。	・基本目標3～5の考え方を整理。(ここは活動支援と人材育成「ステップ」) ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。より何をするかをかわるよう補足した。 ・元文章の最後の1文はタイトルと重複するため削除。 ・下記施策の方向について、溝上委員の意見を受けて、多様な人材について補足した。 ①多様な属性…2行目「多様な人材が活躍できる環境」 ②多様な役割…これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承するロールモデルとなるリーダーの育成
19	5	3 基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆他者とのつながり、学びの成果をいかした取組を生み、増やす ・社会力をいかして活動を起こす(実践) ・リーダー育成 ・市民のアクションの受け皿・制度を運営創出 ・生涯学習を実践する多様な人材の育成	■施策の方向性■ 1 成果をいかした活動の支援・促進 2 社会力を発揮できる多様な人材の育成	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・4つの方向性を大きく2つの観点で集約。「実践する市民・団体の支援」と「人材育成」 ・溝上委員の意見を受け(「多様な人材」とは何を指すか。)文言を検討した結果、「社会力を発揮できる」を頭に追加し上記基本目標の文章で少し補足した。 (多様な人材とは、①多様な属性・キャリアの人材、②多様な役割が期待される人材の2側面の意図で、それをまとめて「社会力を発揮できる」とした)
20	6	3 基本目標	基本目標5　持続可能な学びとつながりの好循環の創出	基本目標5　持続可能な学びとつながりの好循環の創出 学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環するしくみづくりを進めます。	・どのようなことを行うかがわかるようリード文(簡易説明文)を追加。

資料 4-2

No.	頁 ()は旧	項目	令和6年度 第3回生涯学習審議会資料 表記	令和7年第１回生涯学習本部会(審議会)資料 表記 ◆赤字 審議会の御指摘への対応 ◆青字 事務局案(表現・言い回しの修正・追加)	修正理由等
21	6	３基本目標	将来にわたり地域へ学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続く好循環を育むために、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められていることから、「社会力」を基盤とした学びのプラットフォームの充実を図るとともに、様々な取組が相互に広がる学びのネットワークの構築を図ります。また、様々な取組・活動が持続的に発展するよう、学びのネットワークをいかした地域で学び続けるための仕組みづくりに取り組み、学びとつながりの好循環を目指します。	市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人とがつながる機会づくりが求められています。そのため、地域交流センターなど「社会力」を基盤とした学びの拠点を充実させ、様々な主体による取組や人と人とのつながりが相互に広がっていく学びのネットワークの構築を図ります。 また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、ネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続けるための仕組みづくりを進めます。	・基本目標3～5の考え方を整理。(ここは自走し広がり循環する視点「ジャンプ」)市民が自ら主体的に動き、つながっていく(ネットワーク化)意図の文章に補足した。 ・全体的に冗長になっていた文章を精査し、区切る形で修正。 ・学びのプラットフォームのイメージとして、新規につくるだけではなく既存の事業の強化の意図として、「地域交流センターなど」の施設名を追加した。 ・「プラットフォーム」を具体的な場所のイメージを持たせるよう「拠点」と言い換えた。
22	6	３基本目標	■施策の方向性(イメージ) ☆生まれた取組が持続し広がり続けさせる ・活動や枠組みを維持し、学び続けるための支援実施 ・つながりを広げていく取組・ネットワーク化 ・地域で学び続ける仕組みづくり	■施策の方向性■ 1 ともに育てる学びのネットワークづくり 2 地域で学び続ける仕組みづくり	・他の基本目標の、施策の方向性とレベルを合わせた。 ・3つの方向性を大きく2つの観点で集約。「学びのネットワークの構築」と「地域で学び続ける(活動を維持していく)仕組みづくり」 ・「ともに育てる～」は、生涯学習ネットワークだと環境づくりのみの側面と捉えられかねるため、相互に自発的につながるという意図で表現を変更。
23	7	４ 計画骨子の体系案	体系図	体系図	・体系図を1つに集約。(内容を上記の修正に合わせて変更) ・次回以降議論予定である未来への取組、未来像の追加。

資料５

○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

（設置）

第1条　市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動（以下「生涯学習」という。）の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条　審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

(1)　生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項

(2)　その他生涯学習の推進に必要な事項

（組織）

第3条　審議会は、委員25人以内で組織する。

2　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1)　市議会議員

(2)　各種団体等の代表者

(3)　学識経験者

(4)　市内に在住し、在勤し、又は在学する者

（平9条例43・平30条例29・一部改正）

（任期）

第4条　委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　委員は、再任されることができる。

3　前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

（平9条例43・一部改正）

（会長及び副会長）

第5条　審議会に会長及び副会長を置く。

2　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（平9条例43・一部改正）

（会議）

第6条　審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2　会長は、会議の議長となる。

3　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（部会）

第7条　審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2　前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

（委任）

第8条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成9年条例第43号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成30年条例第29号）

この条例は、公布の日から施行する。

つくば市生涯学習審議会委員

資料６

任期：令和6年8月１日 ～ 令和8年7月31日

※令和7年(2025年)6月９日現在

No.	氏名	よみ	任命区分
1	石川 由美子	いしかわ ゆみこ	市民委員
2	石塚　一夫	いしつか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会 会長
3	石原　亜矢子	いしはら あやこ	各種団体等の代表者 つくば市学校長会（つくば市立要小学校 校長）
4	黒崎 博	くろさき ひろし	市民委員
5	後藤　真紀	ごとう まき	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会 会長
6	小森谷　さやか	こもりや さやか	市議会議員
7	鈴木　朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん 代表理事
8	武田　直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ 理事長
9	田中　秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会 会長
10	田中　依子	たなか よりこ	市民委員
11	中嶋　修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会 副会長
12	長橋　進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会 顧問
13	萩原　武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会 会長
14	福井 正人	ふくい まさと	市民委員
15	溝上　智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 国士舘大学 特任教授
16	山崎　誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会 世話人代表

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
(1) 市議会議員
(2) 各種団体等の代表者
(3) 学識経験者
(4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

参考資料1

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画 施策の展開（構成イメージ）

※第４次計画書における第４章「施策の展開」相当

目　次

施策の展開（構成イメージ） ……………………………… 2
基本方針１ …………………………………………………… 2
基本目標１ …………………………………………………… 2

施策の展開での論点

・施策の展開（具体的な計画部分）の構成イメージ（基本目標１を例示）を提示します。本構成で基本目標１～５まで構成する予定（次回提示予定）であり、このまま進めて良いかご議論いただければと思います。

※施策の方向性の内容（どのような施策を進めるか）が簡易的に入れています。本内容は
イメージであり、関連する事業内容（調査中）により内容が変わります。

施策の展開（構成イメージ）

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実

成果指標

成果指標項目	現況 （令和 6 年度） （2023 年度）	目標値 （令和 12 年度） （2030 年度）
【第３次から】生涯学習に取り組んでみたい人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	81.9% （3.8 ポイント増）	86.0% （4 ポイント増目指す）
【第３次から】実際に学習活動に取り組んだ人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	65.0% （7.1 ポイント増）	70.0% （5 ポイント増目指す）
【新】障害者の生涯学習に関する指標（参加者数、満足度）など		

成果指標は項目及び数値を見直し検討します。（継続・強化を図る）

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

施策の方向性の内容（どのような施策を進めるか）が簡易的に入れています。本内容はイメージであり、関連する事業内容（調査中）により内容が変わります。

施策の方向性１　参加機会の拡充

子どもから高齢者までライフステージに応じた多様なニーズを前提としながら、誰もがどんな時も気軽に学ぶことができるよう、生涯学習への参加機会の拡充を図ります。そのため、年齢やライフステージなどによって異なる市民ニーズを的確にとらえた生涯学習の提供方法（カリキュラム・分野展開・難易度・頻度・時間帯・開催場所・開催方法など）を研究・調査し、柔軟かつ効果的に事業を見直しながら提供していきます。

【参考】第３次計画における関連する事業
オンラインによる生涯学習講座事業、地域交流センター活用事業、家庭教育学級支援事業、民間企業での生涯学習事業　＋新規事業（調査中）

施策の方向性２　主体的な生涯学習活動の促進

市民一人ひとりが主体的に学び、自らの能力をデザインしていくことができるよう、市民の主体的な生涯学習活動を支援します。そのため、地域交流センターを拠点とした生涯学習活動への主体的な参加の促進に努めるとともに、高度な学習ニーズ、キャリア形成のための学習への対応として、高等教育機関・研究機関・企業と連携したリカレント教育やリスキリングの充実を図ります。

【参考】第３次計画における関連する事業
地域交流センター講座等事業、男女共同参画啓発事業、民間企業での生涯学習事業、スポーツ教室事業
＋新規事業（調査中）

施策の方向性３　参加の障壁を取り除く取組の推進

多様性を認め合う社会的包摂の精神のもと、障害者、外国人など社会的に制約がある市民、年齢や性別により制約がある市民の生涯学習機会の拡充を図ります。そのため、参加の障壁を取り除く取組として、生涯学習活動（講座・セミナー・自主的な活動など）に係るソフト・ハード両面での支援を総合的に推進していくとともに、庁内連携、民間や教育機関など多様な主体の連携により、誰もが参加しやすい生涯学習環境をつくります。

【参考】第３次計画における関連する事業
障害者の生涯学習関連事業、障害者スポーツ推進事業、生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）、外国人市民向け情報発信・講座事業、生涯学習ワンストップ対応事業　＋新規事業（調査中）

※未来への取組（仮） イメージ

参考資料2

■ 未来への取組

■ 未来≒幸せのまち に向けて取り組むことは？

基本理念に掲げる「幸せのまち」は、生涯学習を通して、市民一人一人が学びたい、人と繋がりともに学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習の未来に向けての取組・施策は、そこに繋がっています。生涯学習を通して活動している市民は誰もが実感する想いです。

マズローの欲求5段階説などを参考に考えてみると、生涯学習の学びは、市民のライフステージや関わり方の段階によって、**社会的欲求（所属と愛の欲求）、承認（尊敬）の欲求、自己実現の欲求**の各段階と親和性がありそうです。

■ 生涯学習の推進におけるライフコースの考え方

この計画は、様々なライフステージに対応した取組を示しています。

つまり、市民が生涯学習に取り組もうとする「現時点」から5年後の未来に向けての施策・事業を示していることになります。

ところで、市民一人一人の人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、5年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っているものです。

また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の3ステージモデルのライフコース「教育～仕事（労働）～引退（老後）」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行しています。

つくば市では、ライフステージへの対応を考えるにあたって、マルチステージモデルのライフコースも想定し、この計画で推進する施策・事業がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。

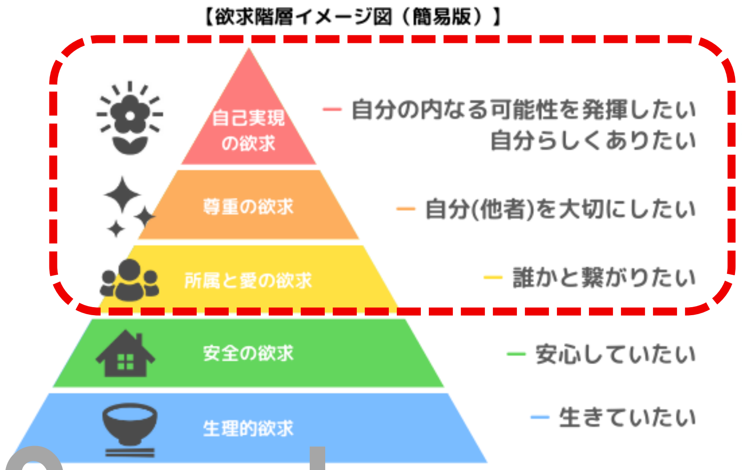
■ 5つのライフコース・5つのペルソナ

本計画では、様々なライフコースにあるペルソナをモデルとして設定し、つくば市で学んでいる姿を示します。計画に示す施策をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているかを、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにあるペルソナを通して展開していきます。

また、1人の人生には様々な人々が関わっており、ともに学ぶ仲間には、別のストーリー（ライフコース）があることも、あわせながら、「つくばの学びの未来像」を描きます。

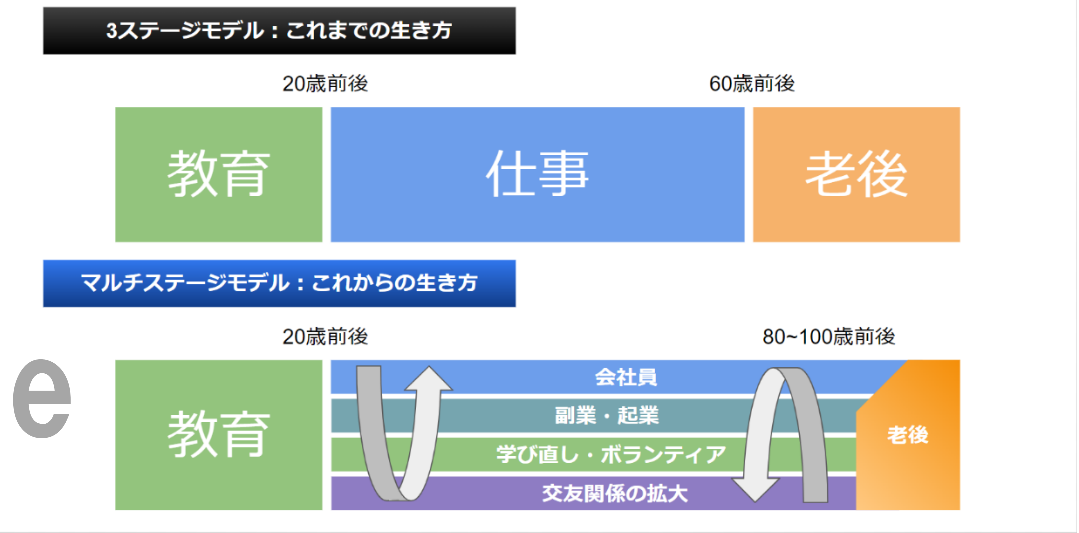
→つくばの学びの未来像（参考資料3）につづく

■欲求階層のイメージ図■



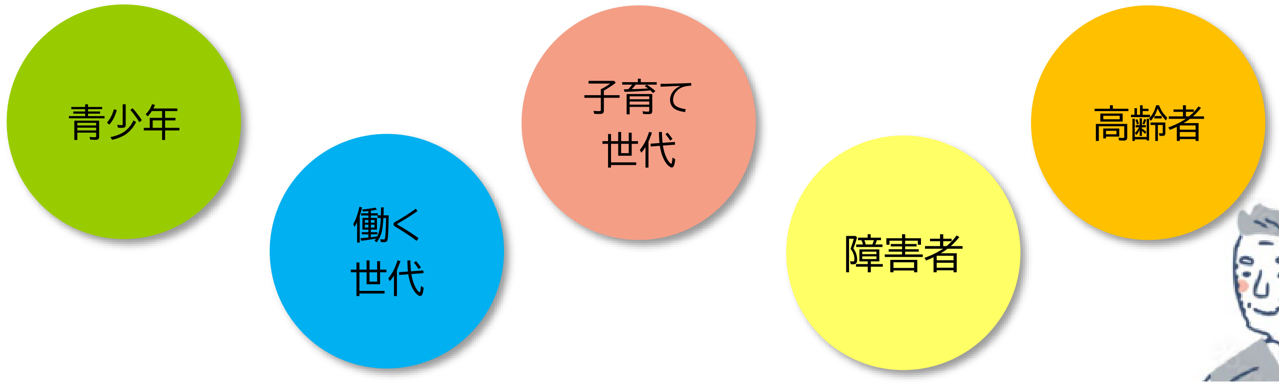
Sample

■3ステージモデルとマルチステージモデル■



Sample

■5つのライフコース・5 つのペルソナ■



↑参考資料3

つくばの学びの未来像　イメージ

参考資料3

高齢者【リタイア前～リタイア後】

55歳の誕生日、人生が少し動き出した日

中村さん（70 歳） つくば市居住歴 35 年　転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦2人＋犬1匹暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた 55 歳の誕生日。

その日、我が子からふと言われた言葉が心に残りました。

「私たちばかりに構ってないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」 その何気ないひと言が、**自分のこれからについて考える**きっかけになりました。

ちょうどその頃、**市の SNS で「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけた**んです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！

参加した講座はどうでしたか？

仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、**趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについて**も学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験が生かせて、さらに、地域の人と関われることがいいなと思うようになりました。

実際にはどんなことを始めたのですか？

研究員として働いていた当時は、負担の少ない形で、**科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わる**ことにしました。

子どもも大人も楽しそうに実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感があって、何とも言えないやりがいを感じていました。

その後、活動を続けてみていかがですか？

仕事を引退して時間ができた今は、**団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり**、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を**次の講師となるように育てたり**しているところです。

ちなみに、活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身ともに健康的な生活を送っています。思い切って一歩踏み出したことで、人生がより豊かになりました！

令和7年度第1回生涯学習審議会　事前質問票

資料番号	ページ	質問内容	担当課からの回答
資料2-2	ページ1	事業番号2　つくば市民センター 吾妻交流センター当時利用状況を確認したい。	利用件数　利用者数　登録団体数 R3　1,386　14,901　80団体 R4　1,671　13,905　77団体 R5　1,268　12,136　67団体 （R5.12末閉所）
資料2-2	ページ1	事業番号2　つくば市民センター 「今後の取組」欄について 駅近の立地は当然であるが、一方駐車場からのアクセス等考慮するとイベントに活用促すとありますが、結構大変なことではないか？	令和6年度つくば市民センター講座アンケート結果では、自家用車以外の受講者が42％であったこと、また、令和5年度のつくバス利用者数が過去最高を達成するなど、公共交通の利用者は年々増加している現状を踏まえ、会場探し（場所のマッチング）の相談時における提案から始めていくことを考えています。
資料2-2	ページ7	事業番号21　ジオパーク室 ジオパーク登録当初より話題、市民への響きがかなり低下していると感じます。 市の観光事業とも合わせて推進する意義は大きいと思う。改めて見つめなおす必要があると思います。	ジオパークの認知度につきましては、依然として課題であると認識しており、様々な取り組みを進めています。 2023年11月につくばジオミュージアムがオープンし、1年以内で来館者数1万人を突破するなど、順調なスタートを切ることができました。 また、学習教材として活用できる副読本「るるぶ特別編集筑波山地域ジオパークがわかる大地のひみつ図鑑」や、未

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>就学児～低学年向け絵本「ひみつのてっぺん」を作成しました。
さらに、つくば市観光推進課、つくば観光コンベンション協会と共同で市内アニメ制作会社とのコラボイベント等も開催しています。引き続き、観光事業及び構成6市と連携しながら、幅広い層に向けたアプローチにより、ジオパーク認知度向上に努めてまいります。

<u>ジオミュージアム令和5年11月開始</u>
来館者数　令和5年度：6,771（11～3 月）
6年度：10,755（4～3 月）</td></tr>
<tr><td>資料
2-2</td><td>ページ 7</td><td>事業番号21　ジオパーク室

市民向け講座等々の参加者等の推移を具体的に知りたい。</td><td>市民向け講座参加者数<table><tr><td></td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td><td>R6</td></tr><tr><td>開催数</td><td>５回</td><td>３回</td><td>４回</td><td>４回</td></tr><tr><td>参加者数</td><td>67 名</td><td>57 名</td><td>64 名</td><td>103 名</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>資料
3</td><td>ページ1</td><td>事業番号2　つくば市民センター
「令和7年度事業計画」の指標について

市民センターの事業計画・登録団体から利用件数に変更した理由を知りたい。</td><td>つくば市民センターは地域交流センターと異なり、従来の市民サークルだけでなく、営利団体や市外団体の利用が可能な施設なため、未登録での利用が多いことから、施設の利用状況を数値化するにあたっては、利用件数を指標とした方が適切と判断したためです。</td></tr>
</table>

資料 3	ページ 11	事業番号 33 市民協働課 「地区リーダー勉強会の開催」について 勉強会の開催時期が8月又は9月開催の理由を教えてください。 （区会の新会長・役員の選出・引継ぎのタイミングで実施するのが望ましいのではないか？） また、初めて区会の会長や役員になった方向けの勉強内容があると良いと思いました。	5月末に区会連合会の総会を行い、代表を決めています。その後、6月中旬に役員会を開き、勉強会の計画を行います。それから講師の依頼等調整を行うので、勉強会を開催することができるのは早くて 8、9 月になってしまいます。目標としては8、9月と出していますが、時期がもっと後にずれることもあります。

会　議　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">令和７年度第２回つくば市生涯学習審議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和７年８月 26 日（火）　開会午後２時　閉会午後４時</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">つくば市役所　201 会議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td colspan="3">教育局生涯学習推進課</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">武田 直樹委員（会長）、小森谷 さやか委員（副会長）、
石川 由美子委員、黒崎 博委員、後藤 真紀委員、
鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、
中嶋 修委員、長橋 進也委員、萩原 武久委員、
福井 正人委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">森田 充教育長</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">久保田 靖彦教育局長、柳町 優子教育局次長、澤頭 由紀子
生涯学習推進課長、山口 健次参事、瓜阪 恵理名課長補佐、
松橋 千栄係長、小宅 剛主事、大久保 竣介主事</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開・非公開の別</td><td>■公開 □非公開 □一部公開</td><td>傍聴者数</td><td>０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">非公開の場合はその理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議題</td><td colspan="3">（１）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　基本理念について
（２）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開について
（３）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　未来への取組について
（４）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　つくばの学びの未来像について</td></tr>
<tr><td>会議次第</td><td colspan="4">１　開会
２　挨拶
３　議事
（１）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　基本理念について
（２）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開について
（３）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　未来への取組について</td></tr>
</table>

	（４）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　つくばの学びの未来像について ４　そのほか ５　閉会

１　開会	
事務局（瓜阪）	皆様、改めましてこんにちは。ただいまから令和７年度第２回、つくば市生涯学習審議会を開会いたします。つくば市教育局生涯学習推進課の瓜阪と申します。本日司会をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。
２　挨拶	
事務局（瓜阪）	始めに、教育長の森田から皆様に挨拶申し上げます。
森田教育長	皆様こんにちは。教育長の森田でございます。暑いですね。今も35 度ぐらいにはなっているようです。子供たちが登校する初日の９月１日が 37 度という予報で、今日も先生方に１日の登校時の暑さ対策をしっかり子供たちに伝えてくださいという話もしたんですけれども、皆さん体調いかがでしょうか。疲れも大変大きくなるんじゃないかなと思いますが、ぜひ皆さん御体調には御留意いただければと思います。そのような中、お忙しい中、この会議の方にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。本日も第４次の推進計画についての協議ということになります。１回目の会議の中でも様々な御意見、貴重な御意見いただきまして本当にありがとうございました。本日この２回目の会議ですけれども、また皆様方それぞれの立場から忌憚のない御意見頂戴できればというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。
３　議事	
事務局（瓜阪）	続きまして、次第の３　議事に進みます。議事の進行につきまし

	ては、つくば市生涯学習審議会条例第６条第２項に、会長は会議の議長となると定められておりますので、武田会長に議事を進めていただきます。本日の出席委員は 14 名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。また、本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、公開といたします。それでは武田会長お願いいたします。
	（１）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　基本理念について
武田会長	早速議事に入ります。議事１つ目、（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　基本理念について。事務局から御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	基本理念についての説明の前に、今日審議する内容について、御説明させていただきます。参考資料１と資料１になります。基本理念の説明の前に今日の審議会の審議内容が、第４次計画のどの部分に当てはまるのかを確認いたします。参考資料１は、第４次計画の目次のイメージとなっております。第３次計画とほぼ同じ章立てになりますが、第４次計画は、第１章から第５章を予定しています。第１章では、計画策定の趣旨とつくば市の生涯学習に関する市や施設の利用者数などの基礎データ。第２章では、市民アンケートなどの内容から、現状と課題についての説明となります。第１章と第２章については、昨年度の３月に行われた令和６年度第３回審議会の資料でお示ししています。続いて第３章では、第４次計画の基本的な考え方、骨子についてです。これは前回の審議会での議事でした。そして、本日の審議会では、第４章に当たる施策の展開と、第５章の内容について御意見をいただきたいと思います。また、計画策定

	までの今後のスケジュールとして、資料５の今後の日程を御覧ください。スケジュールを逆から見て、新計画は来年度の４月からスタートとなりますので、今年度末に答申を市に提出いたします。２月の審議会にて答申案の審議を行います。その答申案を作成する前に、市民の皆様から新計画案に対して御意見をいただくパブリックコメントを 12 月から１月にかけて実施いたします。パブリックコメントを行う前に市役所内部の手続きが 11 月にありまして、次回の 10 月末の審議会がパブリックコメント前最後の審議会となります。10 月の審議会では計画全体について取り扱いたいと思いますので、本日の審議会では、第４章と第５章についてたくさん御意見をいただければと思います。 　議事に戻りますが、基本理念について、資料１をお願いします。こちらは前回の骨子案の中でも出していたんですけれども、基本理念について、今回少し修正をしました。体系案の左側にあります、基本理念については前回の審議会の中で語句のつながりがわかりにくいという御意見がありましたので、検討しましてこのように変更したいと考えております。前回までは、「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せのまち」だったのですが、今回変更しまして、「学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる　幸せのまち」に変更したいと考えます。大きな変更としては、「世代がめぐる」というのを、「学びがめぐり」としました。世代間の交流も含め、学習者が学習の成果や自身のスキルをいかして、地域や学校等に貢献していくといった好循環を表現するために改めました。そして、生涯学習を通じて地域や人のつながりが生まれるという意味で学びがつながるというふうに改めます。この変更案に対して、事前に中嶋委員から御意見いただきましたので、そちらもお伝

	えしたいと思います。こちらは、学びが３回続くのは少し多いかなというのと、世代という言葉がやっぱりあったほうが良いということだったので、この２つ目の「学びがめぐり」を「世代がめぐり」というのはどうかという御意見でした。また、中嶋委員から別の案で、「学びを楽しみ　世代がつながり　学びをいかして　幸せのまち」という案もいただきました。こちらの代替案に対しても、今回、皆様の御意見をお聞きしたいと思います。
武田会長	ありがとうございました。ではただいまの件につきまして、意見質問ございますでしょうか。
黒崎委員	確かに学びというのが３つ入っているので、少しくどい印象があるんですけど、もう１つ、つくばという言葉が抜けてしまっているので、つくばという言葉が入ったほうがいいのかなと少し思いました。「幸せのまち　つくば」みたいな形で、つくばで何か締めるといいかなとか思います。 標語というのは文字数だとか、うまく韻を踏まなきゃいけないみたいな制約はあるんですか。
武田会長	特にないですよね。
事務局（松橋）	特に文字制限とか、こういう縛りがあってとか、そういったものはないので、少し増えても大丈夫です。
黒崎委員	ありがとうございます。ただみんなが個々に標語を言い出すと、なかなかまとまっていかないという気もするので、この辺が難しいところかなと思いました。
武田会長	「幸せのまち　つくば」が入ると締まりがいいという御意見ですね。他の方いかがですか。
鈴木委員	先ほど中嶋委員の方が挙げた案についてもう一度、言っていただいてもよろしいでしょうか。

事務局（松橋）	案が２つあるんですが、１つは「学びを楽しみ　世代がめぐり　学びでつながる　幸せのまち」。もう１つが、「学びを楽しみ　世代がつながり　学びをいかして　幸せのまち」という案です。
中嶋委員	基本理念について私の考えのいきさつを述べたいと思います。前回、この基本理念については「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せのまち」と言葉がいろいろ出てくるので、何が何だかという部分があり、それで会議がお開きになったと思うんですが、今回の資料では、「学びを楽しみ」は変わらないんですが、「学びがめぐり」は、世代が学びに変わり、「つくばでつながる」は「学びでつながる」と、こういうふうに事務局の方で整理してくださいました。今事務局からあったように、（語句のつながりについては）私が前回、単語、ワード的なことでいいんじゃないかという意見を言ったと思いますが、やっぱり文章的にもつながっていないとまずいという事務局の御意見で、このような言葉にはなったんだと思います。ですが、あまりにも学びという部分が多くて、世代がつながるとか、そういう部分が私は必要なんじゃないかと。 これまでの経緯を自分なりにも見たんですが、第３次の基本理念は「つながる　広がる　つくばの生涯学習」でした。第４次案として最初に事務局から出たのは、第３次を引き継いで「つながり　めぐり　幸せを生むつくばの生涯学習」と、要するにつながる部分とつくばの生涯学習は変わらないで、その広がるという部分を、めぐり幸せを生む、そういう言葉に変わったんだというふうに思います。それをこの審議会で皆さんで意見を出して、もう少し内容を入れたほうがいいのではないかとの意見があり、そこに別案であった、案１、案２、案３の中から、案３の「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せの輪」に対して、それぞれ意見はあ

	ったものの、この案であれば内容がよくわかるのではないかという意見が大方だったと思います。それを受けて、前回出た言葉としては「学びを楽しみ　世代がめぐる　つくばでつながる　幸せのまち」という言葉でした。 今回事務局から「学びでつながる」という言葉が出たんですが、それに対し言いたいことが１つあります。要するに第３次から第４次に変える一番大きな内容は何かというと、昨年の第１回の会議資料に、「生涯学習の成果をいかして、地域や社会の課題に取り組む側面を第４次で強化する」とありました。私も社会力まで生涯学習でやっていくというのがわからなかったんですが、説明を聞いて、ただ自分から生涯学ぶだけではなく、学んだことを地域の中でいかしていくというところまでを生涯学習は狙うのだということがわかり、その部分が、どの言葉も抜けていると少し思いました。 私の案としてもう１度言葉を整理しますと、「学びを楽しみ」は、生涯学習の個人的な自分のことで学びを楽しみ、そして、その次に「世代がつながり」という言葉を入れました。個人で学んだことが年代的に若い層からいろんな層まであるので、いろいろと学んだことをつなげてつながり、その次に「学びをいかして」、それをいかして、「幸せのまち」幸せのつくばを作るという、こういう基本理念ではどうかというのが私が整理した意見です。
武田会長	ありがとうございます。ただいまの中嶋委員の御意見も踏まえて、皆様方、御意見いかがでしょうか。
小森谷副会長	中嶋委員ありがとうございました。とても考えがわかりやすかったので最後の案がいいと思いました。つくばを入れたいという黒崎委員の気持ちもわかるので「学びを楽しみ　世代がつながり　学びをいかして　幸せのつくば」、「幸せのまち　つくば」「幸せのつ

	くばへ」とかそんな感じではどうかと思いながら聞いていました。
武田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
田中（秀）委員	具体的に中身が見えてくるような中嶋さんの案に私は賛成したいと思います。そして、「幸せのまち」について。資料３とか４を見ていると、「幸せのまち」と出てくるんだけども。やっぱりそこにつくばを入れたほうがいいかもしれない。
武田会長	ありがとうございます。他はいかがですか。
長橋委員	中嶋委員の提案がすごくいいなとは思っています。基本理念を考えるにあたって、基本目標とか施策の方向性というのは、これから話し合う内容だと思うんですが、その中に世代って言葉が出てきていない。やっぱりそれは後ろの方に入れたほうがいいのかなと思いました。そう考えると、学びを楽しみというのは基本方針１で書いてあって、世代がどっかに、もしかしたら基本目標２の多様で質の高い学びの充実のところに入るかもしれないんですが、またぐるというのがネットワークとかその辺りになってくるのかなと。基本理念と後段を合わせて考えたほうがいいのかなと思いました。
武田会長	ありがとうございます、他、いかがですか。
鈴木委員	最後の「幸せのまち」につながるように考えると、「学びをいかして」よりも「学びをいかす　幸せのまち」のほうがいいのかなというふうに感じました。
武田会長	ありがとうございます。「学びをいかす　幸せのまち　つくば」まで入りますか。
鈴木委員	はい。
武田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。
後藤委員	私も鈴木さんがおっしゃっていたようなことを今思っていたんですけど、「学びをいかして　幸せのまち」だと、なんとなく文章

	的にどうかなと思ったので「学びをいかす　幸せのまちつくば」のほうがいいと思いました。 　そして、「学び」の漢字なんですけど、平仮名もいいのかなと思いました。ただ３つ「学び」が続かないんだったら生涯学習の学は学なので、漢字でもいいのかなとは思いました。
武田会長	ありがとうございます。中嶋委員のお話も受けて「学びを楽しみ世代がつながり　学びをいかす　幸せのまちつくば」に賛同する方が多くいらっしゃいますが、他、こういう案の方がいいんじゃないかという方、いらっしゃいましたら、ぜひお願いします。
田中（依）委員	今言われた意味がよくわかって、基本理念の言葉の中でどこまで入れるべきなのかなと思っています。「世代がめぐり」というのもいいんですけども、世代だけじゃなく、つくばはすごい多様な人たちが集まってきているところなので、世代とか地域とかいろんなもの、いろんな方をめぐりつながるというようなことも、自分の中ではイメージ的にはあるかなと思いました。例えば、「学びを楽しみ学びがめぐりつながる　幸せのまちつくば」というほうが幅広くいろんなことが共有できるイメージが持てると思います。それで、基本目標やそういうところで、具体的に世代や地域のこととかが入るのはどうかなと思いました。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがですか。
萩原委員	どういう言語を使われてもいいというふうに思うんですけれども、大事なことは言語を徹底する、周知をするわけではなく、言語を通してどう行動、アクションに移るかという、そのアクションが極めて大事だと思います。ですからこういう標語、或いはキーワードを作ったときに、本当にそのキーワードが全て子細に降りてきたときに、行動に伴うかどうか、活動にいかされるかどうかというこ

	とがなければ、言語だけが周知される。おそらく言語だけが周知されても、効果は全く上がらないと思います。そして、人の心や人の活動に食い込んでいかなきゃいけないと思いますので、それは大変難しいことなんです。だから言語も大事なんだけれども、それ以上に大事なことは、言語を通して、その下にあるアクションや行動にどう結び付けていくかというのが、実際に皆さんがおやりになっている、生涯学習につながっていくことになると思います。ですから、言語だけにこだわらないで、言語に対して、その中身が、実際に可能性があるかどうかということまで吟味されなければやっぱり大変難しいと思います。ぜひ、言語に伴った活動、アクションを伴うかどうかということまで含めて議論をしていただければいいんじゃないかと思います。
武田会長	ありがとうございます。他に御意見等ございますでしょうか。
田中（秀）委員	今のお話は非常に論理的なんですが、前回までのいろんな論議の中で、いくつかの内容が絞られてきているところであるとは思います。言われている通り、言葉は難しいと思います。言わせてもらえば「生きがい」という非常に重要な言葉が１つも出てこないのは私としては残念に思っています。先ほど言われましたような、言語の中に行動を結び付けていかなくてはならないという中で、世代をつなげたり、いろいろなものをいかしたりという言葉が、いわゆる前回までの論議の中の一つのまとめだというふうに感じたものですので、これで妥当なんじゃないかなというのが私の意見です。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。もしなければ、たくさん賛同をいただいている「学びを楽しみ　世代がつながり　学びをいかす　幸せのまち　つくば」で賛同いただけるかどうかで決を取らせていただいてもいいですか。それでもし、それ以外とい

	う方はそれ以外で御意見いただければと思います。 では、改めましてもう１度繰り返しますけども、「学びを楽しみ　世代がつながり　学びをいかす　幸せのまちつくば」。ここに賛同いただける方、挙手をお願いいたします。 ＜賛成多数＞
武田会長	そうしましたら賛成多数ということで、こちらで確定ということでお願いをいたします。
	（２）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開について
武田会長	２つ目、第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開について事務局からお願いいたします。
事務局（松橋）	議事２の方では資料２を使います。資料１も横に置いて、体系案も見ていただくと良いかと思います。資料全体の説明なんですけれども、こちらは前回の審議会資料では参考資料としてイメージとしてお出ししたものですが、今回は、基本目標ごとに見開きページになっています。基本目標ごとに成果指標を設定し、11 の施策の方向性について、それぞれの説明と関連する事務事業の名称が入っています。見開きの左側には、基本目標、施策の方向性、基本目標全体の成果指標、右側には、施策の方向性ごとに、どんなことに取り組んでいくかと、それを実現させるための関連事業を掲載しています。主な事務、関連する事務事業ということで載せていますが、事務事業は基本的には現在、各課、生涯学習推進課以外の課も所管して実施している事業を載せています。中には目標を達成するためにはこんな事業が必要じゃないかと提案する形で掲載しているものもあります。また、掲載している事業の中では、令和８年度以降は、

	担当課の方で事務事業の統合とか廃止を行う予定があるというものも、今の時点で載せていますので、計画の資料から今後変更・削除という場合もあります。 本日の進め方ですが、こちらの資料をたたき台にして、感想、意見、提案などをたくさん出していただきたいと思います。この目標に対する取組としてはこういう視点が足りないんじゃないかとか、こういう成果指標で測るのはどうかとか、こういう事業があればいいとかなどの御意見をお願いします。基本方針としては２つなので、前半後半と分けてそれぞれ冒頭に事務局から御説明を入れ、そのあとに御意見を出していただくやり方で進めたいと思います。 では、まず２ページから５ページ、基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進のところです。基本目標１では、誰一人取り残さない学びの充実、基本目標２では多様で質の高い学びの充実ということで、誰もが、学びに出会い、自分らしく学び続けられるように、学ぶ環境と参加しやすさの確保の提供を進めるという内容になります。前回の審議会では、基本目標の１の説明にあった、学びの障壁の解消を進めるとか、障壁を取り除く取組を推進するといった表現について、理解する、寄り添う方向性にという変えた方がいいとの御意見がありました。これを受けて、参加しやすさの確保と多様な学びの提供に変更し、施策の方向性３のタイトルを、「学びの入口の充実」に変更しています。あとは、基本目標２多様で質の高い学びの充実ですが、こちらは、昨年度のアンケートやワークショップでも意見が挙がった生涯学習の情報を得やすくするための取組、また、施策の方向性２では、施設の利便性だけでなく、イベントなど市民が集まる場についても含めています。 最後に、基本目標１の施策の方向性２の記載で訂正したいところ

	があります。こちらの３行目からの「高度な学習ニーズや、キャリア形成に対する対応の」というところなんですが、最後の４行目「充実を図ります。」という表現について、現在はこういった事業がまだない状況なので「これから新たな取組を目指します。」というニュアンスに変更したいと思います。説明は以上になります。
武田会長	では、基本方針１の基本目標１と２につきまして、御意見、御質問等ございますでしょうか。
黒崎委員	３ページの、リカレント教育やリスキリングなどの充実をというところなんですけど、リスキリングという言葉は最近よく耳にしたり目にしたりするんですけど、リカレント教育は古い言葉で、最近なかなか目にしなくなってきたという印象があります。似たような言葉であるならばリスキリングに集約してもいいのかなと思います。ただ、言葉は大事なのでリカレント教育というのが、リスキリングと違う意味合いがあるのであれば、入れておいたほうがいいとは思います。その辺りをお聞かせいただければなと思います。 ちなみに、１階にあった資料なんですけど、リスキリングというのは結構ありました。リスキリングというキーワードは最近よく目にするのかなと思っています。
武田会長	ありがとうございます。リカレント教育とリスキリングについていかがですか。
事務局（松橋）	主な事業の下に用語の説明があるんですけども、リカレント教育というのは広い意味で、学校教育から離れた後も仕事に就いてからも学ぶとか、あとは、一旦大学院に入って学ぶとかそういった意味で、大人になってから学ぶというような状況を広く言っていると思います。リスキリングというのは、もう少し具体的なスキルを習得するとか、新しい技術を得ていくというようなことなので、あえて

	分けて説明してもいいのかなという気はします。
武田会長	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
小森谷副会長	「高度な学習ニーズや～」というところを、どんなふうに変えていくとおっしゃっていたか、もう一度お願いします。
事務局（松橋）	最後の「充実を図ります。」というところを、充実だと今すでにやっていて、プラスアルファというような表現になってしまっているので、これから新たに取り組みますという「新たな取組を目指します。」というニュアンスに変更したいと考えています。
小森谷副会長	早速、研究機関などと提携して、こういった講座を開く予定はあるということでしょうか。今はどうなっているのですか。リスキリングのチラシは（資料に）あったんでしょうか。
黒崎委員	さっき見せたのは、僕が１階から持ってきたものです。
小森谷副会長	それはどんな方がやっているのですか。
黒崎委員	リスキリング セミナー＆個別相談というのが１枚。もう１枚がリスキリング推進セミナー＆ワークショップという、どちらも茨城県リスキリング推進協議会がやっているものです。
小森谷副会長	これはまだ生涯学習推進課はまだ関係はしていないということなんですね。こういうことを市としても取り組んでいきたいというようなことだと、わかりました。ありがとうございます。 もう１点、参加機会の拡充のところで、去年のワークショップで、私が参加させていただいた中で、オンラインでもっと受けられるようにして欲しいというお話が私は印象的だったのですが、その辺りはどこかに書き込んであるんでしょうか。
事務局（松橋）	オンラインという単語は消えてしまっているので、その点も追加する形で変更していきたいと思います。
小森谷副会長	ありがとうございます。その日しか聞けないということだと、な

	かなか参加できないという中で、コロナ禍において、オンデマンド、オンライン化が進んだと思います。皆さん慣れてきていると思うので、ぜひそういったことも取り組んでいただきたいと思いました。
武田会長	ありがとうございます。
田中（依）委員	施策の方向性３の学びの入口の充実の横に、他の案ということで、学びのサポートの充実、多様な学びの支援充実という言葉が書いてある部分を見ていると、施策の方向性１の参加機会の拡充では、市民が気軽に学ぶことができるようにということを、施策の方向性３では誰一人取り残さないということを言っている。こうしてみると、参加機会の拡充と学びの入口の充実というのが、少し重なっている部分があると思います。具体的には言葉は出ないのですが、施策の方向性３の言葉はわかりやすくしたほうがいいと思いました。
武田会長	ありがとうございます。
福井委員	施策の方向性の１の２行目。年齢やライフステージ等と書かれていますが、年齢とライフステージは少し重なるところもあるし、自分が LGBTQ の方の集いに出たときに、ライフステージの他にライフコースという用語を教えてもらったのですが、ライフコースの方が、多様性というところで非常にしっくりくるなと思いました。年齢よりも、ライフコースというのを入れた方がいいのかなというふうに思いました。
武田会長	ライフコースというのは、中身としては世代とかと同じようなことでしょうか。
福井委員	いえ。ライフステージというのは、（資料に）※印で書いてあるようなことなんですが、ライフコースというのは、自身の、それこそ、自分らしくというところを意味する用語らしいです。

武田会長	ありがとうございます。他、どうぞ。
萩原委員	基本理念と基本方針の言語はどういうふうに結びつけるんですか。内容をこうやって見ると、基本理念と大体つながってくる。でも、この基本理念と基本方針の、誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習云々という、それをどういうふうに結びつくんですか。 恐らく、基本方針の言語は何か突出している。中身とは合っているんだけれども、基本理念の言語とこの基本方針の言語が、どこでどういうふうに結びついているのか少しわかりにくい。そこをどういうふうに解釈したらいいかと思っています。
事務局（澤頭）	ご意見ありがとうございます。一見すると表現が難しいところなんですけれども、基本理念の具現化をするために基本方針を大きく２つに分けさせていただいています。基本方針１の方で、基本理念を達成するためにまず環境づくりを整えて、基本方針２の方で、つながりづくりを整えていくというようなことを文言化しているのが基本方針になっています。
武田会長	いかがですか。
萩原委員	難しい。
武田会長	では、そのことも踏まえながら、少し進めさせていただけると思います。
鈴木委員	３ページ目の施策の方向性１の参加機会の拡充のところで、「多様なニーズを把握し」とあるんですけれども、どういったような形で把握をするような形でしょうか。アンケートとか、そういうふうなことでしょうか。
事務局（松橋）	アンケートとか、意識調査でのニーズ調査というふうに考えております。
鈴木委員	昨年、その子供・若者、子育て世代・社会人、高齢者の３つに分

	けてワークショップを開催したと思うんですけれども、私もそちら参加させていただきまして、実際、アンケートよりも生の声を実際あのような場で聞くということが、ニーズを把握する上ではとても大切なんじゃないかなというな感じがしました。ですので、そういった話し合う場なども、参加機会の拡充の１つとしてもらえるといいのかなと感じました。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
長橋委員	同じ部分で、ニーズを把握するところに、「内容、曜日や時間帯」と書いてあるんですけれども、その曜日や時間帯のところで、前の２ページの表の真ん中に、土日、祝日に開催する講座の件数の目標が９件から 20 件って書いてあって、あまり努力をしていないようにも見えるので、増やしたいと本当に思っているのか、それとも 20 件ぐらいが限界だろうと思っているのか、その辺りをお聞かせいただけないでしょうか。
事務局（松橋）	こちらの目標値の方は仮ということで、委員の皆さんから、年間これぐらい、何件ぐらいはやって欲しいなど御意見があればいただきたいと思います。
武田会長	ありがとうございます。今までのアンケートなどそういった意識調査で、実際どのくらい要望があったとかわかりますか。
事務局（松橋）	先日、地域支援課の実績調査とかアンケート結果を聞いたんですけれども、実際には、日中の講座に参加している人にしかアンケートを取っておらず、普段講座に参加していない方の意見を聞くというのはされていないということでした。なので、実際どれぐらいのニーズがあるのかというのは未知数です。
長橋委員	私も同じ場所で聞いたので、同じ感想なんですけれども、年間で土日、祝日が 100 日以上あるので、もっとニーズとしてはあるのか

	なというふうに思いましたので、意見として申し上げました。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
溝上委員	何点かお伺いしたい。 　１点目が、成果指標というものをつくば市ではどのように考えているのか。いわゆる行政評価ですとインプット評価、アウトプット評価、アウトカム評価がある中で、ここにある成果指標というのは、どれをお考えになっていらっしゃるのか。ぱっと見たとき、アウトプットとアウトカムが混在しているような気が私はするんですが。それは、あえて混在させているのか、考えていなくて混在しているのかという辺りをお聞かせいただきたい。 　２点目が、同じくこの表で、現況で令和６年度とは 2024 年度ですよね。全部 2023 年度になっているので、単純な間違いと思うので、直していただければと思います。 　３点目が、施策の方向性３「主体的な学びの促進」について、「個人の楽しみ生きがいづくりから、生活の質向上や自己実現につながる学び」とある。生きがいづくりから自己実現につながる学びと読むのか。それとも、個人の楽しみや生きがいづくりのみならず、と読んで後が続くのか。主体的な学びの促進を、どこをターゲットにして、何をやりたいのかというのがちょっとわからない。最後にリカレントとかリスキリングが出てくると、個人の楽しみや生きがいづくりをやめてしまい、リカレント教育やリスキリングに重点を置くと考えていらっしゃるのかとも読めてしまったので、そうではないということを確認したいです。
事務局（松橋）	まず先ほどのこの令和６年のところは、2023 年は誤記で 2024 年が正しいので修正いたします。 　成果指標については、毎年の事業実績のところから拾える数字、

	毎年調査できる数字、あとはアンケートや意識調査からしか拾えないものも混在しているという形です。数年に１回しか調査できないものを評価指標として入れると、順調に進んでいるのか途中の経過がわからないので、それだけじゃなく、毎年わかる、利用者とか、実績、単純に実施した実績での数字も混ぜています。 もう１つ、施策の方向性２の生きがいづくりからというところは、先生がおっしゃったように、のみならずという、生きがいづくりもあるし、もっと自己実現とか、生活の質の向上に役立つものも含めてという意味です。
溝上委員	今の説明だと数値として、取り上げやすいものを成果指標として上げたというふうに聞こえてしまったので、もう少し、つくば市としての考えを、きちっと整理できるといいと個人的には思います。アウトカム評価が難しいのは承知の上でこういう質問しているので、場合によってはアウトプットとアウトカムの２つ挙げましたとか、そういう説明をしていただけるのかなと思っていたので、考えていただければと思います。
後藤委員	成果指標の一番下の【新】障害者の生涯学習関連事業の参加者の満足度を 94％から６年後に１％だけ上げて 95％というのも思うところはあるのですが、この参加者の満足度というのが、参加者が例えば減っても楽しかったという人が多かったら目標達成とかになってしまうのかなと思いました。施策の方向性３の下には障害者の関わっている事業として他にも幾つも記載があるのですが、この中で生涯学習推進課が所管しているであろう生涯学習関連事業を成果指標にしているのかなと思いました。生涯学習関連事業の内容としては、私の記憶だと風船バレーがそうだったかなと思うんですが、それも多分、年に１回で参加者が 20 人とかで、それだけを成

	果指標にするのは小さ過ぎてどうなのかと思います。 　障害者の生涯学習については、今まではチャレンジアートフェスティバルとおひさまサンサンフェスティバルだけだったので、これはもう生涯学習という位置付けでもなく、何十年もこの２つだけを障害者の方のイベントとしてやってきている。その他に、生涯学習関連事業と、障害者スポーツ推進事業が増えたのはとてもありがたいのですが、生涯学習関連事業の規模、回数、人数とかをもう少し増やすといいのかなと思います。回数は何回で、内容は何でしたか。
事務局（澤頭）	障害者の生涯学習推進課で実施している講座は、年１回になっています。後藤委員がおっしゃっていただきましたように、こちら成果指標の名が関連事業になっておりまして、生涯学習推進課だけで行っている事業ではないような表現にさせていただこうかなと今のところ思っています。ただパーセンテージが、生涯学習推進課の事業のパーセンテージになっているので、少し混乱が生じているというふうに思っています。ここはよく整理したいと思います。
石川委員	成果指標について、何をもって目標値の数値を定めたのか、その根拠がこれを見ただけでは何もわからない。後藤委員から、障害者の活動も２つはずっとやっているというのを伺って、初めて内容がそれで評価しているのだとわかるぐらいです。だから、目標値に対する根拠はどういうことを基準にして数値を定めているのかというのを聞きたいと思います。
鈴木委員	５ページの施策の方向性１の学びの情報提供、相談体制の充実のところで、市の広報紙やSNSなどの場、多様な媒体で情報発信していくということが書いてあるんですけれども、その情報発信回数を46回から50回と、こちらもさほど増えている感じがしない。去年のワークショップで子供たちまでにそういった情報が届いていな

	いという声が多数上がっていました。スマホを持っている子もいれば、持っていない子もいますので、SNS だけだと、不十分な部分があるのかなと感じました。子供たちは１人１台タブレットを配布されていると思いますので、その端末のところで情報発信だとか、そういった工夫をすればいいのではないかと思いました。親向けにはスクリレ配信ですとか、そういったところで情報は来てはいるんですけれども、親に余裕がないとそこでストップしてしまい、子供に情報が行き渡らないということが考えられます。せっかく１人１台タブレットがありますので、そういったところをうまく活用しなから、学びの情報提供だとかを検討してもらえると助かります。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょう。
小森谷副会長	先ほど萩原委員がおっしゃった何をするかが大事だというところにまさしく話が来ているのだろうと思います。言葉を挙げているんだけれども、それをどうやって評価するのかというのがすごく大事で。やっぱり気になるのは、障害者の方のための関連事業の評価の仕方ですとか、あとはここに外国人に対する指標がない。この成果指標というのはこれだけなんでしょうか。それとも、年次計画で詳しく追っていくということだったかを確認させてください。
事務局（松橋）	毎年の評価方法は検討中ではあるんですが、事務事業の実績からまとめてという形では考えてはいます。なので、外国人向けの事業実績がどういう結果だったかというのは毎年追っていくつもりではいます。ただ、ここには全項目を、成果指標として計画には載せきれないので、抜粋にはなってしまうというところです。
小森谷副会長	全部は載せきれないというのはそうだと思うんですが。やっぱり障害者や外国人が何を学びたいのかというところの把握からだと思いますので、何に困っているのか、どんなことを学びたいのかと

	いうところが見えないまま、今まである成果指標を流用するような形は、できれば今回変えていけたらいいと思いましたので、御検討いただければと思います。
事務局（澤頭）	ありがとうございます。事務局としましても、この成果指標についてはまだ検討の余地があると思っております。溝上委員からもおっしゃっていただきましたように、皆さんの御意見もそうだと思うんですけども、もう少しこちらにつきましては、すべて上げることはできないにしても、ある程度のものは上げて、次回にお示しさせていただければなと思います。
武田会長	ありがとうございました。他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	４ページ、【第３次から】地域交流センターの利用者数について、令和６年度が 41 万 7,190 人で目標が 50 万人、その下に括弧書きで令和元年度の実績を目指すとあります。その頃よりこんなに減っているんだなというのを目の当たりにして、私もいくつかサークルとかを責任者としてやらせてもらっていますけれども、どういう理由で減っていて、それをどういうふうにしていくことで増えていくのか、充実していけるのかがわかればいいのかなと思いました。施設の老朽化の問題や交通の問題など、様々、生涯学習推進課以外での市としての課題もたくさんあると思いますが。
武田会長	ありがとうございます。基本方針２もありますので、一旦先に進ませていただいて、また改めて、基本目標１から５まで見直すことにしたいと思います。では、基本方針２の方お願いいたします。
事務局（松橋）	６ページから３つ分、基本目標３、４、５で、11 ページまでの説明となります。基本方針２は、地域全体で社会力を育み、いかす生涯学習の推進として、つくば市の教育大綱に謳われている社会力を育てることが中心となっていきます。人と人とのつながり、地域、

	よりよい社会を作ろうとする力などがキーワードになってきます。 基本目標３では、気づきとつながりを育む意識づくりの推進ということで、自分の学びが自分だけのものではなく、他者に対して貢献できるということに気づけるような取組、つくば市についてや自分の住んでいる地域に関心を持って、社会と関わるきっかけづくりの取組が中心になります。 基本目標４では、成果をいかした活動の支援と人材育成の推進で、社会に対して働きかける活動を支援したり、人材の育成に関する取組をしていきます。 基本目標５では、持続可能な学びとつながりの好循環の創出ということで、民間を含めた市内の施設が地域の拠点となり、個人や団体が地域とつながり活動できるような取組、地域を構成する市民、学校、研究機関、企業などとも連携し、学んでいくことや学びをいかした活動が世代を超えて展開し、持続可能なつながりを支える取組をしていくということを入れています。以上になります。
武田会長	では、基本方針２の基本目標３から５まで、あるいは、先ほどの基本目標１、２でも結構ですので、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。
長橋委員	基本目標２のところからずっと、世代がつながるとか、世代が変わってもうまく循環していくとかそういったことが書いてあるんですが、田中（依）委員が言っていたように、多様な人も考えていくべきかなと思います。障害者であるとか外国人であるとか、その他、いろいろな考えを持った人とかというような書き方のほうがいいのかなと思いました。
武田会長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
長橋委員	もう１つ、コミュニティ・スクールとか学校とかというキーワー

	ドが出てくるんですけれども、現状は学校の施設、特別教室が使いづらいとか、あとは学校の中に市民が入っていくというのはセキュリティ上どうなんだろうという考えがあって、学校の中に入りづらいというのが現状なんですけれども、これを見ていくと、市民も学校を利用して、いろいろ生涯学習を行っていくんだとか、あとはコミュニティ・スクールに関わって、生涯学習をやっていくんだという姿勢がここで見えるので、ぜひそのように学校とつながりを持って進んでいくような環境ができればいいなと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
田中（秀）委員	基本理念と基本方針の文章が変わったので、少し見直す必要があると思います。 それから非常にいろんなことが書いてあるんだけども、私が前回、前々回でも申し上げた通り、一番欠けていることとして、定年になった人たちをどうするかというものが、書いてあるようなないような気がしています。 定年になった人を社会に復帰させるということについては、もう一度よく調べて市でやってほしい。女性はあまり問題ないけど、男性の大部分、私に言わせれば６～７割とかなりの人数が、定年後社会の中でどう生きていくかというところが欠如している。その人たちが悪いのではなく、40 年ぐらい縦社会で働いて、家族のために一生懸命やってきたんだけども、気づいたら定年になっていて、その後どうするかと。専門性、経験があり、とんでもないような能力を皆持っていても、定年になると使えないままに眠ってしまう。それで１年くらい家に入ってしまうと、もう出てこられない。１度入ってしまうと、その人たちを引っ張り出すエネルギーはとんでもないぐらいかかるのが現実です。何が大事かというと、定年となる人が、

	今まで持っていた経験や能力を十分に発揮しながら生きがいを感じるという、そういう社会が大事。ここにいる男性方にも考えてもらいたい。自分たちの将来というのは案外寂しいです。つくば市では100歳が108人以上いる。人生100年時代に入った。だから、60歳で定年になってあと40年間ある。40年間というのは長いです。楽しい生活を送ろうっていったって、定年、リタイアしたときの金なんか大したことない。だからお金をかけて楽しむということをまず諦めなきゃならない。であれば、どこかに社会に入っていって自分が楽しみながら、みんなで楽しむことが必要。 定年になった人達に対応する、社会に馴染む、社会復帰できるような、そういうシステムを考えて欲しい。カナダにいたときにそういう素晴らしい、定年になる２、３年前から社会活動を積極的に進めるような制度みたいなものがあり、私の先輩のノーベル賞クラスの人もそれをやっていた。そういうような形をこのつくば市から作って欲しいです。 ただ、資料４には、定年後の形がありますので、ここのところを含めて今後考えてもらいたい。（文章として）綺麗にまとめてしまうと、一番重要な問題が抜けているように感じます。以上です。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
田中（依）委員	８ページ、基本目標４について、地域全体で成果をいかしたとか、また基本方針２で、成果をいかす生涯学習の推進とあるんですけど、ここは学びの成果という意味合いですよね。これを見ただけではよくわからない。 あと、９ページで、「地域で活躍する市民・団体が世代交代、活動の活性化を図り～」という、こういう適切な支援に努めるということと、次の部分の、「学んだ成果をいかしながら、活動を広げて

	いけるような文化団体やサークルの育成に努める。」というところは、結局それぞれがやっているサークルとかの育成に努めるという意味を書いていらっしゃると思いますが、ダブっているところと、具体性がないところがあって、わかりにくいと思いました。実際私も年１回は交流センターの活動をしていて、アンケートとかとられるんですけども、それをもとにしながら、誰がどんなふうにとか、具体的な方法があるといいと思います。例えば、いろんなサークルがある中で、お互いの情報はあまり共有はしないし、今度文化祭にも初めて出ることになったんですが、そういうことも含めて、何か地域とつないでくれるようなものが行政でもできるといいと思いました。
武田会長	ありがとうございます。学びの成果ですよね。確かに少しわかりにくいですね。ありがとうございます。
鈴木委員	８ページのこの成果指標の青少年体験学習事業参加者数と、10ページの成果指標のつくば SDGs パートナーズ参加団体数が、現況の数字が入っていないのですが、こちらは新たな事業ということでいいんでしょうか。
事務局（松橋）	こちらは、もともとある事業ではあるんですけれども、こちらの資料に載せる際に人数の調査をしておらず、こういった人数の指標はいかがでしょうかということで現状載せています。
鈴木委員	わかりました。 でも、学びの成果というところだと、（指標として）少しわかりづらいように感じましたのでお願いします。
武田会長	他、いかがでしょうか。
長橋委員	10 ページの成果指標の２つ目、【新】地域学校協働活動参加ボランティアについて、指標名は「数」になっているんですが、現況と

	目標値がパーセントで書いてあって、これはどういうふうに解釈したらよろしいんでしょうか。
事務局（松橋）	ここは整合性をとるようにしたいと思います。
長橋委員	お願いします。
武田会長	他、いかがでしょうか。
中嶋委員	私は基本方針、基本目標、施策について、資料１の施策の体系だけを見て、考えているんですが。基本方針は２つで、１つ目は、誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進という、生涯学習の基本とか、今までやってきたもの。２つ目が地域全体で、今度は社会力を育みいかす生涯学習の推進と、これも今までやってきたんだろうけど、これから２の方に力を入れていくということで目標が３つある。基本方針１は目標が２つで、誰一人取り残さない学びを充実させることと、多様で質の高い学びを充実させるということがあり、内容的にその通りだと思います。その次、施策を見ていくと、誰一人取り残さない学びの充実で、１が参加機会の拡充、２が主体的な生涯学習活動の促進、そして、３に学びの入口の充実という言葉が入りました。この誰一人取り残さない学びといったら、内容的には学びの入口をまず充実させ、次に主体的にそれぞれ生涯学習の活動をし、そして３で参加機会を拡充することによって、誰一人取り残さない学びが充実するのかなという、１、２、３の順番をちょっと変えてはどうかなというのが１つの案です。 その次、多様で質の高い学びの充実の１が学びの情報提供、相談体制の充実、２が市民集い学びの環境となっています。本当に多様で質の高い学びを充実させるのに、この２項目でいいのかなというのが思ったところです。 その次に、基本目標の社会力を育みいかすということにおいて、

	３、４、５という３項目なんですが、まず社会力に気づかせるという目標があるんですけども。私は、ここは４と５だけで良いのではないかと思います。成果をいかした活動の支援と人材育成と推進とありますが、やっぱり学びの成果をいかしたという、この「学び」の言葉は絶対抜けない言葉だと思います。社会力に気が付くとか、そういうことは４の１に移して、そしてその次に、活動したり人材育成するということで、基本目標４に１、２、３と施策を組んではどうかと思います。 　最後、基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出、これが最終的に目指す目標なんだろうと思いますので、これを４として、ともに育て学びのネットワークづくり、地域で学び続ける仕組みづくり、この辺りが重要になるんだと思います。 　以上、このようなことでどうかなと考えたところです。
武田会長	ありがとうございます。大枠のところをありがとうございます。
溝上委員	先ほど長橋委員もおっしゃった、コミュニティ・スクールという言葉が特に基本方針２の基本目標５でたびたび出て来ます。私もここに書かれているように、コミュニティ・スクールが中心になって地域の学びの拠点になることを、ぜひつくば市として実現していただきたいと思います、教育長もいらっしゃるので。コミュニティ・スクールは運営協議会には出てくるけれども、そこで意見言って終わり、地域とつながっています、せいぜいお祭りのときに協力よろしくぐらいで終わっている。つくば市はどうかわかりませんが、全国的に見るとそういう事例が多いということを耳にしております。そうではなくて、生涯学習で学びの拠点としてコミュニティ・スクールが機能する具体的な方策を考えて、つくば市ではやっていただきたい。そのときに、成果指標を見ると、地域学校協働活動参加ボ

	ランティア数だけでいいのか。これでは弱いんじゃないかなと思いますので、検討していただければと思います。むしろこれが実現すると、とてもつくば市らしい生涯学習推進基本計画になるのではないかということを申し上げさせていただければと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
石川委員	基本目標４のところにある、今後のリーダーとなる人材の育成というのは欠かせないと思うんです。 それに加えて「世代がつながり」について。世代だけじゃなく、外国人も、それからいろんな障害を持っている方、すべての人にという言葉も含めて、最後のところに入れていただければすごくいいなと思っています。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
萩原委員	この資料を送られてきたときに、基本理念を通して、基本方針があり、基本目標があり、施策の方向性というものが全部書かれている。私は上手くまとめられていると思いました。だからこの基本理念のところで（賛同の）手を挙げなかった。 学びという３つのキーワードがあって、そのキーワードをいかして、ずっとまとめられていらっしゃっている。それを変えてしまったんだったら、全部基本方針も、基本目標も、施策の方向性もすべて変えなきゃいけない。多分、そこまでやらなくて大丈夫ではないかというのがあって私は挙手をしませんでした。私１人です。皆さん方がおっしゃったように提案されて、１つ目が「学びを楽しみ」、２つ目が「学びがめぐり」というのを、「世代がつながり」になりました。完全に学びがなくなりました。なくなったらそこでシフトチェンジしなきゃいけないところを、それ大丈夫ですかという発言を私はしませんでした。でも私は、そこで、「学びがつながり」と

	やれば、多分世代も全部つながってくるでしょう。そしてその下が「学びでつながる」を「学びをいかす」となれば、基本方針も、基本目標も、これからやろうとする細かい施策の方向性とも合致する必要があります。でもその時間がないんだったら、もう一度議論をしていただいた方がいいと思います。多分、そこまでやらなくても、内容的にまとまっていらっしゃる。だったら、どういうふうに、何をしますかということを最後考えていただいて、そして、計画を立てていただければいいんじゃないのかなというふうに思います。
武田会長	ありがとうございます。今の萩原委員の意見も含めて、他の方いかがでしょうか。
田中（秀）委員	今言われたように基本理念からすべて出発するという、そういう御指摘、正しいと思います。 世代がつながりという部分については、世代はつながっているんではあるけど、何がつながるかというと、学びの内容なり、その関係が、若い世代から年取った世代、或いは年取った世代から若い世代に往復しながらつながるということ。確かに世代がつながりというのは、僕の中では、学んだ内容をお互いに自由につなげるというように考えていたところ。今言われたよう「世代がつながり」は独立して見え、うまく結ばれていない、言葉としては成り立っていないように思いました。世代の何がつながるという言葉が抜けていると、御指摘のようにわからなくなる。だから、学びでつながる、という言い方の方がよりいいかもしれないと思いました。前回も今回も論議したことではあるけれども、ここは大事なことなので、御指摘のように、もし直すことがあれば、柔軟性を持っている必要があると思います。さっき決めたことではありますけど、問題があれば大いに論議したらいいというふうに思います。

小森谷副会長	私の理解では、今、核家族で、あとは、自治会や区会なんかも（加入率が）５割を切って、多世代が集う機会が減ったことから、こういった言葉が出てきたという理解なので、世代がつながりでもなんとなくそのニュアンスはあるから、いいんじゃないかと先ほどは思ったんですが、私のその感覚をそのまま言葉にするなら「多世代が集い」というふうになるのかという感じです。
萩原委員	決まったことに対して再度提案、それをまた議論するという時間もありませんので、議長と事務局で相談をして結論を出していただければありがたいという提案をさせていただきたいと思います。議長、それを諮っていただければありがたいと思います。
小森谷副会長	他にも聞いてみたらいかがでしょう。
武田会長	そうですね。他にいかがでしょう。
石川委員	私は世代という言葉に対しては抵抗なく受け入れられます。私がやっている地域のコミュニティでは、高齢の方からは 60 代から、みんな一緒に集まっていろんなことをやったりするんですが。伝統的ではないんですが、知らなかったことや、やり方がわからなかったこと、そういうことを教えてもらう機会が多いんです。年配の方から知恵をもらったり、そういうのに触れるにつれ、これをこのままにしておいたらもったいない。若い子たちも入れて世代でそういうのが伝わればいいなという感覚なので世代という言葉がそんなに抵抗なく受け入れられています。
武田会長	ありがとうございます。事務局に相談ですが、時間的には、今決める必要があるのか、それとも次回 10 月でも大丈夫なのか、その辺いかがですか。
事務局（松橋）	御意見を９月中旬ぐらいまでにあればいただいて、次の 10 月の審議会、パブリックコメント前には決められれば、いいかなと思い

	ます。時間が迫ってきているので、盛り上がってきているのでところではあるんですけれども、御意見あれば、後日事務局まで送っていただいて、それをまとめてという形がいいかなと思いました。
武田会長	今日は御意見として賜っておいて、また次回というような形で、それまでにもし御意見等ございましたら、事務局の方にお寄せいただければというふうに思います。時間もかなり押し迫ってきましたので次に進みたいと思います。未来への取組について、御説明をお願いいたします。
事務局（松橋）	議事３と４は一緒に説明をさせていただければと思います。御意見言い足りないということがあれば後日、メール等でいただければと思います。
	（３）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　未来への取組について
	（４）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　つくばの学びの未来像について
事務局（松橋）	資料３について簡単に御説明いたします。こちらは、未来への取組というタイトルになっておりまして、こちらも前回の審議会ではイメージでお出ししたんですけれども、見開きで１ページでまとめました。こちらも前回の審議会で御意見がありました、ライフステージ、ライフコースということについては、右側のページのほうで説明を加えております。また、その下の３つのステージモデル、マルチステージモデルというところで御意見があった「老後」という言葉について、マルチステージモデルの方では、「生涯現役」と入れております。年をとっても社会とつながりを持って何かしらの活動をしているというイメージです。そして、こちらの一番下のとこ

	ろにあるのが、資料４のつくばの学びの未来像の導入というふうになっております。資料４では、こちらも前回は１ページ分だけお示ししたんですけれども、青少年、働く世代、子育て世代、障害者の方、あとはリタイア前からリタイア後の高齢者の５人のエピソードということで具体的に載せています。それぞれの市民が生涯学習を通してつながりができて社会にも参加し、貢献できるというイメージを持たせて、この計画がどんなつくば市やつくば市民を目指してどんな取組をしていくかということをこの未来像で伝えていければというページになっております。以上です。
武田会長	ありがとうございます。そうしましたらこの資料３、資料４と併せてこちらの方の御意見、御質問等ございましたら。
田中（秀）委員	資料３のマルチステージモデルのところですけれども。これ非常に柔軟性があって、ある年齢から引退するということではなくて、何でもいろんなことができますよという広がりがあるんですけど、いわゆるボランティアの他に、私は文化活動の代表をやっていますので、文化活動及びスポーツ活動というものをここに加えていただきたい。何か勉強ばっかりしているように見える。そうじゃなくて人生楽しまなきゃいけない。文化活動及びスポーツ活動というのを後ろのところに、ボランティアと同時に載せていただきたい。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
黒崎委員	今の文化活動をライフステージモデルの中に入れてというのはすごい大いに賛成です。今、STEM 教育というのが、アート、A が加わって STEAM 教育になったりして、芸術活動がすごく見直されているんじゃないかなと思いますので、ぜひそういった文化活動も取り入れてもらえるといいなと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

鈴木委員	このマルチステージモデルのボランティアのところなんですけれども、ボランティアも、別に引退してからというわけではなくて、学生からでもボランティア活動ができますので、このバーをもっと長くしていただけるといいかなと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、どうでしょうか。
黒崎委員	このマルチステージのモデルというのは一例と思うんですけど、例えば、起業が 60 歳前ぐらいからとかというのは現実に即していないような気がするので、現実に即したような一例になるともっといいんじゃないかなと思いました。ボランティアは、40 代以前の若い頃からやれるので、もっとバーが伸びてもいいのかなと思います。もう少し考えられるといいと思いました。
武田会長	起業も50代ではなくてもっと前倒しだとかということですよね。
黒崎委員	そうです。起業するのはもっと早いんじゃないかと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
長橋委員	２ページ目の「未来≒幸せのまち」というのが、何かぴんとこないんですけど、これを意味するところは、未来が幸せになるのか、未来が幸せのまちになることに向けてという意味なんでしょうか。
事務局（松橋）	この計画の目標年次である５年後だと、少し短いかもしれないんですけれども、将来幸せを感じられるまちに、これから取り組んでいって幸せにつながっていく、という感じです。うまく説明できないんですが。
長橋委員	ありがとうございます。それでしたらそういう文章にしたほうがいいのかなと思います。記号にすると、人によって感じ方が変わってしまうのかなと思ったので、検討していただければと思います。
武田会長	他、いかがでしょうか。
田中（秀）	最初の議題で「幸せのまち　つくば」という形に直しました。こ

	の資料３を読んでみたときに「幸せのまち」というのは何か独立していて変だなと思っていたので、御指摘にもあるように「幸せのまち　つくば」というふうにしていただきたいと思います。
萩原委員	２ページのタイトルの「施策を市民の活動に結びつける」を「つなげる」にしたほうがいいと思います。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがでしょうか。
事務局（松橋）	資料４について何か御意見あればお願いします。
田中（秀）委員	何度もくどいんだけども。できれば、高齢者のところに先ほど述べたような一例を入れてもらいたい。現実として、リタイアして困っている人たちがおるわけです。それを復帰させるための何か。困っている人の例か、成功している人の例かを入れて欲しい。つくば市の目玉みたいなものを打ち上げていくという、そういう姿勢が大事。全体やってきた平均点は上がるけれども、それは画期的なものでないし、つくば市ならではのものではない。期待したいのはつくば市ならではの誇りみたいなもの。世界をリードする、日本をリードする、そういうようなものをお願いしたいです。
事務局（松橋）	検討します。
武田会長	ありがとうございます。他、いかがですか。 ＜挙手する者なし＞ では、時間となってしまいましたので、第２回はこれで終了という形にさせていただきます。では事務局にお戻しいたします。
４　そのほか	
事務局（瓜阪）	事務局です。今日は長時間にわたり、皆様にも大変貴重な御意見と幅広い御指摘をいただきましてありがとうございます。先ほど武田会長からもありましたように、10 月の審議会がパブリックコメン

	ト前の最後の審議会と位置付けさせていただいておりますので、今日いただいた御意見を反映させたものを、できる限り早く、皆様にメール等でお知らせさせていただきたいと思います。そして、10月の審議会に向けて、皆様からいただいた御意見をもとに作り上げたものを、10月に再度お示しさせていただきたいと思います。お手数ではございますが、皆様、今一度ご検討いただきまして、多くの御意見をいただければと思っております。ありがとうございます。
5　閉会	
事務局（瓜阪）	では皆様、以上をもちまして、令和７年度第２回生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録につきましては、事務局で作成の上、委員の皆様に確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは皆様、本日はどうも、ありがとうございました。 以上

令和７年度第２回つくば市生涯学習審議会　次第

日時　令和７年（2025 年）８月 26 日（火）
午後２時
会場　つくば市役所　201 会議室

１　開　会

２　挨　拶

３　議　事
（1）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　基本理念について
（2）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開について
（3）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　未来への取組について
（4）（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　つくばの学びの未来像について

４　そのほか

５　閉　会

【配布資料】
資料１　　体系案
資料２　（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　施策の展開
資料３　（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　未来への取組
資料４　（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　つくばの学びの未来像
資料５　（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　今後の日程
資料６　　つくば市生涯学習審議会条例
資料７　　つくば市生涯学習審議会委員名簿
参考資料１　第４次計画目次（イメージ）

資料１

計画骨子の体系案

基本理念	基本方針	基本目標（資料２　施策の展開）	施策の方向性（資料２　施策の展開）	未来への取組（資料３）	未来像（資料４）
学びを楽しみ　学びがめぐり　学びでつながる　幸せのまち	1. 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進	1. 誰一人取り残さない学びの充実	1　参加機会の拡充 2　主体的な生涯学習活動の促進 3　学びの入口の充実	未来への取組（5年間で未来に向けて取り組むこと）	つくばの学びの未来像
		2. 多様で質の高い学びの充実	1　学びの情報提供・相談体制の充実 2　市民が集い学ぶ環境の充実		
	2. 地域全体で社会力を育み、いかす生涯学習の推進	3. 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	1　社会力への気づきを促す取組の充実 2　地域や地域のつながりを知るための取組の充実		
		4. 成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	1　成果をいかした活動の支援・促進 2　社会力を発揮できる多様な人材の育成		
		5. 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	1　ともに育てる学びのネットワークづくり 2　地域で学び続ける仕組みづくり		

資料2

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画
施策の展開（案）

※第４次計画書における第４章「施策の展開」相当

施策の展開（案）

基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、
参加しやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

【施策の方向性】

1 参加機会の拡充　　2 主体的な学びの促進　　3 学びの入口の充実

成果指標

成果指標名	現況 （R6 年度/2023 年度）	目標値 （R12 年度/2030 年度）
【第３次から】生涯学習に取り組んでみたい人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	81.9%	86.0% （4pt 増目指す）
【新】夜間、土日・祝日に開催した講座件数 （地域交流センター・つくば市民センター）	９件	20 件 （11pt 増目指す）
【新】障害者の生涯学習関連事業の参加者の満足度	94.0%	95.0% （1pt 増目指す/維持）

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

施策の方向性１　参加機会の拡充

市民がいつでも気軽に学ぶことができるよう、生涯学習活動への参加機会の拡充を図ります。そのため、年齢やライフステージ※等（子ども・若者世代や子育て世代、働く世代、リタイア直前の世代、高齢世代など）による多様なニーズを把握し、内容、曜日や時間帯、開催場所や開催方法など様々な観点から検討するとともに、民間等との連携を図り、柔軟かつ効果的に事業を見直し、提供します。また、講座開催時の託児サービスや手話通訳の提供など参加促進のための支援に努めます。

【参考】主な関連する事業、
地域交流センター活用事業、つくば市民センター活用事業、社会教育振興事業（乳児学級・幼児学級）

※ライフステージ：人の一生を年齢や節目となる出来事（就職、結婚、出産、退職など）で区切った段階のこと

施策の方向性２　主体的な学びの促進

一人ひとりが主体的に学び、自らの力を高めていけるよう、学習段階や関心に応じた学習機会を支援します。そのため、個人の楽しみや生きがいづくりから、生活の質の向上や自己実現につながる学び、高度な学習ニーズやキャリア形成に対応するための高等教育機関、研究機関、企業と連携したリカレント教育※やリスキリング※などの充実を図ります。

【参考】主な関連する事業
地域交流センター講座等事業、つくば市民センター活用事業、スポーツ教室事業、出前講座事業、読書推進事業、生涯学習スタートアップ事業

※リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくこと
※リスキリング：新しい職業に就くために、または今の職業で必要なスキルの変化に適応するために、必要なスキルを取得すること

施策の方向性３　学びの入口の充実　他の案：学びのサポートの充実、多様な学びの支援充実

誰一人取り残さない学びに向けて、障害者や外国人、そして学びを始めるきっかけがなかった市民など、これまで生涯学習に十分取り組むことが出来なかった市民への学びの機会の拡充を図ります。そのため、民間、教育機関など多様な主体との協働により、生涯学習活動（講座・セミナー・自主活動など）に係る支援を推進するとともに、学びと出会う機会を広げ、誰もが参加しやすい環境整備に努めます。

【参考】主な関連する事業
障害者の生涯学習関連事業、障害者スポーツ推進事業、働く婦人の家維持管理事業、働く婦人の家自主企画事業、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、多文化共生推進事業、チャレンジアートフェスティバル事業、おひさまサンサンフェスティバル事業、奉仕員養成研修事業

基本目標２　多様で質の高い学びの充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代が集い学べる環境を整えます。

【施策の方向性】

1 学びの情報提供・相談体制の充実

2 市民が集い学ぶ環境の充実

成果指標

成果指標名	現況 （R6 年度/2023 年度）	目標値 （R12 年度/2030 年度）
【新】ＳＮＳやアプリ等を活用した情報発信回数	46 回	50 回
【第３次から】地域交流センターの利用者数	417,191 人	500,000 人 （R 元年度の実績を目指す）
【新】特別教室開放利用件数	63 件	80 件

施策の方向性１　学びの情報提供・相談体制の充実

市民が、自身の関心・ライフステージなどに応じた事業や地域団体の活動情報にアクセスしやすい環境づくりを進めます。そのために、情報の収集・整理を行うとともに、関係各課や団体と連携し、市広報紙や SNS など多様な媒体を活用した効果的な情報発信を行います。また、大学や企業等と連携し、市民が一元的に情報を得られる仕組みも検討します。

さらに、新たに学び始めたい、活動をしたい市民の参加を促進するため、関係各課や各施設と連携し、相談体制の充実を図ります。

【参考】主な関連する事業
広報力向上事業、生涯学習指導者情報提供事業、生涯学習相談事業、障害者の生涯学習啓発事業、つくスマアプリの活用

施策の方向性２　市民が集い学ぶ環境の充実

多様な世代の人々が集い、交流し、学び合える場づくりを支援します。そのため、図書館や市民交流施設、スポーツ施設、学校の体育施設や特別教室、今後検討する若者の居場所などを活用した事業を推進するとともに、適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図ります。また、活動団体や企業等との連携により、身近な地域で集い、学び合える場の充実を目指します。

さらに、つくば科学フェスティバルや図書館による屋外イベントなど、市民が集い、学びを楽しむ機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる環境の充実を推進します。

【参考】主な関連する事業
図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、若者のための居場所検討、読書環境の充実と集いの場の創出、特別教室市民利用事業、つくば科学フェスティバル事業、つくばちびっ子博士事業

基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進

社会力への気づきを促し、ファーストステップを踏みだす市民の意識醸成を図ります。

【施策の方向性】

1 社会力への気づきを促す取組の充実

2 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

成果指標

成果指標名	現況 （R6 年度/2023 年度）	目標値 （R12 年度/2030 年度）
【第３次から】自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 （R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）	44.1%	50.0% （5.9pt 増目指す）
【新】「社会力」を活かした今後の活動意向 （社会力養成講座参加者アンケート）	79%	90.0%
【新】出前講座参加人数	6,691 人	8,000 人

基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

施策の方向性１　社会力への気づきを促す取組の充実

市民が学びの成果をいかして、地域社会に貢献する環境づくりの第一歩として、他者を積極的に理解し良好な関係性を築き、より良い社会を作ろうとする力である「社会力」について、一層の理解促進と啓発を図ります。そのため、市広報紙、SNS などを通じて周知し、市民が気づきを得て理解が深められるよう推進します。

また、「社会力」人材育成事業などの各種講座や青少年の体験学習などの機会を提供し、自ら地域や社会に関心を持ち、主体的に関わろうとする意識の向上を図ります。

【参考】主な関連する事業
つくば人間学講座、「社会力」人材育成事業、青少年体験学習事業、出前講座事業

施策の方向性２　地域や地域のつながりを知るための取組の充実

地域や社会に主体的に関わり、学びの成果をいかすきっかけづくりとして、市民がつくば市や身近な地域への理解を深める機会の充実を図ります。そのため、多様な事業を通して、つくば市や地域の歴史・文化、自然環境、また多様な価値観などを知る機会と場を提供するとともに、地域と関わる機会の充実を図ります。あわせて、これらの取組を通じ、つくば市や地域に対する愛着や誇りを育みます。

【参考】主な関連する事業
文化財展示講座事業、多文化共生推進事業、筑波山地域ジオパーク推進事業、自然環境教育事業、出前講座事業、青少年体験学習事業、ゼロカーボン教育・啓発事業（仮称）、つくば科学出前レクチャー事業、つくばちびっ子博士事業

基本目標４　成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

【施策の方向性】

1 成果をいかした活動の支援・促進

2 社会力を発揮できる多様な人材の育成

成果指標

成果指標名	現況 （R6 年度/2023 年度）	目標値 （R12 年度/2030 年度）
【新】青少年体験学習事業参加者数	〇人	〇人
【新】誰かの役に立つことへの満足感を感じる人の割合（R6 生涯学習に関する市民意識アンケート）問 5①b	84.5%	90.0% （5.5pt 増目指す）
【新】地域交流センター登録団体数	759 団体	800 団体

基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

施策の方向性１　成果をいかした活動の支援・促進

地域で活躍する市民・団体が世代交代や活動の活性化を図り、楽しみながら持続的に学べるよう、適切な支援に努めます。また、市民が学んだ成果をいかしながら主体的な活動を広げていけるよう、文化団体やサークルなどの育成に努めます。

さらに、児童生徒や青少年、高齢者の活動支援を担う団体、ボランティア団体など、地域貢献に取り組む団体の積極な支援により、多様な団体が地域で活躍できる体制の充実を図ります。

【参考】主な関連する事業
高齢者生きがい支援に関する事業、文化団体等育成支援事業、（公財）つくば文化振興財団支援事業、つくば市民文化祭開催事業、青少年育成団体支援事業、青少年体験学習事業、市民活動支援事業

施策の方向性２　社会力を発揮できる多様な人材の育成

「社会力」の気づきによって、自ら学んだことを地域に還元したい、仲間と共に学びを通して地域に貢献したい、地域課題の解決に繋がる活動を始めたいなど、一人ひとりの市民の想いが実現できるよう、様々な機会と場を通して社会力を発揮できる人材を育成します。ボランティアなど、地域づくりに貢献する人材の養成にも取り組みます。

また、次の世代の活動を担う若者が自身の将来の姿を具体的に描きながら活動に関われるよう、ロールモデル（活動のお手本となる市民）から学べる機会を増やします。特に次世代の活動をけん引するリーダーとなる人材の育成を積極的に推進します。

【参考】主な関連する事業
生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーター事業、つくば市 OB 人材活動支援事業、地区リーダー勉強会事業、青少年体験学習事業、図書館ボランティア事業

基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが
発展・循環するしくみづくりを進めます。

【施策の方向性】

1 ともに育てる学びのネットワークづくり

2 地域で学び続ける仕組みづくり

成果指標

成果指標名	現況 （R6 年度/2023 年度）	目標値 （R12 年度/2030 年度）
【新】つくば SDGs パートナーズ参加団体数	○団体	○団体 （を目指す）
【新】地域学校協働活動参加ボランティア数	29.0%	35.0% （5pt 増目指す）
【新】社会力がいかされた地域になっていると思う人の割合（R6 生涯学習に関する市民アンケート）問 10	15.9%	25.0% （約 10pt 増目指す）

施策の方向性１　ともに育てる学びのネットワークづくり

市内の各施設が、それぞれの立地や特性をいかしながら、地域の「学びの拠点」となるように、人と人がつながり地域で活動できるよう機会づくりを積極的に支援します。あわせて、「地域づくり」「人づくり」を目指し、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも地域における「学びの拠点」ととらえ、拠点間の連携、情報の連携、人的交流を促進し、学びのネットワークを構築します。

【参考】主な関連する事業
地域まちづくり支援事業、地域交流センター講座等事業、つくば市民センター講座等事業、青少年健全育成事業、つくば未来塾事業、つくば SDGs パートナーズ事業、コミュニティ・スクール運営事業

施策の方向性２　地域で学び続ける仕組みづくり

地域においては、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校、大学・研究機関・企業などとの連携と適切な機能分担を促進します。そして、このように多様な連携を継続的に発展させることで、つくば市民の学びの広がりや新しい人のつながりが世代を超えて展開していくことを目指して、地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

【参考】主な関連する事業
市民活動支援事業、コミュニティ・スクール運営事業、地域振興推進事業

資料3

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画
未来への取組（案）

未来への取組

本計画では「基本理念」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の展開」、「施策の方向性」を位置づけています。

「施策の方向性」には「市の関連する事業」をはじめとする施策・事業が紐づいており、これにより市民の生涯学習活動を支援していく流れとなっています。

つくば市の５年後の未来に向けて、「未来への取組」である「施策・事業」が市民に届くよう、「施策・事業」が市民の活動に繋がっていく様子と、そのイメージを「未来ストーリーの住人」の物語に乗せて示します。

未来≒幸せのまち　に向けて

基本理念に掲げる「幸せのまち」は、生涯学習を通して、市民一人ひとりが学びたい、人と繋がりともに学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習を通して活動している市民は誰もが実感する想いです。生涯学習の施策は、それを実現するためのものです。

一方、「生涯学習ってなんだろう？」「自分には関係ない」という市民にとって、生涯学習は、「幸せのまち」とは結び付かないでしょう。生涯学習の施策は、このような市民に取組んでもらうためのものでもあります。

つくばの生涯学習は、すべての市民に向けて扉を開き、様々な段階に応じて支援ができるように取り組んでいくものです。

施策を市民の活動に結びつけるには

生涯学習の施策をどのように市民の活動に結び付けるかが、市民の参加率を上げていく上でも、学習活動を深めていく上でも重要なポイントです。

市民は社会生活において、様々なポジションとバックグラウンドを持っていることから、生涯学習に求める取組も、一人ひとり違います。

市民がどのようなライフステージにあるか、どのようなライフコースを歩んでいるかというところからニーズを読み取り施策・事業と市民の活動を結びつけていきます。

人生 100 年時代のライフコースの考え方

ライフステージとは、人が生まれてから死ぬまでの間に経験する、様々な段階のことです。それぞれのライフステージは、年齢や社会的な役割、生活環境の変化によって区分され、結婚、出産、就職、退職などが節目になります。

ライフコースとは、個人が辿る人生の経歴や軌跡全体を指します。ライフステージは、このライフコースを構成する要素の一つです。本計画においてライフコースは、ライフステージの積み重ねのようなものと捉えます。

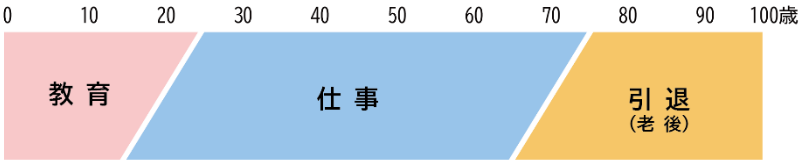
この計画は、様々なライフステージに対応し、市民がライフコースを通して生涯学習に取り組もうとする「現時点」から５年後の未来に向けての施策・事業を示しています。

市民一人ひとりの人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、５年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っています。

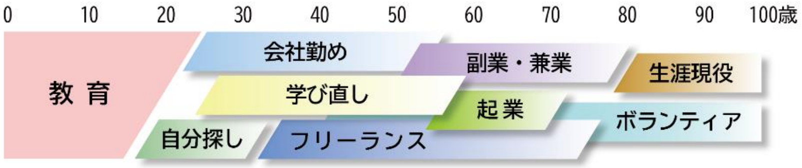
また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の３ステージモデルのライフコース「教育～仕事（労働）～引退（老後)」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行していることも踏まえます。

つくば市では、マルチステージモデルのライフコースを想定し、この計画で推進する施策・事業がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。

「３つのステージ」モデル➡



「マルチ・ステージ」モデル➡



「未来ストーリーの住人」の５つの物語

本計画では、様々なライフコースを生き、それぞれのライフステージにある「未来ストーリーの住人」をモデルとして設定し、つくば市で学んでいる姿を示します。

計画に示す施策・事業をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているか、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにある「住人」を通してみていきます。また、一人の人生には様々な人々が関わっており、ともに学ぶ仲間には、別のストーリー（ライフコース）があることも、あわせながら、「つくばの学びの未来像」を描きます。

※ページのデザインはイメージ（仮）です。

資料４

青少年

みんながいて、なんでもできる学びの場所

高野さん（13 歳） つくば市居住歴13 年　生まれも育ちもつくばで、現在は市内の中学校に通う中学１年生。両親もつくば生まれ、つくば育ちです。

あなたの学びのきっかけは？

小学校4年生の夏休み前のある日、家の近所の児童クラブで遊んでいたところ、スタッフのお姉さんに「**今度うちで科学教室やるんだけど参加してみない？**」と誘われたのがきっかけです。ちょうど自由研究のテーマを探していたところだったので「これはとっておきだ♪」と思い参加しました。

どのような講座に参加しましたか？

日ごろ「なぜ？」と思っていることを科学で解き明かしてくれるような内容で、とても楽しかったです。あと、**近所の知り合いのおじさんが教えに来てくれて**びっくりしました！つくばの研究所で働いている科学者だったなんて……!

科学講座への参加をきっかけに、他にも多くのイベントに参加しました。父と一緒に「**親子で学ぶ宇宙センター（JAXA）見学ツアー**」に行ったり、**近所の人たちと一緒に餅つきをしたり、工作をしたり。**学校の友達と遊ぶのとはまた違った楽しさがありました。

他にはどんなものに参加しましたか？

あるとき、新しくできた近所の友達と「地域のみんなが楽しめる新しいお祭りをやりたいね」という話をしたのをきっかけに**地域の人を巻き込んで豊里地区の空き地を使った「まちのひろば」をつくる**ことになりました。私たちが出したアイデアを近所の人たちが一緒に真剣に考えてくれて、まずは舞台を作ることになり、**建物に詳しい市民活動団体の人たちも手伝いに来てくれました。**みんなと一緒になって竹を切り出し、加工して組み立てるのは楽しかったです。出店は趣味でお菓子や作品を作っている地域の人に協力してもらいました。また、地域の子どもの作品を展示したり、得意なことを発表したりできる会場にもしました！

学んだことで何か変化したことは？

自分の周りには両親とか学校の友達だけじゃなくていろんな人がいて、自分一人では難しいことでも周りの人の知恵を借りればできないことはないんじゃないかと思うようになりました。

中学生になって部活や勉強で大変ですが、広場をより楽しく使うためのアイデアは沢山浮かんできます。それを形にできるよう、またみんなと協力して楽しく頑張りたいです！

※ページのデザインはイメージ（仮）です。

働く世代

仕事のスキルアップをきっかけに広がった世界

横田さん（27 歳） つくば市居住歴3年　大学院卒業後、就職を期につくば市に。建築士として市内の企業に勤めています。現在は一人暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

勤めている会社のホームページ更新の担当が私になり、デザイナーの方とやり取りするにあたり基礎的な知識を学ぶために市の講座を受講したのが始まりでした。今後の自分のキャリアにも活きてくるかもしれませんし、良い機会だと思ったのです。どこで学ぼうかなと考えていた矢先、家の近くにある大穂交流センターで**市が運営する「学びのポータルサイト」**のポスターが目に入りました。サイトを見てみると、**欲しい情報にすぐにたどり着けるようになっており、まさに自分の求めていた講座に出会えました。**

どのような講座に参加しましたか？

はじめは**「初めてのウェブデザイン講習会」**に参加しました。仕事終わりに行くことができたのが良かったですね。もちろんデザイナーさんとのやり取りでも役立ちました。これをきっかけにいろんな講座に参加し、今ではつくば市についてもっと知りたいと思うようになりました。

つくば市は**働く世代向けの講座が充実している**のにも驚きましたが、他にも多種多様な講座があり、**最近は会社の同僚にも勧めました。**

他にはどんなものに参加しましたか？

以前から**自分のスキルや知識を生かして社会貢献できる場**があればなあと思っており、ポータルサイトを見たところ、市内の古民家を研究している**市民活動団体**の存在を知りました。「これだ！」と思い参加してみると同業種の方も多く、すぐに馴染むことができました。他にも、**市の職員さんや学校の先生など異なる分野の方々とも出会えたこと**は私にとって新鮮で、また市内の地域活動との交流の中で得た気づきが、結果として仕事にも活かされる場面があり、参加して本当によかったと感じています。

学んだことで何か変化したことは？

以前は割と一人で過ごす時間が多く、たまに大学時代の友人と会うことがあるくらいで交友関係が広がらなかったのですが、**講座への参加や団体への入会をきっかけに市内の知り合いが増えました。**あと図書館に行く機会も増えました。団体の活動の一環で図書館へ調べ物をしに行ったときに、**「ライブラリーピクニック」**なる取り組みがあるのを知ったのですが、休日に公園の緑の下で読書をするのは気持ちいいですよ。

※ページのデザインはイメージ(仮)です。

子育て世代

子育ての中で見つけた、わたしの“居場所づくり”

小林さん(46 歳) つくば市居住歴 36 年 大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に戻る。夫婦2人＋子3人(幼児1、小学生2)の5人暮らし。

あなたの学びのきっかけは？

出産前は営業職、出産後は在宅で営業アシスタントをするように。子どもとの時間を大切にしたくて変えた働き方でしたが、人との関わりの少なさに徐々に寂しさを感じていました。そんな中、子どもの保育参観後に開催される**「子育て中でもできる！地域参加のはじめかた(親子参加 OK！)」**の講座の案内が。地域に関わることは、自身の子どもたちにとっても、先生や保護者以外の人と触れ合える良い機会になるのでは？と思い参加しました。

参加した講座はどうでしたか？

講座は連続講座で、地域とつながるための方法や取り組み例の紹介、参加者の**“ちょっと得意なこと”をどう活かせるか**を話し合ったり、**地域交流センターで子ども食堂のお手伝い体験**もしたりしました！講座会場は保育園以外に、学校の特別教室、近所のカフェを利用した時もありました。**毎回色々なところに遊びに行くような感覚で、地域を良く知る良い機会にもなりました。**

地域にどのように関わることにしたのですか？

講座の参加者同士で交流を続けるなか、**「自宅の空きスペースを活用して、多世代の学び合いの場をつくりたい！」**という方の思いに賛同し、一緒に立ち上げに加わることにしました。私は**仕事でのスキルを生かして仲間集めや行政相談などを担当**し、他メンバーも、無理のない範囲で協力し合いました。立ち上げ作業が大詰めの時は、夫に育児や家事をがんばってもらいました！つくば市では、**家庭内でお互いの学びを応援する考えも育ってきている**のが良いです。

実際にはどのような場所になっていますか？

誰もが気軽に集まれる居場所となっています。私の子どもも利用しており、年下のお世話をしたり、中高生や地域の大人に勉強を教わったりと、自然に社会と関わっています。**運営にはシルバー人材の方や、有償・無償ボランティアの方など様々な方が関わっています。**私も週に一度お手伝いをしています。訪れる人との会話を楽しみつつ、地域の課題解決に向け、専門家を呼んで勉強会をしたり、地域の人と人とを結ぶマッチングサービスについて学んだりと、**地域を良くする活動に取り組んでいます。**

※ページのデザインはイメージ(仮)です。

障害者

世界が広がるつくばの学び

田中さん(52 歳) つくば市居住歴2年 市内企業勤務。夫婦2人+息子1人(高校３年生)の3人暮らし。

あなたの学びのきっかけは？

私には精神障害があります。子どもの進学を機につくば市に引っ越し、私も市内の企業へ転職しました。慣れない仕事に悩んでいたとき、同僚が「市の生涯学習講座がおススメですよ！」と声をかけてくれたんです。障害の有無に関係なく自由に学べる環境と聞き、少し関心を持ちました。

どのような講座に参加しましたか？

特性上、人が多い場所が苦手なため、初めはオンラインで参加しました。参加してみると、字幕や手話通訳もありました。講座のテーマは「職場のコミュニケーション術」で、笑いも交えた講師の話が心に残りました。自分がわからなかったところをアーカイブ視聴で何度も見直せたのも良かったです。さらに、市では障害の種類に沿った学びの場も設けていると聞き、安心感が持てました。それで、今度はリアルで参加してみようと思ったんです。

他にはどんなものに参加しましたか？困ったことは？

国際交流セミナー、障害者スポーツ教室、自然体験会など、時にはオンライン、時にはリアルで参加し、参加を重ねるほどいろんな人・知識に出会え、世界が広がっていきました！課題はハード面・ソフト面とありますが、サポートしてくれる人もいますし、何より参加者同士で助け合える雰囲気があるので、今では私も同じ障害のある人などに講座参加時のコツを教えるなど支える立場になることも増えました。

学んだことで何か変化したことは？

つくば市が大好きになり、市の魅力を伝えたいと思い個人的に SNS で発信していたら「あなたの地域について、もっと知りたい！」とインドの方からメッセージが届き、セミナーで出会ったインド人の友人の力を借りながら交流をはじめました。人が多い場所が苦手な私が、つくばの学びに参加したことで、多くの人と関われていて、世界ともつながっているなんて！今後も、つくば市は、だれもが多くの選択肢を持ち、選び、成長できるまちなんだよ！ということを伝えていきたいです。

※ページのデザインはイメージ（仮）です。

高齢者【リタイア前～リタイア後】

55歳の誕生日、人生が少し動き出した日

中村さん（70 歳） つくば市居住歴 35 年　転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦2人＋犬1匹暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた 55 歳の誕生日。

その日、我が子からふと言われた言葉が心に残りました。

「私たちばかりに構ってないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」 その何気ないひと言が、**自分のこれからについて考える**きっかけになりました。

ちょうどその頃、**市の SNS で「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけた**んです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！

参加した講座はどうでしたか？

仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、**趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについて**も学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験が生かせて、さらに、地域の人と関われることがいいなと思うようになりました。

実際にはどんなことを始めたのですか？

研究員として働いていた当時は、負担の少ない形で**科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わる**ことにしました。

地域の子どもや大人が一緒になって楽しそうに実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感があって、何とも言えないやりがいを感じていました。

その後、活動を続けてみていかがですか？

仕事を引退して時間ができた今は、**団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり**、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を**次の講師となるように育てたり**しているところです。

ちなみに、活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身ともに健康的な生活を送っています。思い切って一歩踏み出したことで、人生がより豊かになりました！

資料５

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画　今後の日程

（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画の策定に向けて、今後の主な日程は、以下のとおりです。

日程	事項
令和７年（2025 年）	
８月 26 日	令和７年度第２回つくば市生涯学習審議会
９月中旬	第２回審議会で出た意見をもとに修正案作成 →メール等で確認
10 月末	令和７年度第３回つくば市生涯学習審議会
11 月初	パブリックコメント実施前の最終計画案の確定
12 月	広報つくばでパブリックコメント実施の広報
12 月上旬～	パブリックコメント実施（１か月程度）
令和８年（2026 年）	
１月中旬	パブリックコメント終了
２月中旬	令和７年度第４回つくば市生涯学習審議会 →市長への答申案の審議
２月下旬	市長に答申（新基本計画）、実施結果を公表 →答申を受けて庁議で審議し、市として正式に決定
３月中旬	新基本計画の冊子完成・配布
４月	新基本計画による各事業の実施

資料６

○つくば市生涯学習審議会条例

平成5年6月25日
条例第25号

（設置）

第1条　市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動(以下「生涯学習」という。)の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

（所掌事務）

第2条　審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

(1)　生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項

(2)　その他生涯学習の推進に必要な事項

（組織）

第3条　審議会は、委員25人以内で組織する。

2　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1)　市議会議員

(2)　各種団体等の代表者

(3)　学識経験者

(4)　市内に在住し、在勤し、又は在学する者

（平9条例43・平30条例29・一部改正）

（任期）

第4条　委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　委員は、再任されることができる。

3　前条第2項第1号又は第2号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

（平9条例43・一部改正）

（会長及び副会長）

第5条　審議会に会長及び副会長を置く。

2　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3　会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（平9条例43・一部改正）

（会議）

第6条　審議会の会議(以下「会議」という。)は、会長が招集する。

2　会長は、会議の議長となる。

3　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（部会）

第7条　審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2　前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

（委任）

第8条　この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則(平成9年条例第43号)

この条例は、公布の日から施行する。

附　則(平成30年条例第29号)

この条例は、公布の日から施行する。

資料７

つくば市生涯学習審議会委員

任期：令和6年8月１日 ～ 令和8年7月31日

※令和7年(2025年)6月９日現在

No.	氏名	よみ	任命区分
1	石川 由美子	いしかわ ゆみこ	市民委員
2	石塚　一夫	いしつか かずお	各種団体等の代表者 つくば市シルバークラブ連合会　会長
3	石原　亜矢子	いしはら あやこ	各種団体等の代表者 つくば市学校長会（つくば市立要小学校　校長）
4	黒崎 博	くろさき ひろし	市民委員
5	後藤　真紀	ごとう まき	各種団体等の代表者 つくば市福祉団体等連絡協議会　会長
6	小森谷　さやか	こもりや さやか	市議会議員
7	鈴木　朱里	すずき あかり	各種団体等の代表者 NPO法人ままとーん　代表理事
8	武田　直樹	たけだ なおき	学識経験者 NPO法人フュージョン社会力創造パートナーズ　理事長
9	田中　秀夫	たなか ひでお	各種団体等の代表者 つくば市文化協会　会長
10	田中　依子	たなか よりこ	市民委員
11	中嶋　修	なかじま おさむ	各種団体等の代表者 青少年を育てるつくば市民の会　副会長
12	長橋　進也	ながはし しんや	各種団体等の代表者 つくば市PTA連絡協議会　顧問
13	萩原　武久	はぎわら たけひさ	各種団体等の代表者 つくば市スポーツ協会　会長
14	福井 正人	ふくい まさと	市民委員
15	溝上　智恵子	みぞうえ ちえこ	学識経験者 国士舘大学　特任教授
16	山崎　誠治	やまざき せいじ	各種団体等の代表者 つくば市ボランティア連絡協議会　推進チーム　チーム長

敬称略、50音順

※つくば市生涯学習審議会条例第3条第2項
　委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。
(1) 市議会議員
(2) 各種団体等の代表者
(3) 学識経験者
(4) 市内に在住し、在勤し、又は在学するもの

参考資料１

※第４次計画（目次）イメージ

第１章【計画策定の趣旨と基礎的な状況】

1-1　計画策定の目的
1-2　計画の位置づけ
1-3　計画の期間
1-4　計画策定に係る基本的考え方
1-5　生涯学習を取り巻く社会潮流
1-6　つくば市の人口等の状況
1-7　つくば市の主な生涯学習関連施設の状況

令和６年度
第３回審議会
参考資料１

第２章【生涯学習推進をめぐる現況と課題】

2-1　市民意向の動向
2-2　第３次計画における取組状況
2-3　課題の整理

令和６年度
第３回審議会
資料２

第３章【計画の基本的な考え方】

3-1　基本理念
3-2　基本方針
3-3　基本目標
3-4　施策の体系

令和７年度
第１回審議会
資料 4-1

第４章【施策の展開】

基本方針１　誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進
4-1　基本目標１　誰一人取り残さない学びの充実
4-2　基本目標２　多様で質の高い学びの充実
基本方針２　地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進
4-3　基本目標３　気づきとつながりを育む意識づくりの推進
4-4　基本目標４　成果をいかした活動の支援と人材育成の推進
4-5　基本目標５　持続可能な学びとつながりの好循環の創出

本日
資料２

第５章【計画の推進】

5-1　未来への取組
5-2　つくばの学びの未来像
5-3　計画の進行管理と推進体制
※5-3 は次回素案とりまとめ時に提示予定

本日
資料３と４